

『α』専用サポートサイト

製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法、使用可能なメモリーカード、アクセサリ互換情報に加えて、撮影方法など写真をもっと楽しみたいときに役立つ情報を掲載しています。

<http://www.sony.jp/support/ichigan/>



ソフトウェアのサポート情報

PlayMemoriesシリーズなどのソフトウェア・アプリケーションに関する情報を掲載しています。

<http://www.sony.jp/support/r/disoft/>

『α』公式サイト

レンズ交換式デジタルカメラの最新情報、撮影テクニック、アクセサリなどに関する情報を掲載しています。

<http://www.sony.jp/ichigan-a/>

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル……………0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話…050-3754-9577

修理相談窓口

フリーダイヤル……………0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話…050-3754-9599

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に

「402」+「#」

を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX(共通) 0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>



4688165030

©2016 Sony Corporation
Printed in Thailand

SONY

4-688-165-03(1)

α99 II

レンズ交換式デジタルカメラ

α99 II

Aマウント

取扱説明書



ヘルプガイド(Web取扱説明書)

Web上のマニュアル「ヘルプガイド」も
ご覧ください。パソコンやスマートフォン
でご覧いただけます。

<http://rd1.sony.net/help/ilc/1630/ja/>

ILCA-99M2

警告 安全のために

→ 234 ~ 238ページもあわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる感電や傷害など人への危害、また火災などの財産への損害を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。



「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐに相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・
においがしたら
煙が出たら

- ➔
- ① 電源を切る
 - ② 電池をはずす
 - ③ 相談窓口につながる

裏表紙に相談窓口の連絡先があります。

危険 万一、電池の液漏れが起きたら

- ① すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂のおそれがあります。
- ② 液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で十分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。
- ③ 液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。
- ④ 液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



プラグをコンセントから抜く



指示

電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含まれます。

ヘルプガイドを 活用しましょう！



ヘルプガイドは、パソコンやスマートフォンでご覧いただける、Web上のマニュアルです。メニューの詳細や応用的な使いかた、最新情報などを説明しています。



ここから
アクセス

<http://rd1.sony.net/help/ilc/1630/ja/>

ILCA-99M2 ヘルプガイド



取扱説明書(本書)



基本的な操作を説明しています。

本機をすぐに使ってみたい方は、「スタートガイド」(34ページ)をご覧ください。初めてのシャッターを切るまでに必要な準備を説明しています。

カメラ内ガイド



MENU(メニュー)の説明をカメラの画面に表示する機能です。

撮影中でもサッと調べられて便利です。

この機能を使うには、あらかじめ設定が必要です。設定方法は、ヘルプガイドにアクセスして「カメラ内ガイド」を検索してみてください。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

安全のために.....	2
ヘルプガイドを活用しましょう！.....	3
お使いになる前に必ずお読みください.....	12

撮影の準備

本体と付属品を確認する.....	16
各部の名称.....	17
本体前面.....	17
本体後面.....	18
本体上面.....	20
本体側面.....	22
本体底面.....	24
基本的な操作.....	25
マルチセレクターの使いかた.....	25
フロントマルチコントローラーの使いかた.....	25
Fn (ファンクション) ボタンの使いかた.....	27
クイックナビの使いかた.....	28
画面表示を変える.....	30
画面表示を切り換える (撮影/再生).....	30
DISP ボタン (背面モニター / ファインダー).....	32

スタートガイド.....	34
ステップ1: バッテリーを充電する	34
ステップ2: バッテリーを本機に入れる	35
ステップ3: メモリーカードを本機に入れる.....	36
ステップ4: レンズを取り付ける.....	38
ステップ5: 電源を入れて日付と時刻を設定する.....	39
ステップ6: オートモードで撮影する	41

撮影

静止画を撮影する.....	43
フォーカス(ピント)を合わせる.....	45
フォーカスモード.....	45
オートフォーカス	48
オートフォーカスの仕組み	48
フォーカスエリア.....	50
AF/MFコントロール	53
AFオン	54
瞳AF.....	54
AFレンジコントロール	56
中央ボタン押しロックオンAF	58
☒ AF補助光	59
選択可能なフォーカスエリア	60
フレキシブルスポット点数	61
AF微調整	62
AFシステム	64
マニュアルフォーカス.....	65
ダイレクトマニュアルフォーカス(DMF)	66
ピント拡大.....	66
ピーキングレベル	68

ドライブ機能を使う(連写/セルフタイマー).....	69
連続撮影.....	70
セルフタイマー.....	72
セルフタイマー(連続).....	73
連続ブラケット.....	74
1枚ブラケット.....	75
ブラケット撮影時のインジケータ.....	76
ホワイトバランスブラケット.....	76
DROブラケット.....	77
静止画の画像サイズ/画質を選ぶ.....	79
 画像サイズ.....	79
 横縦比.....	80
 画質.....	80
APS-C/Super 35mm.....	81
撮影モードを変える.....	83
モードダイヤルの機能一覧.....	83
AUTO ( おまかせオート).....	84
オート撮影の特徴.....	85
P プログラムオート.....	85
A 絞り優先.....	86
S シャッタースピード優先.....	87
M マニュアル露出.....	88
M バルブ撮影.....	89
 1 /  2 の呼び出し.....	90
 動画/スロー&クイックモーション.....	91
露出/測光をコントロールする.....	93
露出補正.....	93
測光モード.....	94
スポット測光位置.....	95
AEロック.....	96
ゼブラ.....	97

明るさ/コントラストを自動補正する	98
Dレンジオプティマイザー (DRO)	98
オートHDR	99
ISO感度を選ぶ	101
ISO AUTO低速限界	102
ズームする	103
本機で使用できるズームの種類	103
全画素超解像ズーム/デジタルズーム(ズーム)	104
ズーム倍率について	105
ホワイトバランス	106
[カスタムセット]で基準の白を取り込む	107
画像の仕上がりを設定する	108
クリエイティブスタイル	108
 色空間	111
シャッターの設定	112
 フリッカーレス撮影	112
電子先幕シャッター	113
手ブレを補正する	114
手ブレ補正設定	114
ノイズリダクション	116
 長秒時NR	116
 高感度NR	117
顔検出	118
フラッシュ (別売)を使う	119
フラッシュモード	120
調光補正	121
FELロック	121
調光モード	123
ワイヤレスフラッシュ撮影	124
シンクロナルコード付きフラッシュを使う	125

動画撮影

動画を撮影する	126
動画の記録フォーマットについて	128
📅 記録方式	129
📅 記録設定	130
S&Q スロー & クイック設定	132
音声記録	134
録音レベル	134
📅 マーカー設定	135
📅 4K映像の出力先	136

再生

画像を見る	138
静止画を再生する	138
再生画像を拡大する(再生ズーム)	139
記録画像を自動的に回転させる (記録画像の回転表示)	140
動画を再生する	140
動画から静止画作成	142
一覧表示で再生する(一覧表示)	142
静止画と動画を切り換える(ビューモード)	143
再生するメモリーカードを選ぶ(再生メディア選択) ...	144
メモリーカード間で画像をコピーする(コピー)	144
スライドショーで再生する(スライドショー)	145
プロテクト(保護)する	146
画像を削除する	147
表示中の画像を削除する	147
不要な画像を選んで削除する(削除)	147
テレビで見る	149
HDMIケーブルを使ってテレビで見る	149

カメラのカスタマイズ

よく使う設定を登録する	152
登録	152
ボタンにお好みの機能を割り当てる	153
カスタムキー（撮影） / カスタムキー（再生）	153
ファンクションメニュー設定	154
撮影前/撮影後に画像を確認する	155
オートレビュー	155
絞りプレビュー	155
撮影結果プレビュー	156
モニター / ファインダーの設定	157
FINDER/MONITOR	157
ブライต์モニタリング	158
メモリーカードの設定	159
フォーマット	159
ファイル番号	160
ファイル名設定	160
記録モード	161
記録フォルダー選択	162
本体の設定	163
パワーセーブ開始時間	163
リモコン	163
HDMI設定	164
PCリモート設定	168
カメラを初期設定に戻す	170
設定リセット	170

ワイヤレス機能を使う

Wi-Fi/NFCワンタッチ/Bluetooth機能を使う	171
カメラを無線アクセスポイントに接続する	172
画像に位置情報を記録する	173
事前準備	173
実際の操作	174

パソコンでできること

本機とパソコンを接続する	177
USB接続方法を設定する	177
パソコンと接続する	178
パソコンとの接続を切断する	178
パソコン用ソフトウェアの紹介	180
PlayMemories Home	180
Image Data Converter	180
Remote Camera Control	181

MENU一覧／画面表示一覧

MENUの使いかた	182
MENU一覧	183
📷1 (撮影設定1)	183
📷2 (撮影設定2)	191
📶 (ワイヤレス)	195
▶ (再生)	196
🛠 (セットアップ)	198
モニターに表示されるアイコン一覧	202
表示パネルの表示	207

困ったときは

困ったときにすること	208
警告表示	216

本機について／使用上のご注意

イメージセンサーをクリーニングする	219
保証書とアフターサービス	222
主な仕様	223
バッテリーの使用時間と撮影可能枚数	223
本機で使用できるメモリーカード	224
静止画の記録可能枚数	225
動画の記録可能時間	226
主な仕様	229
安全のために	234

索引.....239

Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能の詳細については、別紙の「Wi-Fi/NFCワンタッチ機能ガイド」またはヘルプガイド(3ページ)をご覧ください。

お使いになる前に必ずお読みください

ヘルプガイド(3ページ)の「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

表示言語について

本機では、日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

撮影・再生に際してのご注意

- フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。
- 必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

本機の取り扱いについてのご注意

- 本機は防じん、防滴性に配慮して設計されていますが、防水性能は備えていません。
- 本機や付属品などは乳幼児の手の届く場所に置かないでください。付属品やメモリーカードなどを飲みこむ恐れがあります。万一飲みこんだ場合は、直ちに医師に相談してください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、また、記録内容が破損・消滅した場合、画像や音声など記録内容の補償については、ご容赦ください。大切な記録内容はバックアップを取っておくことをおすすめします。

モニターおよびファインダー、レンズ、イメージセンサーについてのご注意

- モニターやファインダーは、有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られています。黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。
- モニターを持って本機を持ち運ばないでください。
- レンズやファインダーを絶対に太陽や強い光源に向けたままにしないでください。レンズの集光作用により、発煙、火災、ボディやレンズ内部の故障の原因になります。やむを得ず太陽光などの光源下におく場合は、レンズキャップを取り付けてください。
- 逆光での撮影時は、太陽を画角から充分にずらしてください。太陽光がカメラ内部で焦点を結び、発煙や火災の原因となることがあります。また、太陽を画角からわずかに外しても発煙や火災の原因となることがあります。
- レンズに向けてレーザーなどの光線を直接照射しないでください。イメージセンサーが破損し、カメラが故障することがあります。
- 取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ないでください。目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因になります。

- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。
- 寒いところで使うと、画像が尾を引いて見えることがあります。故障ではありません。
- 撮影する前に確認する画像は、実際の撮影結果と異なることがあります。

レンズとアクセサリについてのご注意

本機には、カメラの特性に適合するように設計されたソニー製レンズ/アクセサリのご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせて使用した際の性能や、それによって生じた事故、故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

マルチインターフェースシューについてのご注意

- フラッシュなどのアクセサリを本機のマルチインターフェースシューに取り付け/取りはずしする場合は、電源を「OFF」にしてから行ってください。取り付けの際は、本機にしっかり固定されていることを確認してください。
- マルチインターフェースシューに、250V以上の電圧がかかる市販フラッシュや、極性が逆の市販フラッシュを使用しないでください。故障の原因になります。

ファインダーでの撮影について

- ファインダーの周辺部分の画像が少し歪んで見える場合がありますが、故障ではありません。構図の隅々まで確認して撮影したいときは、モニターも使用してください。
- ファインダーをのぞきながらパンしたり、視線を上下左右に動かすと、ファインダーの画像が歪んだり、色合いが変わって見える場合があります。これはレンズや表示デバイスの特性によるもので、故障ではありません。なるべくファインダーの中央付近を見るようにして撮影してください。
- ファインダーを使用中、目の疲労、疲れ、気分が悪くなる・乗り物酔いに似た症状が出る可能性があります。ファインダーを使用するときは、定期的に休憩をとることをおすすめします。不快な症状が出たときは、回復するまでファインダーの使用を控え、必要に応じて医師にご相談ください。

連続撮影時のご注意

連続撮影時、モニターまたはファインダーに撮影画面と黒い画面がすばやく交互に表示されることがあります。このとき、モニターやファインダーを見続けることにより、体調不良などの不快な症状が出る可能性があります。不快な症状が出たときは、本機の使用を控え、必要に応じて医師にご相談ください。

長時間撮影および4K動画撮影についてのご注意

- 本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために自動的に電源が切れたり、動画撮影ができなくなることがあります。電源が切れる前や撮影ができなくなった場合は、モニターにメッセージが表示されます。このような場合、本機やバッテリーの温度が充分下がるまで電源を切ったままお待ちください。充分に温度が下がらない状態で電源を入れると、再び電源が切れたり動画撮影ができなくなることがあります。
- 気温の高い場所では本機の温度上昇が早くなります。
- 本機の温度が上昇すると、画質が低下する場合があります。温度が下がるのを待って撮影されることをおすすめします。
- 本機の表面が熱くなる場合がありますが、故障ではありません。
- 特に4K動画撮影では低温環境下において撮影時間が短くなる場合があります。バッテリーを温めるか新しいバッテリーをお使いください。

他機での動画再生に際してのご注意

本機で記録した動画は本機以外の機器では正常に再生できない場合があります。また他機で記録した動画は本機で再生できない場合があります。

著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

本書中のデータについて

性能、仕様に関するデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温(25°C)下でのものです。バッテリーについては、充電ランプ消灯まで充電した状態のバッテリーを使用したときのものです。

無線に関連する機能(Wi-Fiなど)を一時的に無効にする

無線に関する機能は、[飛行機モード]で一時的に無効にできます。

認証マークの表示について

本機が対応している認証マークの一部は、本機の画面上で確認することができます。

MENU →  (セットアップ) → [認証マーク表示]を選択してください。本機の故障などの問題により表示できない場合は、相談窓口にご相談ください。

この機器のネットワークモードでの使用時の注意事項

本製品の使用周波数は2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局(免許を要する無線局)等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品と「他の無線局」に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、電波の発射を停止してください。
3. その他、この機器から「他の無線局」に対して有害な電波干渉の実例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、相談窓口へお問い合わせください。相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4DS2/OF2/XX8

2.4 : 2400 MHz帯を利用する無線設備を表します。

DS/OF/XX : 変調方式が DS-SS/ OFDM/その他の方式、であることを示します。

2 : 想定される与干渉距離が20 m以下であることを示します。

8 : 想定される与干渉距離が80 m以下であることを示します。

■■■■■■■■■■ : 2400 MHz ~

2483.5 MHzの全体域を利用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを示します。

ワイヤレスLANに関するご注意

紛失や盗難などによって本機に搭載されている接続先への不正アクセスや利用などが行われ、被害や損害が発生しても、弊社では一切の責任を負いかねます。

ワイヤレスLAN 製品ご使用時におけるセキュリティについて

- ハッキングや悪意ある第三者からのアクセス、その他の脆弱性を回避するため、常にセキュアなワイヤレスLANを使用していることを確認してください。
- ワイヤレスLAN ではセキュリティの設定をすることが非常に重要です。
- セキュリティ対策を施さず、あるいはワイヤレスLANの使用上やむを得ない事情により、セキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。

ワイヤレスLAN機能の使用地域について

本機のWi-Fi機能は日本での利用を前提としています。海外での使用はその国、または地域の電波関連規制等に違反する恐れがあり、当社では一切の責任を負いかねます。

本体と付属品を確認する

万一、不足の場合はお買い上げ店
にご相談ください。

()内の数字は個数です。

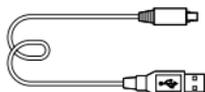
- カメラ(1)
- バッテリーチャージャー (1)



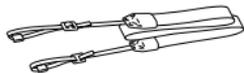
- リチャージャブルバッテリー
パックNP-FM500H (1)



- マイクロUSBケーブル(1)



- ショルダーストラップ(1)



- ボディキャップ(1)
(本機に装着)

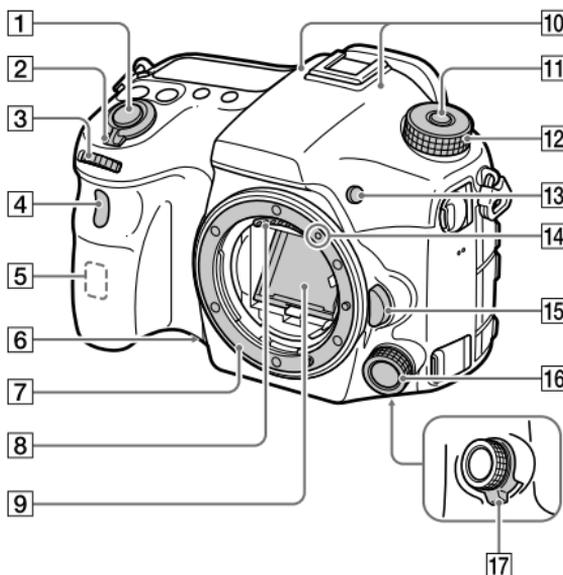


- シューキャップ(1)
(本機に装着)
- アイピースカップ(1)
(本機に装着)
- 取扱説明書(1)(本書)
- 保証書(1)
- Wi-Fi/NFCワンタッチ機能
ガイド(1)

各部の名称

()内の数字は参照ページです。

本体前面



- | | |
|---|-----------------------------|
| 1 シャッターボタン(43) | 8 レンズ信号接点* |
| 2 ON/OFF (電源)スイッチ
(39) | 9 ミラー* |
| 3 前ダイヤル
撮影モードごとに必要な設定を
即座に変更できます。 | 10 内蔵マイク** |
| 4 リモコン受光部/セルフタイ
マーランプ(72) | 11 モードダイヤルロック解除ボ
タン |
| 5 Wi-Fiアンテナ(内蔵) | 12 モードダイヤル(83) |
| 6 プレビューボタン(155) | 13 C2ボタン(カスタムボタン2)
(153) |
| 7 マウント | 14 マウント標点(38) |

15 レンズ取りはずしボタン
(39)

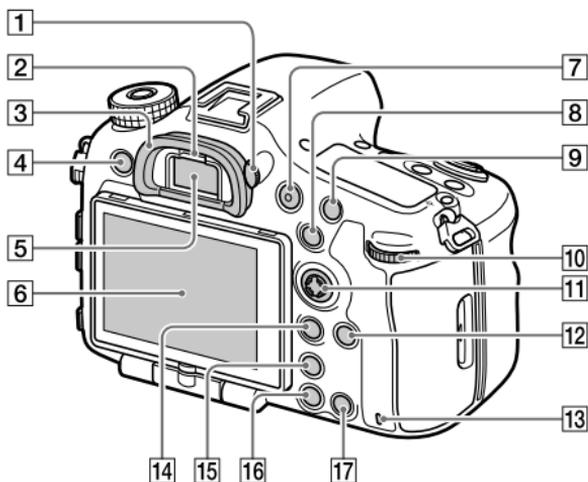
16 フロントマルチコントロー
ラー (25)

17 フロントマルチコントロー
ラークリック切換スイッチ
(25)

* 直接手で触れないでください。

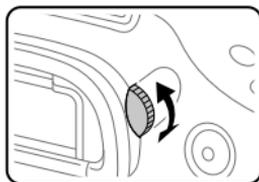
** 動画撮影時は手でふさがないように
してください。ノイズや音量低下の
原因になります。

本体後面



1 視度調整ダイヤル

ファインダー内の画面表示が
はっきり見えるように、ご自身の
視度に合わせて調整してくださ
い。視度調整ダイヤルが回しに
くいときは、アイピースカップを
はずしてから操作してください。



2 アイセンサー (157)

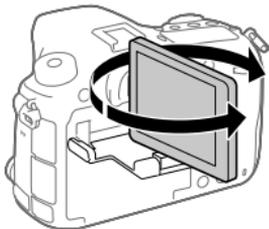
3 アイピースカップ

4 MENUボタン(182)

⑤ ファインダー*

⑥ モニター (30)

モニターを見やすい角度に調整して、自由なポジションで撮影できます。



⑦ MOVIE (動画) ボタン (126)

⑧ 撮影時: AEL (AEロック) ボタン (96) / SLOW SYNC (スローシンクロ) ボタン
再生時: ㊄ (一覧表示) ボタン (142)

フラッシュ撮影時にSLOW SYNC ボタンを押しながら撮影すると、被写体だけでなく背景も明るく撮影できます。

⑨ 撮影時: AF/MF ボタン (53)

再生時: ㊀ (拡大) ボタン (139)

⑩ 後ダイヤル

撮影モードごとに必要な設定を即座に変更できます。

⑪ マルチセレクター / 中央ボタン (25)

⑫ DISP (表示切り換え) ボタン (30)

⑬ アクセスランプ

⑭ 撮影時: Fn (ファンクション) ボタン (27、154)

再生時: ㊁ (スマートフォン転送) ボタン

- このボタンを押すとスマートフォン転送画面になります。
- 縦位置グリップ (別売) 装着時、縦位置グリップの㊁ (再生画像回転) ボタンを押すと、スマートフォン転送画面になります。

⑮ ㊂ (スマートテレコンバーター) ボタン

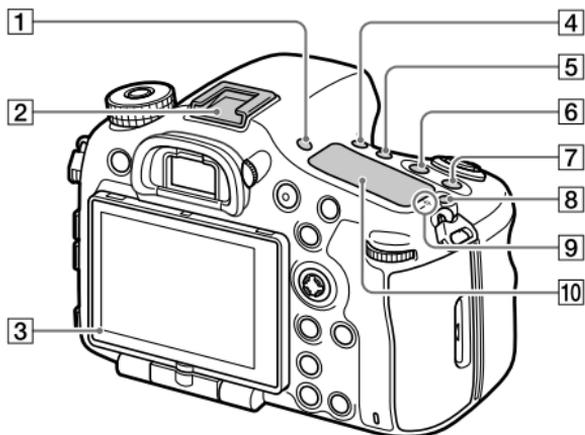
画像の中央部分を拡大表示し、記録できます。

⑯ ㊃ (再生) ボタン (138)

⑰ 撮影時: C1 ボタン (カスタムボタン1) (153)
再生時: ㊄ (削除) ボタン (147)

* 直接手で触れないでください。

本体上面



1 FINDER/MONITOR切り換えボタン(157)

2 マルチインターフェースシュー* (119)

一部のアクセサリーでは接続時にマルチインターフェースシュー後方からはみ出る場合がありますが、先端まで入っていれば取り付けできています。

3 明るさセンサー

4  /  (ドライブモード) ボタン(69)

5 WB (ホワイトバランス) ボタン(106)

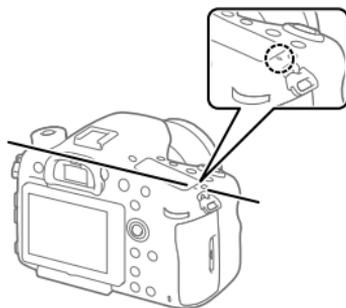
6  (露出補正) ボタン(93)

7 ISOボタン(101)

8  (表示パネル照明) ボタン(207)

9  イメージセンサー位置表示

イメージセンサーとは、光を電気信号に変えるためのセンサーです。 マークがイメージセンサー面の位置を表しています。被写体までの距離を正確に測るには、この線の位置を参考にしてください。



レンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。撮りたいものに近づきすぎているか、確認してください。

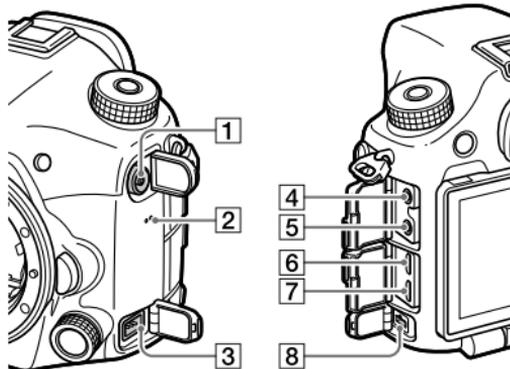
10 表示パネル(207)

- * マルチインターフェースシュー対応アクセサリについて詳しくは、専用サポートサイトでご確認ください。
<http://www.sony.jp/support/ichigan/connect/>
アクセサリシュー対応のアクセサリも使用できます。他社のアクセサリを取り付けた場合の動作は保証できません。

mi Multi
Interface Shoe

Accessory Shoe

本体側面



① ⚡(シンクロ)ターミナル
(125)

② スピーカー

③ REMOTE端子

リモートコマンダー (別売)を本機とつなぐ場合は、リモートコマンダーのターミナルを、コードが前方に向くようにしてREMOTE端子のガイド溝に合わせて差し込んでください。

④ 🎤マイク端子

外部マイクを接続すると自動的に内蔵マイクから外部マイクに切り替わります。プラグインパワー対応の外部マイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

⑤ 🎧ヘッドホン端子

動画記録時や再生時の音声を確認できます。

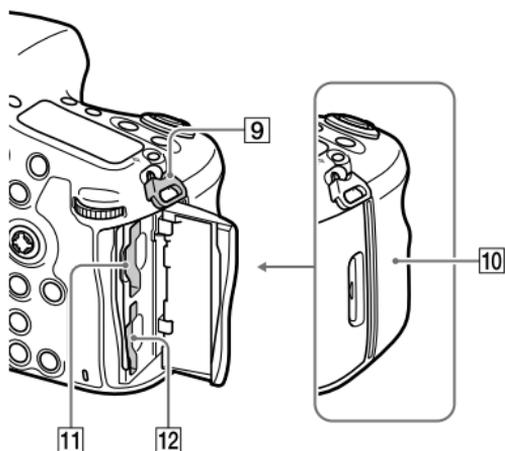
⑥ HDMIマイクロ端子(149)

⑦ マルチ/マイクロUSB端子*
(178)

この端子にはマイクロUSB規格に対応した機器をつなぐことができます。

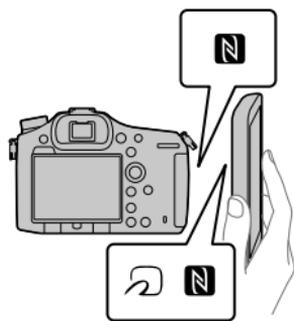
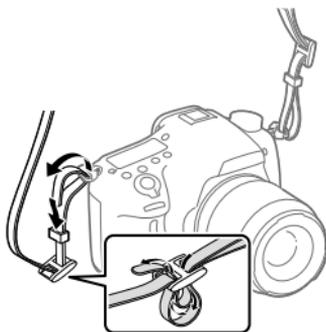
⑧ DC IN端子

撮影、再生に対応したACアダプター (別売)を使用すると、撮影、再生時も電力を供給できます。本機の電源を切り、ACアダプターの接続コードのプラグをDC IN端子に差し込んでください。



9 ショルダーストラップ取り付け部

ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。



- NFC (Near Field Communication) は近距離無線通信技術の国際標準規格です。

10 N(Nマーク) (171)

NFC機能搭載のスマートフォンと本機を接続するときにタッチします。

一部のおサイフケータイ対応のスマートフォンはNFCに対応しています。詳しくはスマートフォンの取扱説明書でご確認ください。

11 SLOT1 (メモリーカードスロット1) (36)

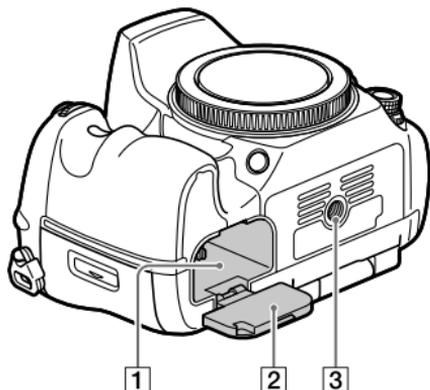
SDカード、メモリースティック
PRO デュオ対応

12 SLOT2 (メモリーカードスロット2) (37)

SDカード専用

* マルチ/マイクロUSB端子対応アクセサリーについては、専用サポートサイトでご確認ください。
<http://www.sony.jp/support/ichigan/connect/>

本体底面



1 バッテリー挿入口(35)

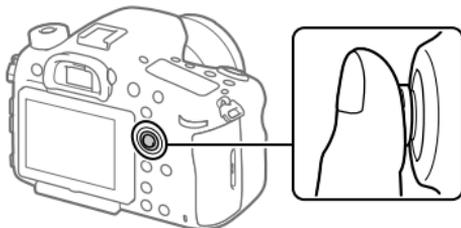
2 バッテリーカバー (35)

3 三脚ネジ穴

三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5mm未満の三脚を使います。ネジの長さが5.5mm以上の場合、本機を三脚にしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

基本的な操作

マルチセレクターの使いかた

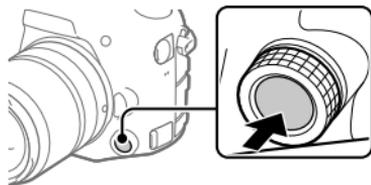


- マルチセレクターの上面に指を乗せて使用すると、より確実に操作できます。
- マルチセレクターを上下左右に押しと、選択枠を動かすことができます。一部の画面ではマルチセレクターを8方向に押しして選択枠を動かすことができます。選んだ項目は中央を押すと決定されます。
- 再生時に、マルチセレクターを左右に押しと、前/次の画像を表示できます。
- お買い上げ時の設定では、マルチセレクターの中央には「フォーカススタンダード」機能が割り当てられています。

フロントマルチコントローラーの使いかた

フロントマルチコントローラーを使って、設定を変更できます。静止画撮影時と動画撮影時でそれぞれ希望の機能を割り当てることができます。

- 1 撮影時にフロントマルチコントローラーのボタンを押して設定画面にする。



- 2 フロントマルチコントローラーを回して希望の設定にする。

3 フロントマルチコントローラーのボタンを押して決定する。

■ 割り当てる機能を変更するには

フロントマルチコントローラーのボタンを長押しして、割り当てる機能を変更できます。

MENU→2(撮影設定2) → [カスタムキー (撮影)] →

 フロントマルチコントローラー]または

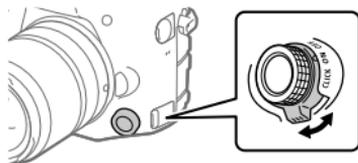
 フロントマルチコントローラー]でも割り当てる機能を変更できます。

■ 割り当てられる機能

フォーカスモード	フォーカスエリア	フォーカスエリア選択
シャッタースピード	絞り	露出補正
ISO感度	測光モード	ホワイトバランス
クリエイティブスタイル	ピクチャーエフェクト	録音レベル(動画撮影時のみ)

ヒント

- フロントマルチコントローラークリック切換スイッチで、フロントマルチコントローラーのクリック感を変更できます。動画撮影時、「OFF」にすると操作音を抑えて設定を変更することができます。



Fn (ファンクション)ボタンの使いかた

撮影時にFn (ファンクション)ボタンを押して、あらかじめ登録したよく使う機能呼び出すことができます。呼び出す機能は12個まで登録できます。

- 1 モニター使用時は、DISPボタンを押して
[ファインダー撮影用]画面以外にして、Fn (ファンクション)ボタンを押す。

- ファインダー使用時は、DISPボタンを押して画面を切り換える必要はありません。

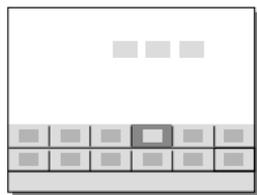


Fnボタン

- 2 マルチセレクターの上/下/左/右を押して、設定する機能を選ぶ。

- 3 前ダイヤルを回して希望の設定を選び、マルチセレクターの中央を押す。

- 一部の機能は、後ダイヤルを回して微調整値の設定もできます。



専用画面で設定するには

手順2で、設定する機能を選んでマルチセクターの中央を押すと、その項目設定の専用画面になります。操作ガイドに従って設定してください。



操作ガイド

クイックナビの使いかた

クイックナビはファインダー使用時に適した機能で、変更したい項目をダイレクトに操作できます。

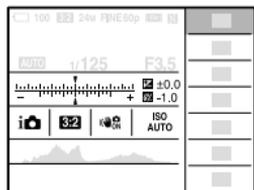
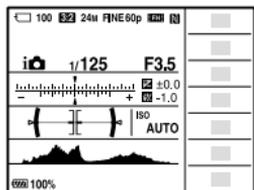
1 MENU → **2 (撮影設定2)** → **[DISPボタン]** → **[背面モニター]**
で**[ファインダー撮影用]**を選び、**[実行]**を選ぶ。

2 DISP (画面表示切換)ボタンを押して、**[ファインダー撮影用]**画面にする(33ページ)。

3 Fn(ファンクション)ボタンを押して、**クイックナビ画面**にする。

- 表示内容や表示位置は目安であり、実際とは異なる場合があります。

オートモード時



P/A/S/M/スイングパンorama時



4 マルチセクターの上/下/左/右を押して、設定する機能を選ぶ。

5 前ダイヤルを回して希望の設定にする。

- 一部の機能は、後ダイヤルを回して微調整値の設定もできます。

専用画面で設定するには

手順4で、設定する機能を選んでマルチセクターの中央を押すと、その項目設定の専用画面になります。操作ガイドに従って設定してください。



操作ガイド

ご注意

- クイックナビ画面でグレーになっている項目は、変更できません。
- [クリエイティブスタイル]では、専用画面に入らないと操作できない設定もあります。

画面表示を変える

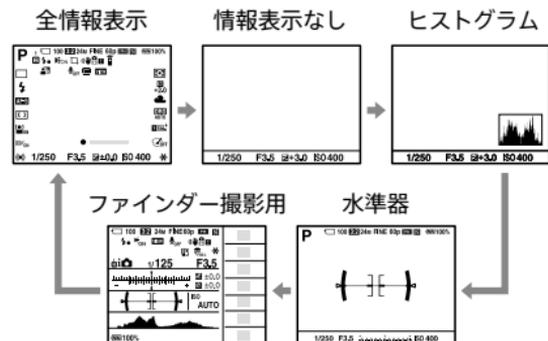
画面表示を切り換える(撮影/再生)

表示される画面表示を切り換えます。

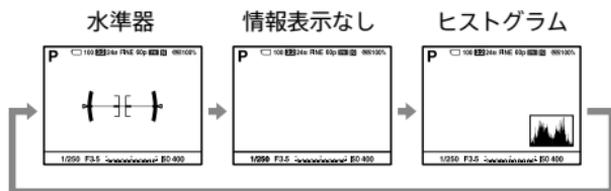
DISP (画面表示)を押す。

- ファインダー表示を変更する場合には、ファインダーをのぞきながらDISPボタンを押してください。
- DISPボタンを押すたびに、画面表示が切り替わります。

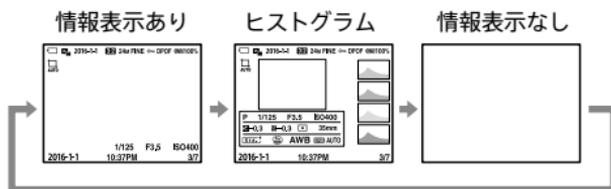
撮影時(モニター)



撮影時(ファインダー)



再生時(モニター / ファインダー)



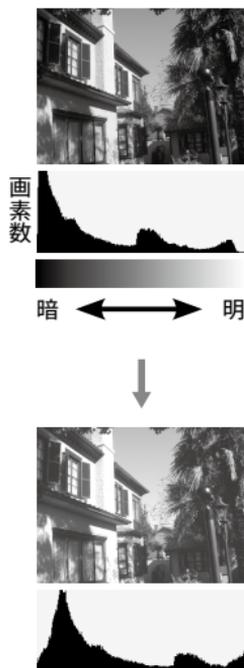
- 画像に白とびまたは黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します(白とび黒つぶれ警告)。
- 再生時の設定は、[オートレビュー]でも反映されます。
- 表示内容や表示位置は目安であり、実際とは異なる場合があります。

■ ヒストグラム

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。左に行くほど暗く、右は明るいことを表しています。

露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。

ヒストグラムの左右両端のデータは、白とび/黒つぶれした部分があることを表しています。このような部分は、撮影後、画像をパソコンで補正しても再現することはできません。必要に応じて露出補正をしてから撮影してください。



ご注意

- 撮影時のファインダー表示とモニター表示はそれぞれ独立して設定できます。ファインダーの画面表示はファインダーをのぞいた状態で設定してください。
- パノラマ撮影時は[ヒストグラム]が表示できません。
- ヒストグラムは、撮影結果ではなく、画面で見ている画像のヒストグラムになります。絞り値などにより結果が異なります。
- 撮影時と再生時のヒストグラムは、下記のとおり大きく異なります。
 - フラッシュ発光したとき
 - 夜景などの低輝度な被写体のとき
- 動画撮影時は、[ファインダー撮影用]が表示できません。

ヒント

- お買い上げ時の設定では、以下は表示されません。
 - グラフィック表示
 - 全情報表示(ファインダー使用時)表示する内容を変更するときは、MENU → 2(撮影設定2) → [DISPボタン] から設定を変更してください。

DISPボタン(背面モニター / ファインダー)

撮影時に、DISP (画面表示切換) で選択できる画面表示モードを設定します。

MENU → 2(撮影設定2) → [DISPボタン] → [背面モニター] または [ファインダー] → 希望の設定を選び、[実行] を選んで決定する。

✓がついている項目が選択できるモードになる。

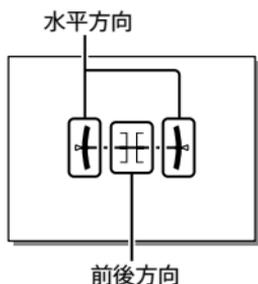
グラフィック表示：基本的な撮影情報を表示する。シャッタースピードと絞りをグラフィカルに表示する。

全情報表示：撮影情報を表示する。

情報表示なし：撮影情報を表示しない。

ヒストグラム：画像の明暗をグラフ(ヒストグラム)で表示する。

水準器：カメラの前後方向、水平方向の傾きを指標で示す。水平、平衡状態のときは、表示が緑色になる。



ファインダー撮影用*：ファインダーをのぞいて撮影するスタイルに適した表示になる。

* [DISPボタン]が[背面モニター]に設定されているときのみ選べます。

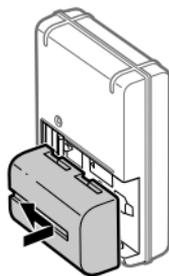
ご注意

- 本機を前または後に大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなります。
- 水準器で傾きがほぼ補正された状態でも $\pm 1^\circ$ 程度の誤差が生じることがあります。

スタートガイド

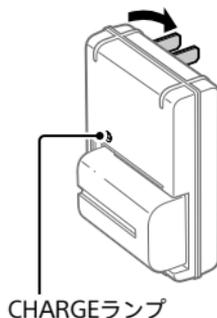
ステップ1：バッテリーを充電する

- 1 バッテリーをバッテリーチャージャーに入れる。



- 2 電源プラグを引き起こし、コンセントに取り付ける。

バッテリーチャージャーのCHARGEランプがオレンジ色に点灯し、充電が始まる。



CHARGEランプ(オレンジ色)

点灯：充電中

消灯：充電完了

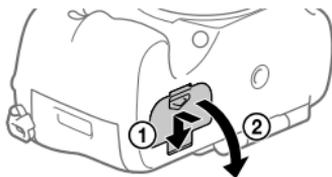
点滅：充電エラー、または温度が適切な範囲にないための充電一時待機

- 充電時間の目安(満充電)：約175分(バッテリーを使い切ってから、温度25℃の環境下で充電した場合)
- お買い上げ直後や長期間バッテリーを放置した場合、一度目の充電ではCHARGEランプが速い点滅になる場合があります。その場合は一度バッテリーを取りはずし、再度充電してください。

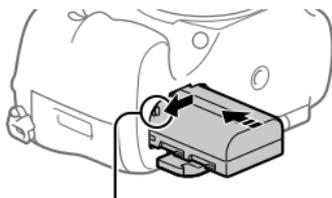
- 付属または推奨のACアダプター / チャージャーは、お手近なコンセントをお使いください。本機を使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。充電ランプがある機種は、ランプが消えても電源からは遮断されません。

ステップ2：バッテリーを本機に入れる

1 バッテリーカバーを開ける。

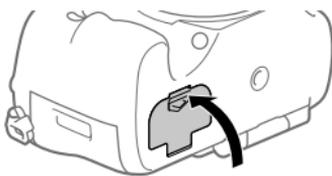


2 バッテリーの端でロックレバーを押しながら入れ、バッテリーがロックされるまで押し込む。



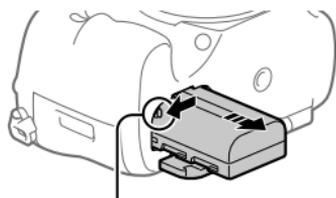
ロックレバー

3 カバーを閉じる。



■ バッテリーを取り出すには

アクセランプ(19ページ)が点灯していないことを確認してから電源を切り、ロックレバーをずらして、バッテリーを引き出します。このとき、バッテリーが落下しないよう、注意してください。

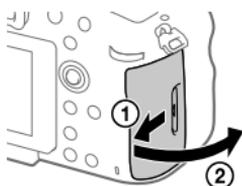


ロックレバー

ステップ3：メモリーカードを本機に入れる

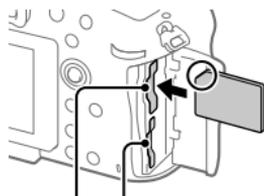
本機で使用できるメモリーカードについては、224ページをご覧ください。

1 メモリーカードカバーを開ける。



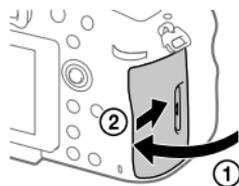
2 スロット1にメモリーカードを入れる。

- 切り欠きの向きに注意してください。
- 切り欠き部をイラストの向きに合わせ、「カチッ」と音がするまで奥に差し込んでください。
- メモリーカードを1枚のみ使用するとき、スロット1をご使用ください。お買い上げ時はスロット1を使う設定になっています。記録するスロットは、MENU→ (セットアップ) → [記録メディア選択] で変更できます。



スロット1 スロット2

3 カバーを閉じる。

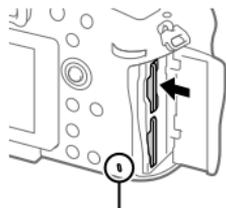


ヒント

- メモリーカードの動作を安定させるために、本機ではじめてお使いになるメモリーカードは、まず、本機でフォーマット(初期化)することをおすすめします(159ページ)。

メモリーカードを取り出すには

メモリーカードカバーを開けて、アクセスランプ(19ページ)が点灯していないことを確認し、メモリーカードを一度押します。



アクセスランプ

2つのスロットのメモリーカードに記録するには

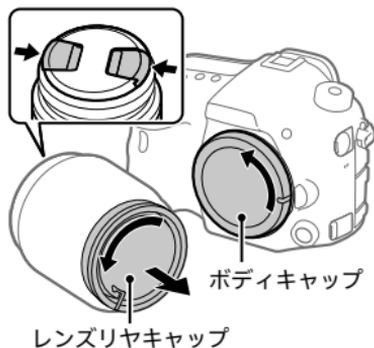
お買い上げ時は、スロット1のメモリーカードに記録される設定になっています。設定を変えずに1枚だけ使用する場合は、スロット1を使用してください。

スロット2にもメモリーカードを入れることで、同じ画像を同時に2つのメモリーカードに記録したり、静止画/動画の種類によって記録先を変えることもできます(〔記録モード〕)(161ページ)。

ステップ4：レンズを取り付ける

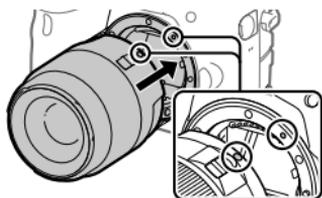
1 本機のボディキャップとレンズの後ろのレンズリヤキャップをはずす。

- カメラ内部にゴミやほこりが入らないように、ほこりの少ない場所ですばやく行ってください。

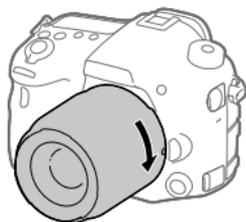


2 レンズと本機の2つのオレンジ色の点(マウント標点)を合わせてはめ込む。

- ゴミやほこりが入らないよう、マウントを下向きにして取り付けてください。



3 レンズを軽く本機に押し付けながら、「カチッ」と音がするまで矢印の方向にゆっくり回す。

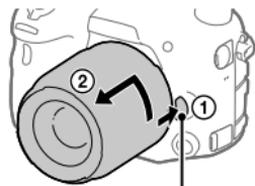


ご注意

- レンズを斜めに差し込んだり、無理な力を加えたりしないでください。
- レンズを取り付けるときは、レンズ取りはずしボタンを押さないでください。
- レンズを取り付けてカメラを持ち運ぶときは、カメラとレンズの両方をしっかり持ってください。
- ズームやピント合わせなどで繰り出したレンズ部分を持って、カメラを保持しないでください。

■ レンズを取りはずすには

レンズ取りはずしボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取りはずします。



レンズ取りはずしボタン

ステップ5：電源を入れて日付と時刻を設定する

- 1 電源スイッチを「ON」にして、本機の電源を入れる。

ON/OFF (電源)スイッチ



-
- 2** モニターの表示で[実行]が選ばれていることを確認し、マルチセクターの中央を押す。



マルチセクター

-
- 3** [東京/ソウル]が選ばれていることを確認し、中央を押す。

-
- 4** マルチセクターの上/下で[日時]を選び、中央を押す。

サマータイム：日本では、サマータイムは[切]にする。

表示形式：日付表示順を選ぶ。

-
- 5** マルチセクターの上/下/左/右で希望の設定を選び、中央を押す。

- 真夜中は12：00AM、正午は12：00PMです。
- [日時]を設定する場合は、上/下を押して数値を変更してください。

-
- 6** 手順4、5を繰り返して、すべて設定し、[実行]を選んで中央を押す。
-

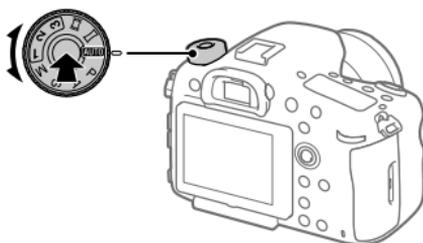
ヒント

- あとで日付設定をしたい場合は、MENUボタンを押すとキャンセルできます。その場合、次に電源を入れると日付設定画面が再表示されます。
- 設定完了したあとに設定し直したい場合は、メニューで設定できます(200ページ)。

ご注意

- 日時設定をキャンセルした場合は電源を入れると毎回日時設定画面が表示されます。
- 本機には、画像に日付を挿入する機能はありません。PlayMemories Homeを使用すると、日付を入れて保存/印刷できます(Windows版のみ)。

ステップ6：オートモードで撮影する



- 1 モードダイヤル中央のモードダイヤルロック解除ボタンを押しながらモードダイヤルを回して**AUTO**にする。
撮影モードがi📷（おまかせオート）になる。
- 2 ファインダーをのぞいて、本機を構える。
- 3 ズームレンズを取り付けている場合は、ズームリングを回して被写体の大きさを決める。
- 4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。
 - ピントが合うとフォーカス表示（●など）が点灯します。
- 5 シャッターボタンを深く押し込む。

■動画を撮影するには

MOVIE（動画）ボタンを押すと、撮影を開始/終了できます。

■画像を再生するには

▶（再生）ボタンを押すと再生モードになります。マルチセレクターで画像を選べます。

■表示中の画像を削除するには

削除したい画像を表示中に、 (削除) ボタンを押します。確認のメッセージが出たら、マルチセクターで [削除] を選び、中央を押すと削除できます。

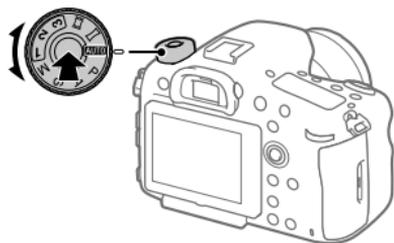
■撮影モードを変えて撮影するには

撮りたい被写体や、操作したい機能に合わせて、モードダイヤルを合わせます (83ページ)。

静止画を撮影する

1 モードダイヤルを回して、好みの撮影モードを選ぶ。

- モードダイヤル中央のモードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、モードダイヤルを回してください。



2 モニターを見やすい角度に調節して、本機を構える。または、ファインダーをのぞいて、本機を構える。

3 ズームレンズを取り付けている場合は、ズームリングを回して被写体の大きさを決める。

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

- ピントが合うと「ピピッ」という音がして、フォーカス表示(●など)が点灯する。



5 シャッターボタンを深く押し込む。

■ フォーカスを固定して好みの構図で撮影するには(フォーカスロック)

オートフォーカス時に、希望の被写体にピントを固定して撮影します。

① MENU → 1 (撮影設定1) → [フォーカスモード] → [シングルAF] または [AF制御自動切り換え] を選ぶ。

② ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを合わせ、シャッターボタンを半押しする。

ピントが固定される。

- ピントが合いにくい場合は、[フォーカスエリア]を[中央]または、[フレキシブルスポット]にします。



③ シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻す。



④ シャッターボタンを押し込んで撮影する。

ヒント

- 自動でピントを合わせられない場合は、フォーカス表示が点滅し、「ピピッ」と電子音が鳴りません。構図を変えたり、フォーカス設定を変えるなどしてください。なお、[コンティニューアスAF]に設定している場合は、が点灯し、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

ご注意

- [フォーカスモード]を[AF制御自動切り換え]に設定していても、被写体が動いているとカメラが判断した場合は、フォーカスロックできません。

フォーカス(ピント)を合わせる

フォーカスモード

被写体の動きに応じてピント合わせの方法を選べます。
使用するレンズによって、オートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り換え方法が異なります。

1 レンズにフォーカスモードスイッチが付いている場合は、 「AF」または「MF」を選ぶ。

- SSMレンズやDMF対応のSAMレンズ*では、フォーカスモードスイッチを「AF」に合わせたまま、オートフォーカス、マニュアルフォーカスのすべてのフォーカスモードに本体側の操作で切り換えることができます。
* SAL18135のみ(本機発売日時点)

2 MENU → 1(撮影設定1) → [フォーカスモード] → 希望の設定を選ぶ。

- オートフォーカスを使うときはレンズのフォーカスモードスイッチを「AF」にしてください。レンズのフォーカスモードスイッチが「MF」のときは、[マニュアルフォーカス]に固定されます。
- ハイブリッド位相差検出AF対応レンズ装着時、オートフォーカスは、お買い上げ時の設定ではどのモードを選択してもハイブリッド位相差検出AFシステムでピントを合わせます。MENU → 1(撮影設定1) → [AFシステム]でフォーカス検出方式を変えることもできます。

AF-S (シングルAF) : ピントが合った時点でピントを固定する。動きのない被写体で使う。

AF-A (AF制御自動切り換え) : 被写体の動きに応じて、シングルAFとコンティニユアスAFが切り替わる。シャッターボタンを半押しすると、被写体が静止していると判断したときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピントを合わせ続ける。連続撮影時は、2枚目以降自動的にコンティニユアスAFに切り替わります。

AF-C (コンティニュアスAF)：シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続ける。動いている被写体にピントを合わせるときに使う。[コンティニュアスAF]では、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

DMF (DMF (ダイレクトマニュアルフォーカス))：オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動で微調整できる。最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりもすばやくピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

MF (マニュアルフォーカス)：ピント合わせを手動で行う。オートフォーカスで意図した被写体にピントが合わないときには、マニュアルフォーカスで操作してください。

■ フォーカス表示

- 点灯：ピントが合って固定されている。
- 点滅：ピントが合っていない。
- ◎点灯：ピントが合っている。被写体の動きに合わせてピント位置が変わる。
- ⊖点灯：ピント合わせの途中。

■ ピントが合いにくい被写体

- 被写体が遠くて暗い
- 被写体のコントラストが弱い
- ガラス越しの被写体
- 高速で移動する被写体
- 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
- 点滅する被写体
- 逆光になっている被写体
- ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの
- フォーカスエリアの中に距離の異なるものが混じっているとき

ご注意

- 動画撮影時は、[コンティニュアスAF]または[マニュアルフォーカス]のみ選べます。

ヒント

- [コンティニユアスAF]に設定しているとき、[フォーカスホールド]機能を割り当てたキーを押すと、押している間ピントを固定することができます(153ページ)。

オートフォーカス

オートフォーカスの仕組み

このカメラは像面位相差AFセンサーと専用位相差AFセンサーが同時に駆動するハイブリッド位相差検出AFシステムを採用しています。ハイブリッド位相差検出AF対応レンズをご使用いただくことで、専用位相差AFセンサーのみでは難しい広い測距エリア、高密度・多点、ハイブリッドクロス測距点*¹が使えます。

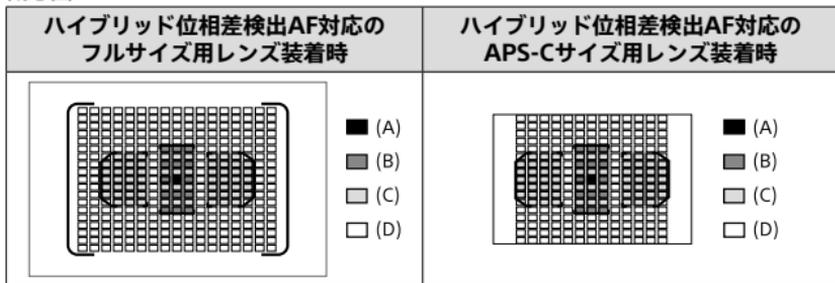
- 対応レンズは、専用サポートサイトでご確認ください。
<http://www.sony.net/hpd/>

*¹ハイブリッドクロス測距点は、像面位相差AFセンサーと専用位相差AFセンサーの両方で測距します。より被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせができる測距点です。

■ハイブリッド位相差検出AF時のAFエリア

ハイブリッド位相差検出AF対応レンズを装着し、[AFシステム] (64ページ)が[オート]に設定されている場合に、ハイブリッド位相差検出AFシステムが動き、最大399点の広範囲の測距やハイブリッドクロス測距が行えます。

概念図



(A) : ハイブリッドクロス測距点

像面位相差AFセンサー (縦線検出) +
専用位相差AFセンサー (クロス測距点*²、F2.8光束対応)

(B) : ハイブリッドクロス測距点

像面位相差AFセンサー (縦線検出) + 専用位相差AFセンサー (クロス測距点*²)

(C) : ハイブリッドクロス測距点

像面位相差AFセンサー (縦線検出) + 専用位相差AFセンサー (横線検出)

(D) : 像面位相差AF測距点(縦線検出)

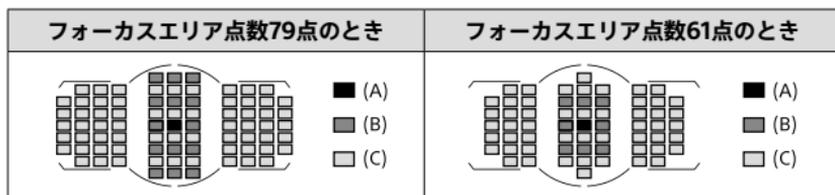
*²横線が検出できる測距点と縦線が検出できる測距点を同じ測距エリアに十字に配置したクロス測距点では、高い捕捉性能を実現しています。さらに中央の一点には開放絞り値がF2.8以下のレンズに対応した測距センサーも備えています。

■ 専用位相差AFセンサーのAFエリア

ハイブリッド位相差検出AF非対応レンズが取り付けられているとき、または[AFシステム]が[専用位相差AFのみ]に設定されている場合は、79点の専用位相差AFセンサーを使用してピントを合わせます。

- 動画撮影時はフォーカスエリア点数が61点に制限されます。

概念図



(A) : 専用位相差AFセンサー (クロス測距点、F2.8光束対応)

(B) : 専用位相差AFセンサー (クロス測距点)

(C) : 専用位相差AFセンサー

ヒント

- ハイブリッド位相差検出AF時でも、[選択可能なフォーカスエリア]を [クロス測距エリアのみ]に設定することにより、使用するAFエリアをハイブリッドクロス測距点のみに限定することもできます。

ご注意

- 以下の場合は、ハイブリッド位相差検出AF時のフォーカスエリア399点すべては使用できません。
 - [選択可能なフォーカスエリア]が[クロス測距エリアのみ]のとき
 - [フレキシブルスポット点数]が[全て]以外のとき
 - ハイブリッド位相差検出AF非対応レンズ装着時
 - APS-Cサイズ用レンズ装着時
 - [APS-C/Super 35mm]が[入]のとき
 - デジタルズーム(スマートテレコンバーター)(104ページ)
 - 動画撮影時
 - 大きい絞り値で連続撮影を行う場合(70ページ)

フォーカスエリア

ピント合わせの位置を変更します。ピントが合いにくいときなどに使います。

MENU →  **1 (撮影設定1)** → **[フォーカスエリア]** → **希望の設定を選ぶ。**

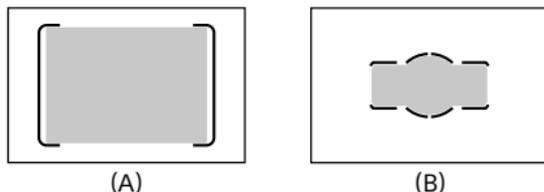
-  **ワイド**：モニター全体を基準に、自動ピント合わせをする。静止画撮影でシャッターボタンを半押ししたときには、ピントが合ったエリアに緑色の枠が表示される。
-  **ゾーン**：モニター上でピントを合わせたいゾーンの位置を選ぶと、その中で自動でピントを合わせる。
-  **中央**：モニター中央付近の被写体に自動ピント合わせをする。フォーカスロックと併用して好きな構図で撮影が可能。
-  **フレキシブルスポット**：モニター上の好きなところに測距枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせる。
-  **拡張フレキシブルスポット**：フレキシブルスポットの周囲のフォーカスエリアをピント合わせの第2優先エリアとして、選んだ1点でピントが合わせられない場合に、この周囲のフォーカスエリアを使ってピントを合わせる。
-      **ロックオンAF**：シャッターボタンを半押しすると、選択されたAFエリアから被写体を追尾する。フォーカスモードが[コンティニユアスAF]のときのみ選択可能。[フォーカスエリア]設定画面で[ロックオンAF]にカーソルを合わせて、マルチセレクターの左/右でロックオンAFの開始エリアを変更できる。追尾開始エリアをフレキシブルスポットまたは拡張フレキシブルスポットにすると、好きなところに追尾開始エリアを移動することもできる。

■フォーカスエリアの有効範囲について

ハイブリッド位相差検出AFシステムが働いているときは像面位相差AFエリアを含む全エリア(A)が、働いていないときは専用位相差AFエリア(B)が有効なフォーカスエリアとなります。

概念図

下図で色の濃い部分が有効なフォーカスエリアです。



- [ゾーン]のとき、フォーカスエリアは(A)では15個、(B)では9個に分割されます。

■フォーカスエリアの移動方法

[フレキシブルスポット]、[拡張フレキシブルスポット]、[ゾーン]のエリアはマルチセクターで移動させることができます。

ご注意

- 以下の場合、[フォーカスエリア]は[ワイド]に固定されます。
 - [おまかせオート]
 - ロックオンAF中
- 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなどには、フォーカスエリアが点灯しないことがあります。
- モードダイヤルが動画(動画/スロー & クイックモーション)になっているときや動画撮影中は、[フォーカスエリア]の[ロックオンAF]は選択できません。
- 以下のズームの使用中は、ズーム倍率に応じて画面全体に四角い枠が表示され、画面全体を使ってピントを合わせる場合があります。
 - スマートズーム
 - 全画素超解像ズーム
 - デジタルズーム

■フォーカススタンダード

希望のカスタムキーに[フォーカススタンダード]を割り当てると、画面中央でオートフォーカスするなど、フォーカスエリア設定に応じて便利な機能呼び出せます。

① MENU → 2 (撮影設定2) → [カスタムキー (撮影)] → 希望のキーに[フォーカススタンダード]の機能を設定する。

② [フォーカススタンダード]を割り当てたキーを押す。

- [フォーカスエリア]と[中央ボタン押しロックオンAF]の設定によってキーを押したときにできることが変わります。

[中央ボタン押しロックオンAF]が[入]のとき

キーを押すと、画面中央にある被写体を検出し追尾を開始する。追尾中にもう一度キーを押すと、追尾を解除する。

[中央ボタン押しロックオンAF]が[切]のとき

- [フォーカスエリア]が[ゾーン]、[フレキシブルスポット]、[拡張フレキシブルスポット]のときは、キーを押すと測距枠が中央に戻り、中央の測距点でピントを合わせる。
- [フォーカスエリア]が[ワイド]または[中央]のときは、中央の測距点でピントを合わせる。

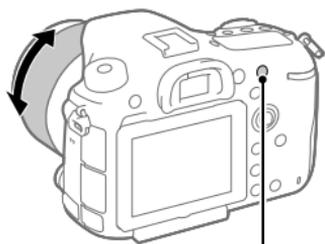
AF/MFコントロール

撮影中にカメラのホールディングを崩すことなく、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます。

AF/MFボタンを押す。

オートフォーカスのとき：一時的にマニュアルフォーカスになる。AF/MFボタンを押したまま、フォーカスリングを回してピントを合わせる。SAL18135以外のSAMレンズ(本機発売日時点)では、フォーカスリングを回しません。

マニュアルフォーカスのとき：AF/MFボタンを押している間、一時的にオートフォーカスになり、ピントが固定される。



AF/MFボタン

ヒント

- [カスタムキー (撮影)]の[AF/MFボタン]で[再押しAF/MFコントロール]を選ぶと、ボタンを押し続けなくても変更したモードを維持できます(153ページ)。

AFオン

シャッターボタンを半押ししなくても、他のボタンでピント合わせができます。オートフォーカスの設定は[フォーカスモード]で設定しているモードになります。

1 MENU → 2 (撮影設定2) → [カスタムキー (撮影)] → 希望のキーに[AFオン]の機能を設定する。

2 オートフォーカスでの撮影中に[AFオン]を割り当てたキーを押す。

ヒント

- シャッターボタンでピント合わせをしたくない場合は、[シャッター半押しAF]を[切]に設定してください。
- 被写体の位置をあらかじめ想定して特定の撮影距離にピントを合わせておく場合(置きピン)は、 シャッター半押しAFと[アイスタートAF]を[切]に設定してください。

瞳AF

ボタンを押している間、人物の目にピントを合わせます。

1 MENU → 2 (撮影設定2) → [カスタムキー (撮影)] → 希望のキーに[瞳AF]の機能を設定する。

2 人物の顔に本機を向け、[瞳AF]の機能を割り当てたキーを押す。

3 キーを押したままシャッターボタンを押す。

ヒント

- 目にピントが合うと、目に枠が表示されます。フォーカスモードが[シングルAF]のときは、一定時間で枠が消えます。

ご注意

- オートフォーカスが可能なエリア内に目が検出されていない場合など、状況によっては目にピントを合わせられない場合があります。目にピントを合わせられないときは、顔を検出して顔にピントを合わせます。
- 人物の顔を検出できない場合、[瞳AF]は使用できません。
- [フォーカスモード]を[マニュアルフォーカス]に設定しているときなど、状況によっては使用できない場合があります。
- 以下のときは、[瞳AF]がうまく働かないことがあります。
 - メガネ(サングラス)をかけた状態
 - 前髪がかかった状態
 - 低照度、逆光時
 - 目を閉じた状態
 - 影がかかった状態
 - ピントが大きくずれた状態
 - 被写体の動きが大きいとき
- 被写体の動きが大きいときは、目の枠の表示がずれることがあります。

AFレンジコントロール

オートフォーカスの作動範囲を限定することができます。背景や撮りたい被写体よりも前にある物に邪魔されずにピントを合わせることができます。お買い上げ時は、C1ボタン(カスタムボタン1)に[AFレンジコントロール]が設定されています。

1 C1ボタン(カスタムボタン1)を押す。



C1ボタン(カスタムボタン1)

2 前ダイヤルで最大撮影距離を設定し、後ダイヤルで最短撮影距離を設定する。

設定したAFレンジ範囲内にある被写体と重なるフォーカスエリアが黄色く表示される。

3 もう一度C1ボタン(カスタムボタン1)を押して距離を確定する。

設定された範囲内の被写体に重なるフォーカスエリアが黄色く表示される。

- リミット範囲表示は残ります。

■ AFレンジコントロール機能を終えるには

もう一度C1ボタン(カスタムボタン1)を押す。

ヒント

- 撮影したい被写体にフォーカスを合わせたあと、レンズピント位置▼が範囲内に入るようにAFレンジ設定範囲を調整してください。
- フォーカスエリアの黄色い表示を見ながら、範囲内もしくは範囲外になるように設定してください。

ご注意

- マニュアルフォーカス、動画のときは使用できません。
- レンズを交換すると、設定したAFレンジ範囲はリセットされます。
- フォーカスレンジリミッター機能があるレンズを使用している場合、本機のAFレンジコントロール機能と併用せず、どちらか一方をお使いください。
- 距離エンコーダー非搭載のレンズでは撮影距離値が表示されません。
- 撮影距離値は目安です。
- レンジ設定範囲、撮影距離値と実際のレンズピント位置はずれることがあります。
- 実際のAFレンジ設定範囲と、フォーカスエリアの黄色い表示は合わないことがあります。
- ピントが合っていないとフォーカスエリアが黄色く表示されないことがあります。
- 光量が不足しているときや単色の平面などコントラストのない被写体では、フォーカスエリアが黄色く表示されにくいことがあります。被写体の輪郭部などを参考にしてください。
- レンズ内にモーターを持つレンズ(SSM、SAMレンズ*)以外ではダイレクトマニュアルフォーカス(66ページ)との併用はできません。
 - * ダイレクトマニュアルフォーカスに対応しているSAMレンズは、SAL18135のみです。(本機発売日時点)
- レンズ内にモーターを持つレンズ(SSM、SAMレンズ*)以外ではAF/MFコントロールとの併用時、無限遠への初期動作が入ることがあります。
 - * AF/MFコントロールに対応しているSAMレンズは、SAL18135のみです。(本機発売日時点)

中央ボタン押しロックオンAF

マルチセクターの中央を押すことで画面中央にある被写体を検出し、その被写体を追尾し続けます。

1 MENU → 1 (撮影設定1) → [中央ボタン押しロックオンAF] → [入]を選ぶ。

2 ターゲット枠を被写体に合わせて、マルチセクターの中央を押す。

- 追尾を解除する場合は、もう一度中央を押します。さらにもう一度中央を押すと、ターゲット枠が再度表示されます。



ターゲット枠

3 シャッターボタンを押し込み撮影する。

ご注意

- 以下のときは、[中央ボタン押しロックオンAF]機能がうまく働かないことがあります。
 - 動きが速すぎる被写体
 - 小さすぎる、または大きすぎる被写体
 - 被写体と背景が同系色の場合
 - 暗いシーン
 - 明るさが変わるシーン
- 以下のときは、ロックオンAF機能は働きません。
 - [スイングパノラマ]
 - [スマートテレコンバーター]使用時
 - マニュアルフォーカス
 - [AF記録設定]が[120p]

AF補助光

AF補助光とは、暗所でフォーカスを合わせるための補助光です。AF補助光対応フラッシュ（別売）を装着しているとき、シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間、自動的に赤い補助光が発光して、フォーカスを合わせやすくします。

MENU →  **1 (撮影設定1)** → [ **AF補助光**] → **希望の設定を選ぶ。**

オート：暗所でAF補助光が自動発光する。

切：AF補助光を使用しない。

ご注意

- 以下のときは、 AF補助光は発光されません。
 - 動画撮影
 - スイングパノラマ
 - [フォーカスモード]が[コンティニュアスAF]のとき、または[AF制御自動切り換え]で被写体が動いているとき(フォーカス表示 \odot)または \odot が点灯しているとき)
 - ピント拡大中(66ページ)
 - 専用位相差AFエリア以外でフォーカスを合わせるとき(49ページ)
- AF補助光は明るい光です。安全上問題ありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使いください。

選択可能なフォーカスエリア

本機は最大399点のフォーカスエリアを使ったピント合わせが行えますが、使用するフォーカスエリア点数を手動で制限することができます。

MENU → **📷1 (撮影設定1)** → **[選択可能なフォーカスエリア]**
→ **希望の設定を選ぶ。**

オート：レンズや撮影モードにより、ピント合わせに使用するフォーカスエリア点数が自動的に設定される。最大399点のフォーカスエリアを使用することができる。

クロス測距エリアのみ：使用するフォーカスエリアを最大79点のクロス測距エリアのみに制限する。

■ レンズによるフォーカスエリア点数について

以下のレンズを使用時は、選択できるフォーカスエリア点数が制限されます。

レンズ型名	フォーカスエリア点数
SAL75300、SAL1118、SAL55200、SAL1855、SAL18552、SAL55200-2、SAL30M28、SAL55300	61点に制限。
SAL500F80	中央1点に制限。 [クロス測距エリアのみ]には設定できません。

- 本機発売日時点の情報です。また、国や地域によっては未発売のレンズがあります。

ヒント

- 以下のような場合に[クロス測距エリアのみ]に設定することをおすすめします。
 - 装着するレンズによってフォーカスエリア点数が自動で切り替わることを防ぎたいとき
 - 周辺のフォーカスエリアでピントが合いづらいとき
 - 選択できるフォーカスエリアの範囲を限定して、任意のエリアをすばやく選択したいとき

ご注意

- ハイブリッド位相差検出AFに非対応のレンズを装着している場合、または[AFシステム]が[専用位相差AFのみ]に設定されている場合は、[選択可能なフォーカスエリア]を[クロス測距エリアのみ]に設定していても、クロス測距を行わないフォーカスエリアも使用されます。
- 撮影モードが**動画**(動画/スロー & クイックモーション)のときは、[AFシステム]は[専用位相差AFのみ]に固定されます。また、フォーカスエリア点数は61点に固定されます。

フレキシブルスポット点数

[フォーカスエリア]の設定が[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]で任意のフォーカスエリアをすばやく選択したいときに、使用するフォーカスエリア点数を制限することができます。

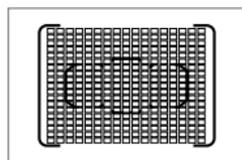
MENU → **カメラ1 (撮影設定1)** → **[フレキシブルスポット点数]** → **希望の設定を選ぶ。**

全て：最大323点のフォーカスエリア点数をすべて使用する。

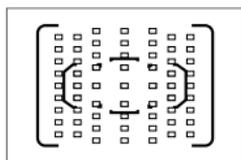
63点：323点のフォーカスエリア点数のうち、限定した63点のみを使用する。
ハイブリッド位相差検出AF対応レンズを装着し、[AFシステム]が[オート]に設定されている場合のみ選択可能。

15点：専用位相差AFエリアの点数のうち、限定した15点のみを使用する。

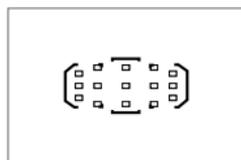
概念図



全て



63点



15点

AF微調整

レンズごとにピント合わせの位置を調整し、登録できます。通常はAF微調整機能でピント合わせの位置を調整する必要はありません。必要なAFエリア、焦点距離がある場合のみ調整を行ってください。調整によって適切なピント位置での撮影が行えなくなることがありますのでご注意ください。

1 MENU → 1 (撮影設定1) → [AF微調整] を選ぶ。

2 [AF微調整設定] → [入] を選ぶ。

3 中央のエリアの調整値を設定する。

- 値を大きくするとピントが合う位置がカメラから遠ざかり、値を小さくするとピントが合う位置がカメラに近づきます。
- 専用位相差AFエリアを調整する場合は中央のエリアの設定を行ってください。
- 中央のピント調整が不要な場合は、この手順は不要です。

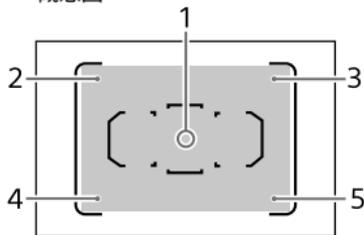
4 必要に応じて、四隅のエリアの調整値を設定する。

- 専用位相差AFエリアの外側のピント調整が必要な場合に、四隅のエリアの設定を行ってください。

AF微調整のエリアについて

レンズの広角(ワイド)側/望遠(テレ)側それぞれのピント位置を調整できます。ハイブリッド位相差検出AFシステムが有効になっているとき*は、中央エリア(1)に加え四隅のエリア(2～5)でもピント位置を調整できます。

概念図



- 中央エリアでは、像面位相差AFと専用位相差AFの両方のセンサーに対してピント位置を調整します。
- 四隅のエリアでは像面位相差AFセンサーに対してピント位置を調整します。

* ハイブリッド位相差検出AF対応レンズを装着し、[AFシステム]が[オート]に設定されているとき。

ヒント

- 調整は実際に撮影する距離で行うことをおすすめします。[フォーカスエリア]は[フレキシブルスポット]に設定し、明るいコントラストのある被写体で行ってください。

ご注意

- 広角端、望遠端の間の焦点距離のときは、それぞれの調整値を補完した値でピント位置が調整されます。
- 調整エリアと調整エリアの間のエリアは、それぞれのエリアでの調整値を補完した値でピント位置が調整されます。
- 像面位相差AFエリアが小さくなる場合(APS-Cレンズ装着時など)は、小さくなったAFエリア範囲内が調整対象エリアになります。
- 単焦点レンズを装着しているときは、望遠側の調整値を入力することはできません。広角側に入力された値でピント位置が調整されます。
- 以下のときは四隅のエリアのピント位置を調整することはできません。
 - [選択可能なフォーカスエリア]が[クロス測距エリアのみ]のとき
 - [フレキシブルスポット点数]が[15点]のとき
- すでに登録されたレンズを装着しているときは、登録された調整値が表示されます。未登録レンズの場合は[±0]が表示されます。

- 調整値が[-]と表示される場合は、すでに登録したレンズが30種になっており、これ以上登録できません。新たに登録するには、登録を削除するレンズを装着して調整値を[±0]にするか、[調整値クリア]ですべての登録された調整値を削除してください。
- [AF微調整]はソニー、ミノルタ、コニカミノルタ製レンズに対応しています。非対応のレンズで[AF微調整]を行うと、対応レンズの調整値に影響が出る場合があります。非対応レンズでは調整を行わないでください。
- ソニー、ミノルタ、コニカミノルタで同じ仕様のレンズをお使いの場合、個々にAF微調整の設定はできません。

AFシステム

像面位相差AFセンサーと専用位相差AFセンサーを同時に使用するハイブリッド位相差検出AFシステムでピント合わせをするか、専用位相差AFセンサーのみでピント合わせをするかを設定します。

MENU → 1 (撮影設定1) → [AFシステム] → 希望の設定を選ぶ。

オート：レンズや撮影モードに応じて像面位相差AFセンサーと専用位相差AFセンサーを使用する。

専用位相差AFのみ：常に専用位相差AFセンサーのみを使用する。

ご注意

- 撮影モードが~~目~~（動画/スロー & クイックモーション）のときは、[AFシステム]は[専用位相差AFのみ]になります。

マニュアルフォーカス

オートフォーカスが効きにくいときは、手動でピントを合わせると便利です。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを「MF」にする。

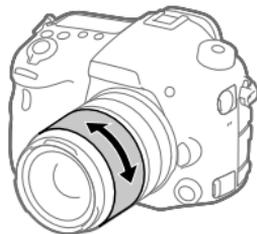
- SSMレンズやDMF対応のSAMレンズ*では、レンズのフォーカスモードスイッチを「AF」にしても、本機の操作でマニュアルフォーカスに切り換えることができます。

* SAL18135のみ(本機発売日時点)

2 レンズにフォーカスモードスイッチがない場合は、MENU → (撮影設定1) → [フォーカスモード] → [マニュアルフォーカス]を選ぶ。

- フロントマルチコントローラーに[フォーカスモード]が設定されている場合は、フロントマルチコントローラーでも設定できます(25ページ)。

3 フォーカスリングを左右に回して、被写体が最もはっきり見えるようにする。



4 シャッターボタンを押し込んで撮影する。

ご注意

- ファインダー使用時は、視度調整が正しくないと、ファインダー上の正確なピントが得られません(18ページ)。

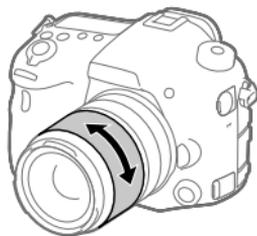
ダイレクトマニュアルフォーカス(DMF)

オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動で微調整できます。最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりもすばやくピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

1 MENU → **📷1 (撮影設定1)** → [フォーカスモード] → [DMF]を選ぶ。

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。

3 シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回してピントを調整する。



4 シャッターボタンを押し込んで撮影する。

ピント拡大

撮影前の画像を拡大してピントの確認ができます。

1 MENU → **📷1 (撮影設定1)** → [ピント拡大]を選ぶ。

2 マルチセレクターの中央を押して画像を拡大し、マルチセレクターの上/下/左/右で拡大位置を調整する。

- 中央を押すたびに、拡大倍率は切り替わります。
- 拡大表示する初期倍率は、MENU → **📷1 (撮影設定1)** → [📷 ピント拡大初期倍率]で設定できます。

3 ピントの確認をする。

- フォーカスモードが[マニュアルフォーカス]の場合は、拡大表示中にピントの調整を行えます。シャッターボタンを半押しすると、拡大表示は解除されます。
- 拡大表示する時間は、MENU → 1 (撮影設定1) → [ピント拡大時間] で設定できます。

4 シャッターボタンを押し込み撮影する。

■ ピント拡大の便利な使いかた

AF/MFコントロール機能を使うと、オートフォーカス後にピント拡大しながらピントの調整を行えます(53ページ)。

フォーカスモードが[マニュアルフォーカス]のときにAF/MFボタンを押してピントを合わせたあと、[ピント拡大]の操作を行ってください。

- レンズのフォーカスモードスイッチは「AF」にします。
- [カスタムキー (撮影)]で好みのボタンに[ピント拡大]の機能を割り当てておくことをおすすめします。
- SAL18135以外のSAMレンズでは、AF/MFコントロール機能を使用できません。(本機発売日時点)

ピーキングレベル

マニュアルフォーカス撮影や、ダイレクトマニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定した色で強調します。

MENU → **📷1 (撮影設定1)** → **[ピーキングレベル]** → **希望の設定を選ぶ。**

高：輪郭を強めに強調する。

中：輪郭を適度に強調する。

低：輪郭を弱めに強調する。

切：輪郭を強調しない。

ご注意

- 画像のシャープな部分をピントが合ったと判断するため、被写体やレンズによって強調表示効果が異なります。
- HDMI接続時はピーキングが表示されません。

ドライブ機能を使う(連写/セルフタイマー)

1枚撮影、連写、ブラケット撮影など、撮影の目的に合わせて使用してください。

☺/☺ (ドライブモード) ボタン → 希望の設定を選ぶ。

- MENU → 1 (撮影設定1) → [ドライブモード]でも設定できます。

1枚撮影：通常の撮影方法。

連続撮影：シャッターボタンを押している間、連続撮影する。

セルフタイマー：シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフタイマーで撮影する。

セルフタイマー (連続)：シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフタイマーで指定枚数を連続撮影する。

BRK C 連続ブラケット：シャッターボタンを押し続けることで、明るさを段階的にずらして画像を撮影する。

BRK S 1枚ブラケット：露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を1枚ずつ撮影する。

BRK WB ホワイトバランスブラケット：選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。

BRK DRO DROブラケット：Dレンジオプティマイザーの値を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。

連続撮影

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。

1 / (ドライブモード) ボタン → [連続撮影] を選ぶ。

- MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。

2 マルチセレクターの左/右で希望のモードを選ぶ。

 **連続撮影 : Hi+** : シャッターボタンを押している間、最高速で連続撮影する。1枚目の撮影時に絞りを固定する。

 **連続撮影 : Hi** /  **連続撮影 : Mid** /  **連続撮影 : Lo** : 連続撮影中もモニターまたはファインダーに被写体をリアルタイムに映し続けるため、被写体を追従しやすくなる。

■ 連続撮影時のオートフォーカス

連続撮影1枚目では、ハイブリッド位相差検出AF対応時は全エリアで、ハイブリッド位相差検出AF非対応時は専用位相差AFエリアでオートフォーカスが可能です。2枚目以降は以下の表に示した領域で動作します。レンズがハイブリッド位相差検出AFシステムに対応していても、以下の場合には1枚目のオートフォーカスは専用位相差AFエリアに制限されます。

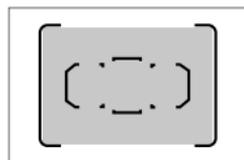
- [AFシステム] が [専用位相差AFのみ]
- [選択可能なフォーカスエリア] が [クロス測距エリアのみ]

	レンズのハイブリッド位相差検出AF対応状況*	2枚目以降のAF動作		
		開放 ~ F3.5	F4 ~ F8	F9 ~
連続撮影 : Hi+	対応	全エリア	全エリア (像面位相差AFのみ駆動)	ピントは1枚目で固定される
	非対応	専用位相差AFエリア (61点)	ピントは1枚目で固定される	ピントは1枚目で固定される

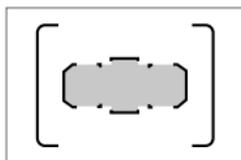
	レンズのハイブリッド位相差検出AF対応状況*	2枚目以降のAF動作		
		開放～F3.5	F4～F8	F9～
連続撮影：Hi/ 連続撮影：Mid	対応	全エリア	全エリア	専用位相差AF エリア
	非対応	専用位相差AF エリア	専用位相差AF エリア	専用位相差AF エリア
連続撮影：Lo	対応	全エリア	全エリア	全エリア
	非対応	専用位相差AF エリア	専用位相差AF エリア	専用位相差AF エリア

* 対応レンズは、専用サポートサイトでご確認ください。
<http://www.sony.net/hpd/>

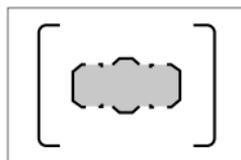
概念図



全エリア



専用位相差AFエリア

専用位相差AFエリア
(61点)

ヒント

- 連続撮影中にピントと露出を合わせ続けるには、以下の設定に変更してください。
 - [フォーカスモード]を[コンティニューAF]にする。
 - [シャッター半押しAEL]を[切]または[オート]にする。

ご注意

- [RAW記録方式]が[非圧縮]の場合、[連続撮影：Hi+]時の連続撮影の速度が遅くなります。
- [電子先幕シャッター]が[切]の場合、[連続撮影：Hi]、[連続撮影：Mid]、[連続撮影：Lo]時の連続撮影の速度が遅くなります。
- [連続撮影：Hi+]で連続撮影中はモニター、ファインダーに映る被写体はリアルタイムのものではありません。
- 以下のときは、連続撮影ができません。
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]
 - [ピクチャーエフェクト]が以下のとき：[リッチトーンモノクロ]
 - [DRO/オートHDR]が[オートHDR]

セルフタイマー

シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフタイマーで撮影します。5秒/10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に写るときに、2秒セルフタイマーはシャッターボタンを押したときのブレを軽減するときに使います。

1 / (ドライブモード) ボタン → [セルフタイマー] を選ぶ。

• MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。

2 マルチセレクターの左/右で希望のモードを選ぶ。

シャッターボタンを押してから撮影されるまでの秒数を設定する。

 10 セルフタイマー：10秒

 5 セルフタイマー：5秒

 2 セルフタイマー：2秒

3 ピントを合わせてシャッターボタンを押す。

セルフタイマーランプが点滅して電子音が鳴り、指定の秒数後に撮影が開始される。

ヒント

- セルフタイマーのカウントを中止するには、もう一度シャッターボタンを押すか、 /  (ドライブモード) ボタンを押します。
- セルフタイマーを解除するには、 /  (ドライブモード) ボタンを押して  (1枚撮影) を選びます。
- セルフタイマー作動中の電子音を消すには、[電子音] を [切] にしてください。
- ブラケットモードでセルフタイマー撮影するには、ドライブモードでブラケットを選択したうえで、MENU →  1 (撮影設定1) → [ブラケット設定] → [ブラケット時のセルフタイマー] を選んでください。

ご注意

- 以下のときは、セルフタイマーを使えません。
- 撮影モードが [スイングパノラマ]

セルフタイマー（連続）

シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフタイマーで指定枚数を連続撮影します。設定した枚数の中からお気に入りの1枚を選べます。

1 (ドライブモード) ボタン → [セルフタイマー（連続）] を選ぶ。

• MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。

2 マルチセレクターの左/右で希望のモードを選ぶ。

例えば、[セルフタイマー（連続）：10秒後 3枚]を選択すると、シャッターボタンを押して10秒後に、3枚連写する。

 セルフタイマー（連続）：10秒後 3枚

 セルフタイマー（連続）：10秒後 5枚

 セルフタイマー（連続）：5秒後 3枚

 セルフタイマー（連続）：5秒後 5枚

 セルフタイマー（連続）：2秒後 3枚

 セルフタイマー（連続）：2秒後 5枚

3 ピントを合わせてシャッターボタンを押す。

セルフタイマーランプが点滅して電子音が鳴り、指定の秒数後に撮影が開始される。指定した枚数が連続撮影される。

ヒント

- セルフタイマーのカウントを中止するには、もう一度シャッターボタンを押すか、 (ドライブモード) ボタンを押します。
- セルフタイマーを解除するには、 (ドライブモード) ボタンを押して  (1枚撮影) を選びます。

連続ブラケット

露出を自動的に標準/暗い/明るいの順ですらして撮影します(ブラケット撮影)。撮影した後に、イメージに合った明るさの画像を選ぶことができます。

1 (ドライブモード)ボタン → [連続ブラケット]を選ぶ。

- MENU → 1 (撮影設定1) → [ドライブモード]でも設定できます。

2 マルチセレクターの左/右で希望のモードを選ぶ。

例えば、[連続ブラケット : 0.3EV 3枚]を選択すると、0.3EVずつ、+側と-側にそれぞれ露出値をずらして3枚ブラケット撮影する。

3 ピントを合わせて撮影する。

- 基準の露出は1枚目で設定されます。
- 撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続けます。

ご注意

- オートレビューには最後の1枚が表示されます。
- [マニュアル露出]で[ISO AUTO]のときはISO感度を変えて露出値をずらします。
[ISO AUTO]以外の設定ではシャッタースピードを変えて露出値をずらします。
- 露出値を補正しているときは、補正された露出値を基準に露出をずらします。
- 撮影モードが以下の場合は、ブラケット撮影できません。
 - [おまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
- フラッシュ発光時は[連続ブラケット]を選んでいても、調光量をずらして撮影するフラッシュブラケットになります。1枚ずつシャッターボタンを押して撮影してください。

1枚ブラケット

露出を自動的に標準/暗い/明るいの順でずらして撮影します(ブラケット撮影)。撮影した後に、イメージに合った明るさの画像を選ぶことができます。

1枚ずつシャッターボタンを押して撮影するので、撮影ごとにピントや構図を合わせたいときなどに便利です。

1 / (ドライブモード)ボタン → [1枚ブラケット]を選ぶ。

- MENU → 1 (撮影設定1) → [ドライブモード]でも設定できます。

2 マルチセレクターの左/右で希望のモードを選ぶ。

例えば、[1枚ブラケット : 0.3EV 3枚]を選択すると、0.3EVずつ、+側と-側 にそれぞれ露出値をずらして1枚ずつ3枚ブラケット撮影する。

3 ピントを合わせて撮影する。

- 1枚ずつシャッターボタンを押して撮影します。

ご注意

- [マニュアル露出]で[ISO AUTO]のときはISO感度を変えて露出値をずらしません。
[ISO AUTO]以外の設定ではシャッタースピードを変えて露出値をずらしません。
- 露出値を補正しているときは、補正された露出値を基準に露出をずらしません。
- 撮影モードが以下の場合、ブラケット撮影できません。
 - [おまかせオート]
 - [スイングパノラマ]

ブラケット撮影時のインジケーター

	定常光*ブラケット 段数0.3段 3枚 露出補正 ±0.0段	フラッシュブラケット 段数0.7段 3枚 調光補正 -1.0段
ファインダー		表示されません
モニター (全情報表示/ヒストグラムするとき)		
モニター (ファインダー撮影用のとき)	 (上段に表示)	 (下段に表示)

* 定常光：自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれます。

ご注意

- ブラケット撮影時には、ブラケット撮影枚数分の指標がブラケットインジケーターに表示されます。
- 1枚ブラケットの場合、撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えていきます。

ホワイトバランスブラケット

選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録します。

1 (ドライブモード) ボタン →

[ホワイトバランスブラケット] を選ぶ。

- MENU → 1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。

2 マルチセレクターの左/右で希望のモードを選ぶ。

BRK_{Lo}WB ホワイトバランスブラケット : **Lo** : ホワイトバランスの変化が小さい (10MK¹*の幅で) 3枚の画像を記録する。

BRK_{Hi}WB ホワイトバランスブラケット : **Hi** : ホワイトバランスの変化が大きい (20MK¹*の幅で) 3枚の画像を記録する。

* MK¹ : 色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位(ミレッドと同じ値)。

3 ピントを合わせて撮影する。

ご注意

- オートレビューには最後の1枚が表示されます。

DROブラケット

Dレンジオプティマイザーの値を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録します。

1 (ドライブモード) ボタン → [DROブラケット] を選ぶ。

- MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。

2 マルチセレクターの左/右で希望のモードを選ぶ。

BRK_{Lo}DRO DROブラケット : **Lo** : Dレンジオプティマイザーの値の変化が小さい 3枚 (Lv1、Lv2、Lv3) の画像を記録する。

BRK_{Hi}DRO DROブラケット : **Hi** : Dレンジオプティマイザーの値の変化が大きい 3枚 (Lv1、Lv3、Lv5) の画像を記録する。

3 ピントを合わせて撮影する。

ご注意

- オートレビューには最後の1枚が表示されます。

■ブラケット設定

ブラケットモード時のセルフタイマー撮影や、露出ブラケット/ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定します。

① / (ドライブモード)ボタン → ブラケットを選ぶ。

- MENU → 1 (撮影設定1) → [ドライブモード]でも設定できます。

② MENU → 1 (撮影設定1) → [ブラケット設定] → 希望の設定を選ぶ。

ブラケット時のセルフタイマー：ブラケット撮影時にセルフタイマー撮影を行うかどうか設定する。セルフタイマー撮影を行う場合、撮影までの秒数を設定する。

(OFF/2秒/5秒/10秒)

ブラケット順序：露出ブラケット、ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定する。

(0 → - → + / - → 0 → +)

静止画の画像サイズ/画質を選ぶ

📷画像サイズ

画像サイズが大きいほど、大きな用紙にも精細にプリントできます。
小さくすると、たくさん撮影できます。

MENU → 📷1 (撮影設定1) → [📷 画像サイズ] → 希望の設定
を選ぶ。

撮影

[横縦比]が3:2のとき		[横縦比]が16:9のとき	
L: 42M	7952×5304画素	L: 36M	7952×4472画素
M: 18M	5168×3448画素	M: 15M	5168×2912画素
S: 11M	3984×2656画素	S: 8.9M	3984×2240画素

[APS-C/Super 35mm]が[入]のとき

[横縦比]が3:2のとき		[横縦比]が16:9のとき	
L: 18M	5168×3448画素	L: 15M	5168×2912画素
M: 11M	3984×2656画素	M: 8.9M	3984×2240画素
S: 4.5M	2592×1728画素	S: 3.8M	2592×1456画素

📌ご注意

- [📷画質]で[RAW]、[RAW+JPEG]を選ぶと、RAW画像の画像サイズはL相当となります。

横縦比

MENU → **📷1 (撮影設定1)** → [**横縦比**] → 希望の設定を選ぶ。

3 : 2 : 通常のプリントを行うのに適したサイズ。

16 : 9 : ハイビジョンテレビでの鑑賞に適したサイズ。

画質

MENU → **📷1 (撮影設定1)** → [**画質**] → 希望の設定を選ぶ。

RAW : ファイル形式 : RAW

デジタル処理などの加工をしていないファイル形式。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときを選ぶ。

- 画像サイズは常に最大サイズで固定され、モニターには画像サイズは表示されない。

RAW+JPEG : ファイル形式 : RAW+JPEG

RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像を使うなど、両方の画像を記録したい場合に便利。JPEGの画質は[ファイン]になる。

エクストラファイン : ファイル形式 : JPEG

画像がJPEG形式で圧縮され、[ファイン]よりきれいな画質で記録される。

ファイン : ファイル形式 : JPEG

画像がJPEG形式で圧縮されて記録される。

スタンダード : ファイル形式 : JPEG

画像がJPEG形式で圧縮されて記録される。[スタンダード]は[ファイン]に比べて圧縮率が高くなるためデータ量が少なくなる。1枚のメモリーカードに記録できる枚数は増えるが、画質は劣化する。

RAWについて

- 本機で撮影したRAW画像を開くにはImage Data Converterが必要です。このソフトウェアを使えば、RAW画像を開いたあと、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整することができます。
- RAW形式の画像には、[オートHDR]、[ピクチャーエフェクト]を設定できません。
- 本機で撮影したRAW画像は、1ピクセルに対して14ビットの分解能を持っています。ただし、以下の撮影時は、12ビットの分解能に制限されます。
 - [長秒時NR]
 - [BULB]
 - 連続撮影
- [RAW記録方式]で、RAWデータの圧縮/非圧縮の設定を変更できます。

ご注意

- パソコンでの加工を予定していない場合は、JPEG形式で記録することをおすすめします。
- RAW画像には、DPOF（プリント予約）指定できません。

APS-C/Super 35mm

静止画撮影時はAPS-Cサイズ相当、動画撮影時はSuper35mm相当のサイズで記録するかどうかを設定します。[入]または[オート]に設定することで、APS-Cサイズ専用レンズも本機で使用できます。

MENU → 1 (撮影設定1) → [APS-C/Super 35mm] → 希望の設定を選ぶ。

入：APS-CサイズまたはSuper35mmサイズで記録する。

オート：レンズにより、自動的に記録範囲を決定する。

切：常に35mmフルサイズで撮影する。

ご注意

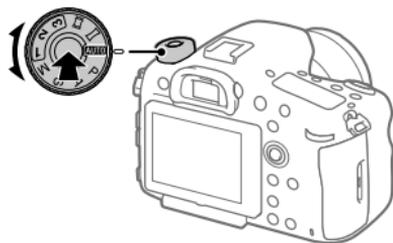
- APS-C用レンズを装着して、[APS-C/Super 35mm]を[切]にすると、撮影がうまくいかないことがあります。
- [APS-C/Super 35mm]を[入]にすると、APS-Cサイズのイメージセンサーで撮影するときと同じ画角になります。

撮影モードを変える

モードダイヤルの機能一覧

モードダイヤルを回して、希望の撮影モードを選べます。

- モードダイヤル中央のモードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、モードダイヤルを回してください。



設定できる機能

i (おまかせオート)	カメラまかせでシーンを認識して撮影する。
P (プログラムオート)	露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定するが、その他の設定は自分で調整できる。
A (絞り優先)	背景をぼかしたいときなど、絞り値を設定して撮影する。
S (シャッタースピード優先)	動きの速いものを撮るときなど、シャッタースピードを設定して撮影する。
M (マニュアル露出)	露出(シャッタースピードと絞り)を調節して、好みの露出で撮影する。
1/2/3 (登録呼び出し)	あらかじめ登録しておいた、よく使うモードや数値の設定を呼び出して撮影できる。
🎬 (動画/スロー&クイックモーション)	動画撮影やスローモーション/クイックモーション撮影に関する設定を変更して、動画を撮影できる。
📷 (スイングパノラマ)	画像を合成してパノラマ画像を撮影できる。

AUTO (i📷 おまかせオート)

カメラまかせでシーン認識をして撮影します。

1 モードダイヤルをAUTOにする。

- 撮影モードがi📷 (おまかせオート)になる。

2 被写体にカメラを向ける。

シーンを認識すると、シーン認識マークが表示される。



3 ピントを合わせて撮影する。

ご注意

- 光学ズーム以外でのズーム撮影時は、シーン認識は働きません。
- 状況により、シーンはうまく認識されない場合があります。

■ シーン認識について

[おまかせオート]では、シーン認識が働きます。これは本機が自動的に撮影状況を認識して、撮影する機能です。

シーン認識

シーンを認識すると上段に下記のマークとガイドが表示されます。

👤 (人物)、👶 (赤ちゃん)、👤 (夜景&人物)、🌙 (夜景)、👤 (逆光&人物)、
☀️ (逆光)、🏔️ (風景)、🌸 (マクロ)、📷 (スポットライト)、🌑 (低照度)、
🌃 (三脚夜景)

撮影処理

[スローシンクロ]、[日中シンクロ]、[スローシャッター]

ご注意

- [顔検出]機能が[切]のとき、[人物]、[逆光&人物]、[夜景&人物]、[赤ちゃん]は認識されません。

オート撮影の特徴

本機には[おまかせオート]が搭載されています。

i📷 (おまかせオート) : カメラまかせでシーン認識をして撮影したいときに使います。

ご注意

- [おまかせオート]の場合、多くの機能が自動設定となり、自分で変更できません。

P プログラムオート

露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定します。

[ISO感度]などの撮影機能を好みの設定に変更できます。

1 モードダイヤルをP (プログラムオート)にする。

2 撮影機能を希望の設定にする。

3 ピントを合わせて撮影する。

■プログラムシフト

フラッシュを使用していないときに、カメラが設定した適正露出のままシャッタースピードと絞り(F値)の組み合わせを変更できます。シャッターボタンを半押しして露出を合わせた状態で前/後ダイヤルを回し、絞り値とシャッタースピードの組合せを選んでください。

- 前/後ダイヤルを回すと、モニターの表示が「P」から「P*」に変わります。
- 解除するには、撮影モードを[プログラムオート]以外にするか、本機の電源を切ってください。

ご注意

- 撮影する環境の明るさによって、プログラムシフトができない場合があります。
- 撮影モードを「P」以外にするか、電源を切ると設定は解除されます。
- 明るさが変わるとシャッタースピードと絞り(F値)はプログラムシフトの組み合わせを保持したまま変化します。

A 絞り優先

ピントの合う範囲や背景のぼかし具合を変えて撮影できます。

1 モードダイヤルをA (絞り優先)にする。

2 前/後ダイヤルで希望の数値を選ぶ。

- 絞り値を小さくする：被写体の前後がぼける。
絞り値を大きくする：被写体の前後までくっきりとピントが合う。
- 設定した絞り値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、シャッタースピードが点滅します。この場合は、絞り値を変更してください。

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、シャッタースピードが自動的に設定される。

ヒント

- プレビューボタン(17ページ)を押している間、設定した絞り値まで絞り込まれ、撮影前にぼけ具合を確認できます。

ご注意

- モニターの画像の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。

S シャッタースピード優先

シャッタースピードを調整し、動きを止めて写したり、軌跡を写したりするなど動くものの表現を変えた撮影ができます。

1 モードダイヤルをS (シャッタースピード優先)にする。

2 前/後ダイヤルで希望の数値を選ぶ。

- 設定したシャッタースピードで適正露出にならないと本機が判断した場合は、絞り値が点滅します。この場合は、シャッタースピードを変更してください。

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、絞り値が自動的に設定される。

ヒント

- シャッタースピードを遅くするときは手ブレを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。
- 室内スポーツを撮影するときは、ISO感度を高くしてください。

ご注意

- シャッタースピード優先モードでは、手ブレ警告アイコンは表示されません。
- [長秒時NR]を[入]にしているときは、シャッタースピードを1秒または1秒より遅くして撮影(長時間露光)すると、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。処理中は撮影できません。
- モニターの画像の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。

M マニュアル露出

絞り値とシャッタースピードの両方を調節して、自分の好みの露出で撮影できます。

1 モードダイヤルをM (マニュアル露出)にする。

2 前ダイヤルを回して、絞り値を選ぶ。

後ダイヤルを回して、シャッタースピードを選ぶ。

- MENU →  2 (撮影設定2) → [ダイヤルの設定]で前/後ダイヤルの設定を変更できます。
 - マニュアル露出モードでも[ISO感度]を[ISO AUTO]に設定できます。調整した絞り値とシャッタースピードで適正露出になるように、ISO感度が変化します。
 - [ISO感度]を[ISO AUTO]に設定したとき、設定した値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、ISO感度の表示が点滅します。この場合はシャッタースピードまたは絞り値を変更します。
 - [ISO感度]が[ISO AUTO]以外の場合、「MM」(メータードマニュアル) *で露出値を確認できます。
 - ＋側：明るく写る。
 - －側：暗めに写る。
 - 0：本機が判断した適正露出。
- * 適正露出に対するアンダー / オーバーを示します。モニターでは数値で、ファインダーでは測光インジケータで表示されます。

3 ピントを合わせて撮影する。

ヒント

- AELボタンを押しながら前/後ダイヤルを回すと、設定した露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。(マニュアルシフト)

ご注意

- [ISO感度]を[ISO AUTO]にしたときは、メータードマニュアルは表示されません。
- メータードマニュアルの測光範囲を超えている場合は、メータードマニュアルの値が点減します。
- マニュアル露出モードでは、手ブレ警告アイコンは表示されません。
- モニターの画像の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。

Mバルブ撮影

長時間露光で、動きの軌跡を撮影できます。
星の軌跡や、花火の光が尾を引くような写真を撮る場合に適しています。

1 モードダイヤルをM (マニュアル露出)にする。

2 [BULB]が出るまで後ダイヤルを左に回す。

3 前ダイヤルで絞り値(F値)を選ぶ。

4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。

5 必要な時間、シャッターボタンを押し続けて撮影する。

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになる。

ヒント

- 打ち上げ花火などのときは、マニュアルフォーカスにしてピントを無限遠にしてください。無限遠の位置がわからないレンズの場合は、同じような場所に上がる花火であらかじめピントを決めて撮影します。
- 画質を低下させずにバルブ撮影を行うためには、本機の温度が下がった状態で撮影を開始することをおすすめします。
- 画像がブレやすくなるため、三脚やシャッターボタンのロック機能を持つ対応リモートコマンダー (別売)のご使用をおすすめします。

ご注意

- 露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理が行われます。処理中は撮影できません。
- 以下の場合はシャッタースピードを[BULB]に設定できません。
 - [オートHDR]
 - [ピクチャーエフェクト]が[リッチトーンモノクロ]
 - [ドライブモード]が以下のとき
 - [連続撮影]
 - [セルフタイマー (連続)]
 - [連続ブラケット]

シャッタースピードを[BULB]に設定しているときに、上記機能を使用すると、シャッタースピードは一時的に30秒になります。

📷1/📷2の呼び出し

よく使うモードやカメラの設定の組み合わせを[📷1/📷2の登録]であらかじめ登録しておき、呼び出して使うことができます。

1 モードダイヤルを1、2、3 (登録呼び出し)にする。

2 マルチセレクターの中央を押して決定する。

- MENU → 📷1 (撮影設定1) → [📷1/📷2の呼び出し]で呼び出すこともできます。

ヒント

- メモリーカードに登録された設定を呼び出すには、モードダイヤルを「1」、「2」または「3」にして、マルチセレクターの左/右で好みの番号を選択してください。
- メモリーカードに登録された設定を呼び出す場合、[記録メディア選択]で選択されているメモリーカードスロットのメモリーカードから呼び出されます。MENU → 📷 (セットアップ) → [記録メディア選択]でスロットを確認できます。
- 他の同型名の機種でメモリーカードに登録された設定を、本機で呼び出すこともできます。

ご注意

- 撮影に関する設定を行ったあとで[📷1/📷2の呼び出し]を行うと、呼び出された[📷1/📷2の登録]の値が優先され、最初に行った設定が無効になる場合があります。モニターで設定値を確認してから撮影してください。

📷 動画/スロー & クイックモーション

動画やスロー&クイックモーション撮影時の露出モードを設定できません。スロー&クイックモーション撮影時の設定や再生速度は[S&Q スロー & クイック設定]で変更できます(132ページ)。

1 モードダイヤルを📷 (動画/スロー & クイックモーション)にする。

2 MENU → 📷2 (撮影設定2) →

[動画/スロー & クイックモーション] → 希望の設定を選ぶ。

📷P プログラムオート / S&Q P プログラムオート: 露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定する。

📷A 絞り優先 / S&Q A 絞り優先: 絞りを手動設定する。

📷S シャッタースピード優先 / S&Q S シャッタースピード優先: シャッタースピードを手動設定する。

📷M マニュアル露出 / S&Q M マニュアル露出: 露出(シャッタースピードと絞り)を手動設定する。

3 MOVIE (動画) ボタンを押して撮影を開始する。

- 撮影を終了するには、もう一度MOVIEボタンを押します。

ご注意

- 動画やスロー&クイックモーション撮影時にフロントマルチコントローラーを操作するときは、フロントマルチコントローラークリック切換スイッチを「OFF」にしてください。「ON」にしたまま、撮影中にフロントマルチコントローラーを操作すると操作音が記録されます(26ページ)。
- 撮影モードが**AF**(動画/スロー&クイックモーション)のときは、[AFシステム]は[専用位相差AFのみ]になります。また、フォーカスエリア点数は61点に固定されません。

露出/測光をコントロールする

露出補正

通常は、露出が自動的に設定されます(自動露出)。自動露出で設定された露出値を基準に、+側に補正すると画像全体を明るく、-側に補正すると画像全体を暗くできます(露出補正)。

1 露出補正ボタンを押す。

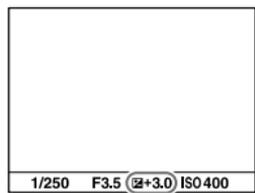
- MENU →  1 (撮影設定1) → [露出補正]でも設定できます。

露出補正ボタン

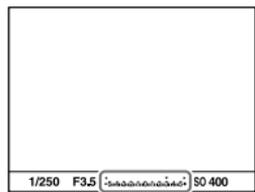


2 マルチセレクターの左/右で希望の設定を選ぶ。

- 露出は-5.0 EV ~ +5.0 EVの範囲で設定できます。
- 設定した露出補正值は撮影画面で確認できます。



モニター表示



ファインダー表示

ご注意

- 撮影モードが以下のときは、露出補正できません。
- [おまかせオート]
- [マニュアル露出]時は、[ISO感度]が[ISO AUTO]のときのみ露出補正できます。
- 撮影時に画面で確認できる数値は-3.0EVから+3.0EVまでです。その範囲外に設定した場合は、撮影時の画面では明るさは変わりませんが、記録した画像には反映されます。
- 動画撮影時は-2.0EVから+2.0EVの範囲で調整できます。
- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュ撮影時は、十分な効果が得られないことがあります。

測光モード

本機が自動で露出を決めるとき、モニターのどの部分で光を測るか(測光)を設定します。

MENU → 1 (撮影設定1) → [測光モード] → 希望の設定を選ぶ。

-  **マルチ**：複数の分割したモニターを各エリアごとに測光し、画面全体の最適な露出を決定する(マルチパターン測光)。
-  **中央重点**：モニターの中央部に重点をおきながら、全体の明るさを測光する(中央重点測光)。
-  **スポット**：スポット測光サークル内のみで測光する。画面内の特定の場所を部分的に測光したいときに適している。測光サークルの大きさを[スポット：標準]と[スポット：大]から選択できる。測光サークルの位置は[スポット測光位置]の設定によって異なる。
-  **画面全体平均**：画面全体を平均的に測光する。構図や被写体の位置によって露出が変化しにくい。
-  **ハイライト重点**：画面内のハイライト部分を重点的に測光する。被写体の白とびを抑えて撮影したいときに適している。

ヒント

- [測光モード]を[ハイライト重点]に設定して[Dレンジオブティマイザー]や[オートHDR]を使用すると、明暗の差を細かな領域に分けて分析し、明るさやコントラストが自動補正されます。撮影状況に合わせてご使用ください。

ご注意

- 以下の撮影モードのときは、[測光モード]は[マルチ]に固定されます。
 - [おまかせオート]
 - 光学ズーム以外のズーム
- [ハイライト重点]を選択しているとき、撮りたい被写体よりも明るい物が画面内にあると、被写体が暗く写ることがあります。

スポット測光位置

[フォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]のときに、スポット測光位置をフォーカスエリアに連動させるかどうかを設定します。

MENU →  1 (撮影設定1) → [スポット測光位置] → 希望の設定を選ぶ。

中央：スポット測光位置がフォーカスエリアに連動せず、常に中央で測光する。

フォーカス位置連動：スポット測光位置がフォーカスエリアに連動する。

ご注意

- [フォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]以外の場合は、スポット測光位置は中央に固定されます。
- [フォーカスエリア]が[ロックオンAF：フレキシブルスポット]または[ロックオンAF：拡張フレキシブルスポット]の場合は、スポット測光位置がロックオンAF開始位置に連動しますが、被写体の追尾には連動しません。

AEロック

逆光や窓際などでの撮影で、背景と被写体に大きな明暗の差がある場合は、被写体が適正な明るさになる箇所で測光し、露出を固定して撮影します。被写体の明るさを抑えたいときは被写体よりも明るい箇所で測光し、被写体をより明るく写したいときは被写体よりも暗い箇所で測光し、画面全体の露出を固定します。

1 露出を合わせる箇所に、ピントを合わせる。

2 AELボタンを押す。

露出が固定され、* (AEロックマーク) が点灯する。



3 AELボタンを押したまま、撮影したい被写体にピントを合わせ直し、撮影する。

- 露出値を一定に保ったまま連続で撮影するときは、撮影後もAELボタンを押したままにする。指を離すと露出固定は解除される。

ヒント

- MENU → 2 (撮影設定2) → [カスタムキー (撮影)] → [AELボタン] → [再押しAEL] を選ぶと、ボタンを押し続けなくても露出を固定できます。

ご注意

- 光学ズーム以外のズームを使用しているときは、[押し間スポットAEL] または [再押しスポットAEL] は使えません。

ゼブラ

画面に映る画像の中で、設定した輝度レベル(IRE)部分にしま模様が表示されます。明るさを調節するときの目安にすると便利です。

MENU → 2 (撮影設定2) → [ゼブラ] → 希望の設定を選ぶ。

切：しま模様を表示しない。

70/75/80/85/90/95/100/100+/カスタム1/カスタム2：輝度レベルを設定する。

ヒント

- [ゼブラ]の設定値には、輝度レベルを表す数値以外に、露出確認用と白とび確認用の設定を登録することができます。お買い上げ時には[カスタム1]には露出確認用、[カスタム2]には白とび確認用の設定が登録されています。
- 露出確認用として使用する場合は、ゼブラ表示する輝度レベルの基準値と、その範囲数値を指定します。指定された範囲の輝度部分がゼブラ表示されます。
- 白とび確認用として使用する場合は、ゼブラ表示する輝度レベルの下限値を指定します。指定した数値以上の輝度部分がゼブラ表示されます。

ご注意

- HDMI接続時はゼブラが表示されません。

明るさ/コントラストを自動補正する

Dレンジオプティマイザー (DRO)

被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にします。

1 MENU → **📷1 (撮影設定1)** → **[DRO/オートHDR]** → **[Dレンジオプティマイザー]** を選ぶ。

2 マルチセレクターの左/右を押して、希望の設定を選ぶ。

☑️ Dレンジオプティマイザー：オート：本機が自動で調整する。

🔍 Dレンジオプティマイザー：Lv1 ~ Dレンジオプティマイザー：Lv5：撮影画像の階調を画像の領域ごとに最適化する。Lv1 (弱) ~ Lv5 (強) で最適化レベルを選ぶ。

ご注意

- 以下の場合、[Dレンジオプティマイザー]は[切]に固定されます。
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]
 - [ピクチャーエフェクト]が[切]以外するとき
 - [ピクチャープロフィール]が[切]以外するとき
- [📷 記録方式]が[120p 100M]、[120p 60M]のとき、[DRO/オートHDR]は[切]に設定されます。
- [Dレンジオプティマイザー]動作時は、ノイズが目立つ場合があります。特に補正効果を強めるときは、撮影後の画像を確認しながらレベルを選んでください。

オートHDR

露出の異なる3枚の画像を撮影し、適正露出の画像とアンダー画像の明るい部分、オーバー画像の暗い部分を合成することにより階調豊かな画像にします(HDR: High Dynamic Range)。適正露出画像と合成された画像の2枚が記録されます。

1 MENU →  1 (撮影設定1) → [DRO/オートHDR] → [オートHDR]を選ぶ。

2 マルチセレクターの左/右を押して、希望の設定を選ぶ。

 **オートHDR: 露出差オート:** 本機が自動で調整する。

 **オートHDR: 露出差1.0EV ~ オートHDR: 露出差6.0EV:** 被写体の明暗差に応じて露出差を設定する。1.0EV (弱) ~ 6.0EV (強)で最適化レベルを選ぶ。

例: 2.0EVでは、-1.0EVの画像、適正露出の画像、+1.0EVの画像の3枚が合成される。

ヒント

- 一度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意してください。
 - 動きや点滅発光などが無い被写体のときに設定する。
 - 構図が変わらないように撮影する。

ご注意

-  [画質]が、[RAW]または[RAW+JPEG]のときは設定できません。
- 撮影モードが以下のときは、[オートHDR]を設定できません。
 - [おまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
- 以下の場合は、[オートHDR]を設定できません。
 - [ピクチャーエフェクト]が[切]以外のとき
 - [ピクチャープロファイル]が[切]以外のとき
- 撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 被写体の輝度差の状況や撮影環境によっては思い通りの効果を得られないことがあります。

- フラッシュ発光時は、効果がほとんど得られません。
- コントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好なHDR画像が撮影できていないことがあります。カメラがブレを検出した場合は、再生画像に**HDR** を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

ISO感度を選ぶ

光に対する感度は、ISO感度(推奨露光指数)で表します。数値が大きいほど高感度になります。

ISOボタン → 希望の設定を選ぶ。

- MENU → 1 (撮影設定1) → [ISO感度]でも設定できます。
- 前ダイヤルを回すとマルチセレクターで選ぶのと同様に1/3段ずつ数値を変更できます。後ダイヤルを回すと1段ずつ数値を変更できます。

ISO AUTO : カメラが明るさに応じた感度を自動で設定する。

ISO 50 ~ ISO 102400 : お好みの感度をマニュアルで設定する。数値が大きいほど高感度になる。

ヒント

- [ISO AUTO]時に自動設定されるISO感度の範囲を変更できます。[ISO AUTO]を選択したときに、マルチセレクターの右を押して、[ISO AUTO 上限] / [ISO AUTO 下限]を選んで希望の数値を設定してください。

ご注意

- 以下のときは、[ISO AUTO]に設定されます。
 - [おまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
- ISO感度が高くなるほど、ノイズが増えます。
- 動画撮影時はISO100 ~ ISO25600の範囲で選べます。
- 静止画撮影時、動画撮影時、またはスロー&クイックモーション撮影時で、選べる設定が異なります。
- 撮影モードが「P」、「A」、「S」、「M」のとき、ISO感度を[ISO AUTO]にすると、設定された範囲内で自動設定されます。

ISO AUTO低速限界

撮影モードが**P** (プログラムオート) または **A** (絞り優先) で [ISO AUTO] を選択したときに、ISO感度が変わり始めるシャッタースピードを設定できます。

この機能は、動いている被写体を撮影するときに効果的です。手ブレを抑えながら、被写体ブレも軽減することができます。

MENU →  **1 (撮影設定1)** → **[ISO AUTO低速限界]** → **希望の設定を選ぶ。**

FASTER (より高速) / FAST (高速) : [標準] よりも速いシャッタースピードで ISO感度が変わり始めるため、手ブレや被写体ブレを抑えることができる。

STD (標準) : レンズの焦点距離に応じてカメラが自動で設定する。

SLOW (低速) / SLOWER (より低速) : [標準] よりも遅いシャッタースピードで ISO感度が変わり始めるため、ノイズの少ない写真を撮影できる。

1/8000 ~ 30" : 設定したシャッタースピードで ISO感度が変わり始める。

ヒント

- [より高速]、[高速]、[標準]、[低速]、[より低速] で ISO感度が変わり始めるシャッタースピードの差は、それぞれ1段分です。

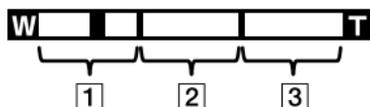
ご注意

- ISO感度を、[ISO AUTO] 時に設定した [ISO AUTO 上限] まで上げても露出不足になる場合は、適正露出で撮影するために [ISO AUTO低速限界] で設定したシャッタースピードよりも低速になります。
- 以下の場合、設定されたシャッタースピードのとおりには動作しないことがあります。
 - 明るいシーンをフラッシュ撮影するとき (高速側のシャッタースピードがフラッシュ同調速度1/250秒で制限されるため)
 - [フラッシュモード] が [強制発光] または [ワイヤレス] で、暗いシーンをフラッシュ撮影するとき (低速側のシャッタースピードが、カメラが自動で判断したシャッタースピードで制限されるため)

ズームする

本機で使用できるズームの種類

本機では、いくつかのズームを組み合わせることで、高倍率のズームができます。ズームの種類によってモニターに表示されるアイコンが変わります。



① スマートズーム範囲 (s🔍)

画像を部分的に切り出して、画質を劣化させずに拡大する。(画像サイズがM、Sのときのみ。)

② 全画素超解像ズーム範囲 (c🔍)

画質劣化の少ない画像処理により拡大する。[ズーム設定]を[入：全画素超解像ズーム]または[入：デジタルズーム]にすると使用できます。

③ デジタルズーム範囲 (D🔍)

画像処理により拡大する。[ズーム設定]を[入：デジタルズーム]にすると使用できます。

ご注意

- お買い上げ時の設定では、[ズーム設定]は[光学ズームのみ]に設定されています。
- お買い上げ時の設定では、[📷 画像サイズ]は[L]に設定されています。スマートズームを使用したい場合は、[📷 画像サイズ]をMまたはSに変更してください。
- 以下の場合、光学ズーム以外のズームは使えません。
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]のとき
 - [📷 画質]が[RAW]または[RAW+JPEG]
 - [📅 記録設定]が[120p]
 - スロー&クイックモーション撮影時
- 動画撮影中は、スマートズームは使用できません。
- 光学ズーム以外のズーム使用時は、[測光モード]は[マルチ]になります。

- 光学ズーム以外のズームを使用中は、下記の機能は使用できません。
 - 顔検出
 - ロックオンAF
- 動画撮影中に光学ズーム以外のズームをする場合、[カスタムキー (撮影)]で希望のボタンに[ズーム]を設定してください(153ページ)。

全画素超解像ズーム/デジタルズーム(ズーム)

光学ズーム以外のズームを使って、ズームレンズによる光学ズームの倍率以上に拡大できます。

全画素超解像ズームとデジタルズームは、スマートテレコンバーター機能と同時に使用することはできません。光学ズーム以外のズームを使うためには、 (スマートテレコンバーター) 機能をいずれのカスタムキーにも割り当てないようにします。

1 MENU →  2 (撮影設定2) → [カスタムキー (撮影)] → [ ボタン] (スマートテレコンバーターボタン) に [ズーム] の機能を設定する。

2 MENU →  2 (撮影設定2) → [ズーム設定] で [入：全画素超解像ズーム] または [入：デジタルズーム] を選ぶ。

3  (スマートテレコンバーター) ボタンを押し、マルチセレクターの左/右を押して、好みの倍率を選ぶ。

終了するときは、マルチセレクターの中央を押す。

- MENU →  2 (撮影設定2) → [ズーム] でも設定できます。

ズーム倍率について

画像サイズによって、レンズのズーム倍率に組み合わせられる倍率は変わります。

[横縦比]が[3 : 2]の場合

ズーム設定	 画像サイズ	フルサイズ/ APS-C	ズーム倍率
光学ズームのみ(スマートズーム含む)	L	—	—
	M	フルサイズ	約1.5倍
		APS-C	約1.3倍
	S	フルサイズ	約2倍
		APS-C	約2倍
	入:全画素超解像ズーム	L	フルサイズ
APS-C			約2倍
M		フルサイズ	約3.1倍
		APS-C	約2.6倍
S		フルサイズ	約4倍
		APS-C	約4倍
入:デジタルズーム	L	フルサイズ	約4倍
		APS-C	約4倍
	M	フルサイズ	約6.2倍
		APS-C	約5.2倍
	S	フルサイズ	約8倍
		APS-C	約8倍

ホワイトバランス

撮影環境での光の色の影響を補正して、白いものを白く写すための機能です。画像の色合いが思った通りにならないときや、色合いを変化させて雰囲気を表現したいときに使います。

WB (ホワイトバランス) ボタン → 希望の設定を選ぶ。

• MENU → 1 (撮影設定1) → [ホワイトバランス]でも設定できます。

AWB オート / 太陽光 / 日陰 / 曇天 / 電球 /
 -1 蛍光灯: 温白色 / 0 蛍光灯: 白色 / +1 蛍光灯: 昼白色 /
 +2 蛍光灯: 昼光色 / フラッシュ / 水中オート: 被写体を照らしている光源を選ぶと、選んだ光源に適した色あいになる(プリセットホワイトバランス)。
[オート]を選ぶと本機が光源を自動判別し、適した色合いに調整する。

色温度・カラーフィルター: 光源の色に合わせて設定する(色温度)。写真用のCC(色補正)フィルターと同等の効果が得られる(カラーフィルター)。

カスタム 1/カスタム 2/カスタム 3: [カスタムセット]で取得した設定を使用する。

カスタムセット: 撮影する光源下で基準になる白色を取得する。登録先の番号を選び決定する。

ヒント

- マルチセレクターの右を押すと、微調整画面が表示され、必要に応じて色合いを微調整できます。
- 選んだ設定で思い通りの色にならないときは、ホワイトバランスブラケット撮影を行います。
- 、 は[AWB時の優先設定]を[雰囲気優先]または[ホワイト優先]に設定したときのみ表示されます。

ご注意

- 以下のときは、[ホワイトバランス]は[オート]に固定されます。
- [おまかせオート]

- 水銀灯やナトリウムランプのみが光源の場合、光の特性上、正確なホワイトバランスが得られません。フラッシュを発光して撮影するか、[カスタムセット]のご使用をおすすめします。

[カスタムセット]で基準の白を取り込む

複数の種類の光源で被写体が照らされている場合などに、より正確な色合いを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。3つの設定を登録できます。

1 WB (ホワイトバランス) ボタン → [カスタムセット] を選ぶ。

- MENU →  1 (撮影設定1) → [ホワイトバランス] → [カスタムセット] でも設定できます。

2 白く写したいものが中央部のフォーカスエリア付近を覆うようにカメラを構えてマルチセレクターの中央を押す。

シャッター音が生じ、取り込んだ値(色温度とカラーフィルター)が表示される。

3 マルチセレクターの左/右で登録番号を選び、中央を押す。

登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影情報画面に戻る。

- この操作で登録したカスタムホワイトバランス値は、次に別の値が登録されるまで保持されます。

ご注意

- [カスタムWB設定エラー] というメッセージが表示されたときは、値が想定外であることを表しています(鮮やかな色の被写体に向けた場合など)。そのまま登録することは可能ですが、設定し直すことをおすすめします。カスタムWB設定エラーとなっている場合、撮影情報画面の  表示がオレンジ色になります(正しく登録された場合は白色になります)。
- シャッターを切るときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。呼び出したあとの撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

画像の仕上がりを設定する

クリエイティブスタイル

画像の仕上がりを設定でき、各画像スタイルごとにコントラスト、彩度、シャープネスを微調整できます。

1 MENU → 📷1 (撮影設定1) → [クリエイティブスタイル] を選ぶ。

2 マルチセレクターの上/下で希望のクリエイティブスタイルまたはスタイルボックスを選ぶ。

Std **スタンダード**：さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。

Vivid **ビビッド**：彩度とコントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。

Nutri **ニュートラル**：彩度・シャープネスが低くなり、落ち着いた雰囲気に表示する。パソコンでの画像加工を目的とした撮影にも適している。

Clear **クリア**：ハイライト部分の抜けがよく、透明感のある雰囲気に表現する。光の煌めき感などの表現に適している。

Deep **ディープ**：濃く深みのある色再現にする。重厚感、存在感など、重みのある表現に適している。

Light **ライト**：明るく、すっきりとした色再現にする。爽快感、軽快感など明るい雰囲気の表現に適している。

Port **ポートレート**：肌をより柔らかくに再現する。人物の撮影に適している。

Land **風景**：彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。遠くの風景もよりくっきりする。

Sunset **夕景**：夕焼けの赤さを美しく表現する。

Night **夜景**：コントラストがやや低くなり、見た目の印象により近い夜景に再現する。

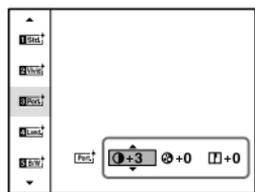
Autm 紅葉：紅葉の赤、黄をより鮮やかに表現する。

B/W 白黒：白黒のモノトーンで表現する。

Sepia セピア：セピア色のモノトーンで表現する。

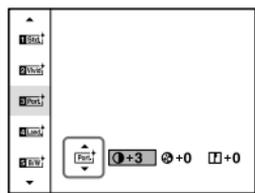
Std. お好みの設定を登録する(スタイルボックス)：任意の内容を登録できる6つのスタイルボックス(**Std.**のように左側に数字が入っているもの)を選んで、右ボタンで、希望の設定を選んで登録できる。
スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出せる。

3 ● (コントラスト)、◎ (彩度)、□ (シャープネス)を調整したいときは、左/右で希望の項目を選び、上/下で値を選ぶ。



4 スタイルボックスを選んだときは、マルチセレクターの右で右側に移動し、希望のクリエイティブスタイルを選ぶ。

- スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出すことができます。



■ [コントラスト]、[彩度]、[シャープネス]の設定

[コントラスト]、[彩度]、[シャープネス]は、[スタンダード]や[風景]などのプリセットの画像スタイルや、お好みの設定を登録できる

[スタイルボックス]ごとに調整できます。

マルチセクターの左/右を押して項目を選び、上/下で値を設定します。

- **コントラスト**: +側に設定するほど明暗差が強調され、インパクトのある仕上がりになる。
- **彩度**: +側にするほど色が鮮やかになる。一側に設定すれば控えめで落ち着いた色に再現される。
- **シャープネス**: 解像感を調整できる。+側に設定すれば輪郭がよりくっきりし、一側に設定すれば柔らかな表現になる。

ご注意

- 以下のときは、[クリエイティブスタイル]は[スタンダード]に固定されます。
 - [おまかせオート]
 - [ピクチャーエフェクト]が[切]以外
 - [ピクチャープロフィール]が[切]以外
- [白黒]、[セピア]を選択しているときは、[彩度]の調整はできません。

色空間

色を数値の組み合わせによって表現するための方法、または表現できる色の範囲のことを色空間といいます。画像の用途によって色空間を変更できます。

MENU → **カメラ1 (撮影設定1)** → **[色空間]** → **希望の設定を選ぶ。**

sRGB : デジタルカメラの標準となっている色空間。画像調整を行わずに印刷する場合など、一般的な撮影では[sRGB]を使う。

AdobeRGB : より広い色再現範囲を持っている色空間。鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果がある。撮影した画像のファイル名は、“_” (アンダーバー)で始まる。

ご注意

- [AdobeRGB]は、カラーマネジメントおよびDCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフトやプリンター用です。非対応のソフトやプリンターでは、正しい色での表示、印刷ができないことがあります。
- [AdobeRGB]で撮影した画像は、Adobe RGB非対応機器で表示すると、低彩度になります。

シャッターの設定

☒ フリッカーレス撮影

蛍光灯などの人工光源の点滅によるちらつき(フリッカー)を検知し、フリッカーによる影響が少ないタイミングで静止画を撮影します。速いシャッター速度で撮影したときに、画像の上下で生じる露出や色合いの差、連続撮影時の露出や色合いのばらつきを低減できます。

MENU → **📷1(撮影設定1)** → **[☒ フリッカーレス撮影]** → **希望の設定を選ぶ。**

切: フリッカーによる影響を低減しない。

入: フリッカーによる影響を低減して撮影する。シャッターボタン半押し時にフリッカーを検知すると、**flicker**(フリッカーアイコン)が表示される。

ヒント

- 撮影モードが以下の場合は自動的にフリッカーの影響を低減します。また、その場合 **flicker**(フリッカーアイコン) は表示されません。
- [おまかせオート]
- 同一シーンを異なるシャッター速度で撮影したときに、撮影画像の色合いが異なる場合があります。その場合には、撮影モードを [シャッタースピード優先] または [マニュアル露出] にし、シャッタースピードを一定にして撮影することをおすすめします。

ご注意

- レリーズタイムラグがわずかに長くなることがあります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じたりすることがあります。
- 光源の点滅周期が100Hzか120Hzの場合のみフリッカーを検知できます。
- 背景が暗いときなど、光源や被写体によってはフリッカーを検知できないことがあります。
- フリッカーを検知しても、光源や撮影条件によってはフリッカーの影響を低減できないことがあります。事前に試し撮りすることをおすすめします。

- 以下の場合、[ フリッカーレス撮影]は使えません。
 - バルブ撮影中
 - 動画撮影時
 - [AF-S時の優先設定]または[AF-C時の優先設定]が[レリーズ優先] / [バランス重視]で、シャッターボタンを半押しせずに深押しで撮影したとき
- [ フリッカーレス撮影]を[入]にした場合と[切]にした場合で撮影画像の色合いが異なることがあります。

電子先幕シャッター

電子先幕シャッター機能を使うと、短いレリーズタイムラグで撮影できます。

MENU →  2 (撮影設定2) → [電子先幕シャッター] → **希望の設定を選ぶ。**

入: 電子先幕シャッター機能を使う。

切: 電子先幕シャッター機能を使わない。

ご注意

- 大口径レンズを装着して、高速のシャッタースピードで撮影する場合、被写体や撮影環境によってボケ像が欠けることがあります。その場合は、[切]に設定してください。
- 他社製レンズ(ミノルタ/コニカミノルタ製レンズを含む)を使用するときは、[切]に設定してください。[入]に設定すると、適正露出にならなかったり、画像の明るさにムラが出たりします。
- 高速のシャッタースピードで撮影する場合、撮影条件によっては画面の明るさにムラが出ることがあります。その場合は[切]に設定してお使いください。

手ブレを補正する

手ブレ補正機能を使うかどうかを設定します。

MENU → **📷2 (撮影設定2)** → **[手ブレ補正]** → **希望の設定を選ぶ。**

入：[手ブレ補正]を行う。

切：[手ブレ補正]を行わない。三脚使用時は[切]にすることをおすすめします。

手ブレ補正設定

装着しているレンズによって、最適な手ブレ補正を使って撮影できません。

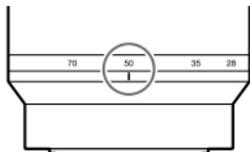
1 MENU → **📷2 (撮影設定2)** → **[手ブレ補正]** → **[入]**を選ぶ。

2 [手ブレ補正設定] → **[手ブレ補正調整]** → **希望の設定を選ぶ。**

オート：レンズから取得した情報をもとに自動で手ブレ補正する。

マニュアル：[手ブレ補正焦点距離]で設定した焦点距離で手ブレ補正する。
(8mm ~ 1000mm)

- 撮影時のレンズ焦点距離を設定してください。



ご注意

- ON/OFF (電源)スイッチを「ON」にした直後やカメラを構えた直後、シャッターボタンを半押しせずに一気に押し込んだときは、手ブレ補正の効果が得られにくいことがあります。
- 三脚を使う場合には、手ブレ補正機能が誤動作するおそれがあるため、[手ブレ補正]を[切]にしてください。
- MENU → 2 (撮影設定2) → [手ブレ補正]が[切]のとき、[手ブレ補正設定]は使えません。
- レンズから焦点距離などの情報が取得できないときは、手ブレ補正が正しく動作しません。[手ブレ補正調整]を[マニュアル]にして、装着しているレンズに合わせて[手ブレ補正焦点距離]を設定してください。その場合、の横に、設定している手ブレ補正焦点距離の値が表示されます。

ノイズリダクション

長秒時NR

長時間露光時に目立つ粒状ノイズを軽減するため、シャッタースピードが1秒または1秒より遅いときにノイズ軽減処理を行います。

MENU →  **1 (撮影設定1)** → [ **長秒時NR**] → **希望の設定を選ぶ。**

入: シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をする。処理中はメッセージが表示され、撮影できない。画質を優先するときに選ぶ。

切: ノイズ軽減処理をしない。撮影タイミングを優先するときに選ぶ。

ご注意

- 以下の場合、 長秒時NRを[入]にしても、ノイズリダクションは動きません。
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]
 - [ドライブモード]が[連続撮影]または[連続ブラケット]
- 撮影モードが以下の場合は、 長秒時NRを[切]にできません。
 - [おまかせオート]
- 撮影条件によっては、シャッタースピードが1秒以上でもノイズ軽減処理を行わない場合があります。

高感度NR

ISO感度を高感度に設定して撮影した場合のノイズ軽減処理を設定します。処理中はメッセージが表示される場合があります、その間は撮影できません。

MENU →  1 (撮影設定1) → [ 高感度NR] → 希望の設定を選ぶ。

標準：高感度ノイズリダクションの処理を標準的に行う。

弱：高感度ノイズリダクションの処理を弱めに行う。

切：高感度ノイズリダクションの処理を行わない。撮影タイミングを優先するときに選ぶ。

ご注意

- 撮影モードが以下の場合は、 高感度NR]は設定できません。
 - [おまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
-  画質]が[RAW]のときは設定できません。
-  画質]が[RAW+JPEG]のとき、RAW画像には 高感度NR]は動きません。

顔検出

カメラが人物の顔を判別し、人物にあわせて、ピントや露出、画像処理、フラッシュの調整をします。

MENU →  **1 (撮影設定1)** → **[顔検出]** → **希望の設定を選ぶ。**

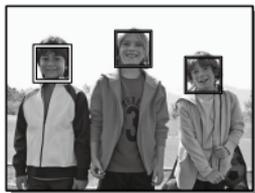
切：顔検出機能を使わない。

入 (登録顔優先)：[個人顔登録] (190ページ) で登録した顔を優先して顔検出を行う。

入：登録した顔を優先せずに顔検出を行う。

■ 顔検出枠について

- 顔を検出すると、灰色の顔検出枠が表示され、オートフォーカス可能と判断されると枠が白色になり、シャッターボタンを半押しすると緑色になります。
- [個人顔登録] で優先順位を設定している場合、被写体の中で一番優先順位が高い顔が自動で選択され顔検出枠が白色になります。それ以外の登録されている顔の検出枠は赤紫色になります。



■ ご注意

- 以下のときは、顔検出機能は使えません。
 - 光学ズーム以外のズーム
 - [スイングパノラマ]
 - [ピクチャーエフェクト] が [ポスタリゼーション]
 - ピント拡大時
 - [日時記録設定] が [120p]
- 最大8人の顔を検出できます。
- 状況によっては、顔が検出できなかったり、顔以外を誤検出することがあります。

フラッシュ (別売)を使う

暗い場所での撮影や逆光での撮影では、フラッシュを使うと被写体を明るく写せます。また、手ブレを抑えるのにも役立ちます。

フラッシュの使いかたについて詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

1 フラッシュ (別売)を取り付ける。



2 フラッシュの電源を入れ、フラッシュの充電が完了したら、撮影する。

⚡点滅：フラッシュ充電中

⚡点灯：フラッシュの充電が完了

- 設定している撮影モードや機能によって、選べるフラッシュモードが異なります。

ご注意

- フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真下部に影ができることがあります。レンズフードを取りはずしてください。
- フラッシュ発光時は被写体から1m以上離れて撮影してください。
- 動画撮影時はフラッシュは使用できません。
- フラッシュなどのアクセサリーをマルチインターフェースシューに取り付け/取りはずしする場合は、電源を「OFF」にしてから行ってください。取り付けの際は、本機にしっかり固定されていることを確認してください。

- マルチインターフェースシューに、250V以上の電圧がかかる市販フラッシュや、極性が逆の市販フラッシュを使用しないでください。故障の原因になります。
- シンクロ端子は極性が逆のタイプでもご使用になれます。シンクロ電圧が400V以下のフラッシュをご使用ください。
- ズームをW側にしてフラッシュ撮影すると、撮影状況によってはレンズの影が写ることがあります。この場合は被写体から離れて撮影するか、ズームをT側にしてフラッシュ撮影してください。
- レンズによっては、周辺の光量が落ちて撮影されることがあります。
- 対応アクセサリーについて詳しくは、専用サポートサイトでご確認ください。
<http://www.sony.jp/support/ichigan/>

フラッシュモード

フラッシュの発光方法を設定できます。

MENU → **📷1 (撮影設定1)** → **[フラッシュモード]** → **希望の設定を選ぶ。**

🚫 発光禁止：フラッシュを発光させない。

🔧 AUTO 自動発光：光量不足や逆光と判断したとき発光する。

🔧 強制発光：必ず発光する。

🔧 SLOW スローシンクロ：必ず発光する。スローシンクロでシャッタースピードを遅くして撮ると、被写体だけでなく、背景も明るく撮れる。

🔧 REAR 後幕シンクロ：露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。走っている自動車や歩いている人など動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。

🔧 WIRELESS ワイヤレス：外部フラッシュ（別売）を本機から取りはずして離して撮影する。被写体に陰影が付いて立体感を出すことができる。

ご注意

- 初期値は撮影モードによって変わります。
- 撮影モードによっては選べない[フラッシュモード]があります。

調光補正

-3.0EVから+3.0EVの範囲で、フラッシュ発光量を調整できます。調光補正を行うと、フラッシュの発光量のみが変化します。露出補正を行うと、シャッタースピードと絞り値とともにフラッシュの発光量も変化します。

MENU →  **1 (撮影設定1)** → **[調光補正]** → **希望の設定を選ぶ。**

- +側にすると発光量が増え、-側にすると発光量が減ります。

ご注意

- 撮影モードが以下の場合には、調光補正はできません。
 - [おまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
- 被写体がフラッシュ光の最大到達距離(調光距離)より遠くにあるときは、オーバー側(+側)の効果が出ないことがあります。また近接撮影では、アンダー側(-側)の効果が出ないことがあります。

FELロック

通常のフラッシュ撮影では被写体が最適露出になるようにフラッシュの発光量が自動的に調整されますが、あらかじめフラッシュの発光量を決めておくことができます。

FEL : Flash Exposure Level (フラッシュ露出レベル)の略

1 MENU →  **2 (撮影設定2)** → **[カスタムキー (撮影)]** → **希望のボタン** → **[再押しFELロック]**を登録する。

2 FELロックしたい被写体を中央にして、ピントを合わせる。



3 [再押しFELロック]を登録したボタンを押して、発光量を固定する。

- フラッシュがプリ発光する。
- **L** (FELロックマーク) が点灯する。

4 撮りたい構図にして撮影する。

- FELロックを解除する場合は、もう一度[再押しFELロック]を登録したボタンを押す。



FELロック対応フラッシュ

- HVL-F60M、HVL-F43M、HVL-F32MIはクリップオン、ケーブル接続したオフカメラ、ワイヤレス(コントローラー/リモート)撮影で使えます。
- HVL-F20MIはクリップオン、ケーブル接続したオフカメラ、ワイヤレス(コントローラー)撮影で使えます。

ヒント

- [押し間FELロック]を設定すると、ボタンを押している間だけ保持できます。また、[押し間FELロック/AEL]、[再押しFELロック/AEL]に設定すると、以下のときはAEをロックして撮影できます。
 - [フラッシュモード]が[発光禁止]または[自動発光]のとき
 - フラッシュが発光できないとき
 - 外部フラッシュのマニュアル発光設定時

ご注意

- フラッシュが装着されていないと設定できません。
- FELロックに対応していないフラッシュを装着した場合は、エラー表示が出ます。
- AEとFELを両方固定している場合は、が点灯します。

調光モード

フラッシュの発光量を決める方法を設定します。

MENU →  **1 (撮影設定1)** → **[調光モード]** → **希望の設定を選ぶ。**

ADI調光：フォーカスの距離情報とプリ発光による光量測定結果を組み合わせ
てフラッシュ発光量制御を行う方式。

被写体の反射率にほとんど影響されない正確な調光ができる。

P-TTL調光：プリ発光による光量測定結果だけでフラッシュ発光量制御を行う
方式。被写体の反射による影響を受けやすい。

ADI：Advanced Distance Integrationの略

P-TTL：Pre-flash, Through the lensの略

ご注意

- 被写体とフラッシュ間の距離が定まらない場合(外部フラッシュ (別売)でワイヤレスフラッシュ撮影・ケーブルを使ったオフカメラ撮影などを行う場合や、マクロツインフラッシュ使用時など)や、外部フラッシュ (別売)をバウンスにしているときは、自動的にP-TTL調光になります。また、そのほかにも撮影状況によって、自動的にP-TTL調光になります。
- 以下の場合は[ADI調光]だと正しい調光が得られませんので、[P-TTL調光]に設定してください。
 - フラッシュ HVL-F36AMにワイドパネルを取り付けた場合
 - ディフューザー (拡散板)を使ってフラッシュ撮影した場合
 - 露出倍数のかかるフィルター (NDなど)使用時
 - クローズアップレンズ使用時
- ADI調光は距離エンコーダー内蔵レンズとの組み合わせで可能です。距離エンコーダー内蔵かどうかは、レンズの取扱説明書の主な仕様をご覧ください。
- 撮影モード[スイングパノラマ]のときは設定できません。

ワイヤレスフラッシュ撮影

本機に取り付けたフラッシュをコントローラーとして使用する光通信式ワイヤレスフラッシュ撮影と、電波式ワイヤレスコマンダー（別売）を使用する電波式ワイヤレスフラッシュ撮影の2通りの方法があります。それぞれの詳しい設定方法は、フラッシュまたは電波式ワイヤレスコマンダーの取扱説明書をご覧ください。

1 シューキャップをはずし、フラッシュまたは電波式ワイヤレスコマンダーを取り付ける。

- 光通信式ワイヤレスフラッシュ撮影を行う場合は、取り付けたフラッシュをコントローラーに設定してください。

2 MENU → 1 (撮影設定1) → [フラッシュモード] → [ワイヤレス]を選ぶ。

3 ワイヤレス設定した他のフラッシュまたは電波式ワイヤレスレシーバー（別売）に取り付けたフラッシュを本機から離して設置する。

- テスト発光する場合は、本機のAELボタンを押してください。

AELボタンの設定について

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、MENU → 2 (撮影設定2) → [カスタムキー (撮影)] → [AELボタン] を、[押す間AEL] に設定しておくことをおすすめします。

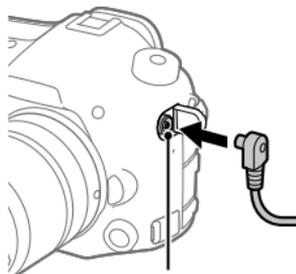
ご注意

- 光通信式ワイヤレスフラッシュで撮影している別のカメラの信号光を、本機で設定したワイヤレスフラッシュが受信してフラッシュが発光してしまう場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。チャンネルの変更について詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

- 光通信式ワイヤレスフラッシュで撮影するには、コントローラーとワイヤレスフラッシュの2台のフラッシュが必要です。
- HVL-F20Mはコントローラーとしてのみ使用可能です。

シンクロターミナルコード付きフラッシュを使う

⚡ (シンクロ)ターミナルのカバーを開け、コードを差し込む。



⚡ (シンクロ)ターミナル

撮影

ヒント

- 暗くて構図を確認しにくい場合は、[ライブビュー表示]を[設定効果反映Off]に設定することで、フラッシュ撮影時にも構図を確認しやすくなります。
- フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでもご使用になれます。

ご注意

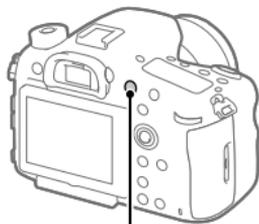
- 露出モードはマニュアル露出モード (ISO AUTO以外を推奨) にして、シャッタースピードは1/200秒またはフラッシュ側の推奨する値のどちらか遅い方、またはそれより低速側に設定してください。
- シンクロ電圧が400V以下のフラッシュをご使用ください。
- シンクロコードを⚡ (シンクロ)ターミナルに接続するときは、コードと接続したフラッシュの電源をオフにしてください。オンにしていると、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。
- フラッシュは、常にフル発光になります。[調光補正]はできません。
- オートホワイトバランスはおすすめできません。より正確なホワイトバランスを得るために、カスタムホワイトバランスをお使いください(107ページ)。
- ⚡ (シンクロ)ターミナルに接続中は、フラッシュ表示が出ません。

動画を撮影する

MOVIE（動画）ボタンを押して動画撮影できます。

1 MOVIEボタンを押して撮影を開始する。

- お買い上げ時の設定では、[MOVIE（動画）ボタン]が[常に有効]に設定されているため、すべての撮影モードから動画撮影を開始できます。



MOVIEボタン

2 もう一度MOVIEボタンを押して終了する。

ヒント

- 動画撮影開始/停止機能をお好みのキーに割り当てることができます。MENU →  2 (撮影設定2) → [カスタムキー（撮影）] → 希望のボタンに動画撮影開始/停止機能を設定してください。
- ピントを合わせるエリアを指定したいときは、[フォーカスエリア]で設定します。
- 顔にピントを合わせ続けたい場合は、フォーカスエリア枠と顔検出枠が重なるように構図を工夫します。または[フォーカスエリア]を[ワイド]に設定します。
- シャッタースピードや絞りを希望の値に設定したいときは、撮影モードを  (動画/スロー&クイックモーション) にします。

- 以下の設定は、静止画撮影のときの設定値をそのまま使用できます。
 - ISO感度
 - ホワイトバランス
 - クリエイティブスタイル
 - 露出補正
 - 測光モード
 - 顔検出
 - Dレンジオプティマイザー
 - レンズ補正
 - ピクチャーエフェクト
- ISO感度、露出補正、フォーカスエリアは動画撮影中に設定を変更できます。
- [HDMI情報表示]を[なし]にすると、動画記録中でも撮影情報表示なしで記録画像を出力できます。

ご注意

- 動画記録中はカメラやレンズの作動音、操作音などが記録されてしまうことがあります。MENU →  2 (撮影設定2) → [音声記録] → [切]で音声を記録しないように設定できます。
- 動画撮影時、ご使用状況によってはショルダーストラップ取り付け部(三角環)の音が記録されることがあります。
- 連続して撮影している場合は、本機の温度が上昇しやすく、熱く感じる場合がありますが故障ではありません。
また、[しばらく使用できません カメラの温度が下がるまで お待ちください]という表示が出る場合があります。その場合は、本機の電源を切って、本機の温度が下がるのを待ってから撮影してください。
-  が表示された場合は、本機の温度が上がっています。本機の電源を切り、温度が下がるのを待ってから撮影してください。
- 連続撮影可能時間は「動画の記録可能時間」(226ページ)をご覧ください。撮影が終わってしまったら、もう一度MOVIEボタンを押すと撮影を再開できます。本体やバッテリーの温度によっては、機器保護のため停止する場合があります。
- オートフォーカスは、撮影モードが[プログラムオート]のときのみ作動します。また、そのとき絞り値はF3.5 (開放絞り値がF3.5以上のレンズの場合は開放絞り値)に固定されます。
- モードダイヤルが  (動画/スロー&クイックモーション)になっているときや動画撮影中は、[フォーカスエリア]の[ロックオンAF]は選択できません。
- 撮影モードが  (動画/スロー&クイックモーション)のときは、[AFシステム]は[専用位相差AFのみ]になります。また、フォーカスエリア点数は61点に固定されます。

- 動画の[プログラムオート]モードでは、絞りとシャッタースピードは自動で設定され変更できません。よって、明るい環境下で高速シャッターとなり、被写体の動きが滑らかに写らない場合があります。他の露出モードにして、絞りやシャッタースピードを調整することで、より滑らかに撮影できる場合があります。
- 動画撮影時、以下の[ピクチャーエフェクト]は設定できません。動画撮影が開始されると一時的に[切]になります。
-リッチトーンモノクロ
- 低感度の動画撮影時、極端に強い光源にカメラを向けると、画面内の高輝度部分が黒っぽく撮影されることがあります。
- モニターの表示がファインダー撮影用の場合、動画撮影を開始すると全情報表示に切り替わります。
- XAVC S動画やAVCHD動画、MP4動画をパソコンに取り込むときは、PlayMemories Homeを使用してください。

動画の記録フォーマットについて

本機で選べる動画の記録フォーマットについて説明します。

XAVC Sとは

4Kなどの高解像度の映像を、MPEG-4 AVC/H.264で高圧縮してMP4ファイル形式で記録するフォーマットです。データの容量を一定レベルに抑えながら高画質化することができます。

XAVC S/AVCHD記録フォーマットとその特長

フォーマット	特徴
XAVC S 4K	ビットレート：約100 Mbpsまたは約60 Mbps 4K解像度(3840×2160)で記録できます。
XAVC S HD	ビットレート：約100 Mbps、約60 Mbpsまたは約50 Mbps AVCHDと比べると情報量が多くなるため、より鮮明な画像を記録できます。
AVCHD	ビットレート：約28 Mbps（最大）、約24 Mbps（最大）、または約17 Mbps（平均） パソコン以外の保存機器との互換性に優れています。

- ビットレートとは、一定時間あたりの記録データ量です。

記録方式

動画を記録するときの記録方式を設定します。

MENU →  **2 (撮影設定2)** → **[記録方式]** → **希望の設定を選ぶ。**

XAVC S 4K : XAVC S規格の4K動画を記録する。高ビットレートに対応した記録方式。

音声 : LPCM

- **[記録方式]**を[XAVC S 4K]にして撮影する場合は、下記が必要です。
 - メモリースティック PRO-HG デュオ
 - 100Mbps以上では撮影できません。
 - SDHCカード/SDXCカード/microSDHCカード/microSDXCカード (SDスピードクラス10、またはUHSスピードクラス1以上)
 - 100Mbps以上で撮影する場合は、UHSスピードクラス3が必要です。
- **[記録方式]**を[XAVC S 4K]に設定したときは、[HDMI情報表示]は一時的に[なし]になります。
- **[記録方式]**を[XAVC S 4K]に設定し、本機をHDMI機器に接続しながら動画を撮影すると、モニターには画像が表示されません。

XAVC S HD : XAVC S規格のHD動画を記録する。高ビットレートに対応した記録方式。

音声 : LPCM

- **[記録方式]**を[XAVC S HD]にして撮影する場合は、下記が必要です。
 - メモリースティック PRO-HG デュオ
 - 100Mbps以上では撮影できません。
 - SDHCカード/SDXCカード/microSDHCカード/microSDXCカード (SDスピードクラス10、またはUHSスピードクラス1以上)
 - 100Mbps以上で撮影する場合は、UHSスピードクラス3が必要です。

AVCHD : AVCHD規格のHD動画を記録する。ハイビジョンテレビに適した記録方式。

音声 : Dolby Digital

MP4 : MP4 (AVC)動画を記録する。スマートフォンやタブレットで見る、またはWEBアップロードやメールに適した記録方式。

音声 : AAC

ヒント

- ソフトウェアPlayMemories Homeを使って、画像をパソコンに保存、またはお使いの再生機器に合わせたディスクを作成できます。

ご注意

- 【**記録方式**】が[AVCHD]の場合は、1つの動画ファイルは約2GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約2GBになると、自動的に新しいファイルが作成されます。
- 【**記録方式**】が[MP4]の場合は、1つの動画ファイルは約4GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約4GBになると、自動的に記録が止まります。

記録設定

動画撮影時の画像サイズとフレームレート、画質を設定します。ビットレートが高いほど高画質で撮影できます。

MENU → **カメラアイコン2 (撮影設定2)** → **記録設定** → **希望の設定を選ぶ。**

【**記録方式**】：[XAVC S 4K]のとき

MPEG-4 AVC/H.264で高圧縮し、MP4形式で記録される。

フレームレート	ビットレート	
	60Mbps	100Mbps
30p	30p 60M	30p 100M
24p	24p 60M	24p 100M

■ [録画記録方式] : [XAVC S HD]のとき

MPEG-4 AVC/H.264で高圧縮し、MP4形式で記録される。

フレームレート	ビットレート		
	50Mbps	60Mbps	100Mbps
120p	–	120p 60M	120p 100M
60p	60p 50M	–	–
30p	30p 50M	–	–
24p	24p 50M	–	–

■ [録画記録方式] : [AVCHD]のとき

60iは、約60フィールド/秒、インターレース、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。24pは、約24フレーム/秒、プログレッシブ、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。60pは、約60フレーム/秒、プログレッシブ、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。

フレームレート	ビットレート		
	17Mbps	24Mbps	28Mbps
60i	60i 17M (FH)	60i 24M (FX)	–
60p	–	–	60p 28M (PS)
24p	24p 17M (FH)	24p 24M (FX)	–

■ [録画記録方式] : [MP4]のとき

MPEG-4、約60フレーム/秒または約30フレーム/秒、プログレッシブ、AAC音声、MP4形式で記録される。

フレームレート	ビットレート		
	6Mbps	16Mbps	28Mbps
60p	–	–	1920×1080 60p 28M
30p	1280×720 30p 6M	1920×1080 30p 16M	–

ご注意

- 60pの動画は対応機器以外では再生できません。
- **[録画]** 記録設定を [60p 28M (PS)] / [60i 24M (FX)] / [24p 24M (FX)] にして撮影した動画は、PlayMemories HomeでのAVCHD記録ディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときはブルーレイディスクに保存してください。
- 60p、24p動画をテレビで再生するには、60p、24pに対応したテレビが必要です。テレビが60p、24pに対応していない場合は60iとして出力されます。
- 以下のとき、[120p]は選べません。
- [おまかせオート]

S&Q スロー & クイック設定

肉眼では捉えられない一瞬を記録したり(スローモーション撮影)、長時間の現象を短い時間に短縮して記録したり(クイックモーション撮影)します。動きの激しいスポーツシーンや鳥が飛び立つ瞬間、花のつぼみの開花の様子、雲や星空が変化の様子などを記録できます。音声は記録されません。

1 モードダイヤルを[録画]** (動画/スロー&クイックモーション)にする。**

2 MENU →  2 (撮影設定2) → [動画/スロー&クイックモーション] → スロー&クイックモーション(S&Q)の希望の設定(S&Q プログラムオート、S&Q 絞り優先、S&Q シャッタースピード優先、またはS&Q マニュアル露出)を選ぶ。

3 MENU →  2 (撮影設定2) → [S&Q スロー & クイック設定]を選び、[S&Q 記録設定]と[S&Q フレームレート]を希望の設定にする。

S&Q 記録設定：記録する動画のフレームレートを選ぶ。

S&Q フレームレート：動画撮影時のフレームレートを選ぶ。

4 MOVIE (動画)ボタンを押して、撮影を開始する。

- 撮影を終了するには、MOVIEボタンをもう一度押す。

■再生速度について

[S&Q 記録設定]と[S&Q フレームレート]の設定によって、再生速度は以下ようになります。

S&Q フレームレート	S&Q 記録設定		
	24p	30p	60p
120fps	5倍スロー	4倍スロー	—
60fps	2.5倍スロー	2倍スロー	通常の再生速度
30fps	1.25倍スロー	通常の再生速度	2倍クイック
15fps	1.6倍クイック	2倍クイック	4倍クイック
8fps	3倍クイック	3.75倍クイック	7.5倍クイック
4fps	6倍クイック	7.5倍クイック	15倍クイック
2fps	12倍クイック	15倍クイック	30倍クイック
1fps	24倍クイック	30倍クイック	60倍クイック

- [S&Q フレームレート]が[120fps]のときは、[S&Q 記録設定]を[60p]に設定できません。

ご注意

- スローモーション撮影ではシャッター速度が速くなるため、十分な露出が得られない場合があります。その場合は、絞り値を小さく設定するか、ISO感度を手動で高く設定してください。
- 記録可能時間の目安は、「動画の記録可能時間」(226ページ)をご覧ください。
- 記録される動画のビットレートは、[S&Q フレームレート]と[S&Q 記録設定]の設定によって異なります。
- 記録される動画はXAVC S HDフォーマットになります。
- スロー & クイックモーション撮影時は以下の機能は使用できません。
 - [同時ビデオ記録]
 - [TC/UB設定]の[TC Run]
 - [HDMI設定]の[TC出力]
 - [4K映像の出力先]

音声記録

動画撮影時に音声を記録するかどうかを設定します。撮影中のレンズやカメラの動作音などが記録されるのを防ぎたい場合は[切]を選びます。

MENU →  **2 (撮影設定2)** → **[音声記録]** → **希望の設定を選ぶ。**

入：撮影時に音声を記録する(ステレオ)。

切：撮影時に音声を記録しない。

録音レベル

レベルメーターを見ながら録音レベルを調整できます。

1 MENU →  **2 (撮影設定2)** → **[録音レベル]**を選ぶ。

2 マルチセレクターの左/右で希望のレベルを選ぶ。

＋側：録音レベルが上がる。

－側：録音レベルが下がる。

リセット：録音レベルを初期値に戻す。

ヒント

- 大きな音の動画を録画する場合は、[録音レベル]を低めに設定すると臨場感のある音声が記録できます。小さな音の動画を録画する場合は、[録音レベル]を高めに設定することで聞きやすい音声で記録できます。

ご注意

- [録音レベル]の設定値にかかわらず、リミッターは常に作動しています。
- [録音レベル]は撮影モードが動画のときのみ選べます。
- スロー&クイックモーション撮影時は[録音レベル]は選べません。
- [録音レベル]の調整は、内蔵マイクと  (マイク) 端子入力に対して有効です。

■ マーカー設定

■ マーカー表示

動画撮影時に、[マーカー設定]で設定したマーカーをモニターまたはファインダーに表示するかを設定します。

MENU → **📷2 (撮影設定2)** → **[マーカー表示]** → **希望の設定を選ぶ。**

入：マーカーを表示する。マーカーは記録されない。

切：マーカーを表示しない。

■ ご注意

- マーカー表示は、モードダイヤルが**📷** (動画/スロー&クイックモーション)のとき、または動画記録中表示されます。
- [ピント拡大]中は、マーカーを表示できません。
- マーカー表示は、モニターまたはファインダーのみに表示されます。(外部に出力することはできません。)

■ マーカー設定

動画撮影時に表示されるマーカーを設定します。

MENU → **📷2 (撮影設定2)** → **[マーカー設定]** → **希望の設定を選ぶ。**

センター：撮影画面の中心にセンターマーカーを表示するかどうかを設定する。
[切] / [入]

アスペクト：アスペクトマーカー表示の設定をする。
[切] / [4 : 3] / [13 : 9] / [14 : 9] / [15 : 9] / [1.66 : 1] / [1.85 : 1] / [2.35 : 1]

セーフティゾーン：セーフティゾーン表示の設定をする。一般的な家庭用テレビで受像できる範囲の目安になる。
[切] / [80%] / [90%]

ガイドフレーム：ガイドフレームを表示するかどうかを設定する。被写体が水平/垂直になっているかを確認できる。

[切] / [入]

ヒント

- 複数のマーカーを同時に表示できます。
- [ガイドフレーム]の交点に被写体を置くと、バランスの良い構図になります。

目録 4K映像の出力先

本機を4K対応の外部録画再生機器などと接続するとき、どのように記録、HDMI出力するかを設定します。

1 モードダイヤルを目録 (動画/スロー&クイックモーション)にする。

2 本機と接続したい機器をHDMIケーブルで接続する。

3 MENU →  (セットアップ) → [目録 4K映像の出力先] → 希望の設定を選ぶ。

メモリーカード+HDMI：本機のメモリーカードに記録し、外部録画再生機器にも同時に出力する。

HDMIのみ(30p)：本機のメモリーカードには記録せず、外部録画再生機器に4K動画を30pで出力する。

HDMIのみ(24p)：本機のメモリーカードには記録せず、外部録画再生機器に4K動画を24pで出力する。

ご注意

- 動画撮影モードで、4K対応機器に接続中のみメニュー設定が可能です。
- [HDMIのみ(30p)]または[HDMIのみ(24p)]に設定したときは、[HDMI情報表示]は一時的に[なし]になります。
- スロー & クイックモーション撮影時は4K対応機器に接続しても4K映像は出力されません。

- [HDMIのみ (30p)]または[HDMIのみ (24p)]に設定すると、外部録画再生機器に記録中は本機のカウンター（動画の撮影実時間）は進みません。
- [**■**記録方式]が[XAVC S 4K]でHDMIケーブル接続しているとき、または[**■**記録方式]が[XAVC S 4K]で[同時ビデオ記録]が[入]のとき、下記の機能は使えません。
 - [顔検出]
 - [フォーカスエリア]の[ロックオンAF]
 - [中央ボタン押しロックオンAF]
 - [瞳AF]

画像を見る

静止画を再生する

撮影した静止画を再生します。

1  (再生) ボタンを押して、再生モードにする。

2 マルチセクターで画像を選ぶ。

ヒント

- 本機はメモリーカードに管理ファイルを作成して、画像を記録し再生します。管理ファイルに未登録の画像は正しく表示されないことがあります。他機で撮影した画像を見るときは、MENU →  (セットアップ) → [管理ファイル修復] で管理ファイルに画像を登録してください。
- 連続撮影後に画像をすぐに再生すると、モニターにデータ書き込み中/書き込み残り枚数を示すアイコンが表示されることがあります(204ページ)。書き込み中は、一部の機能を使用できません。

再生画像を拡大する(再生ズーム)

再生した画像を拡大します。写真のピントの具合を確認したいときなどに使います。

1 拡大したい画像を表示して、**Q**ボタンを押す。

- **Q**ボタンを押して倍率を調整してください。
- 後ダイヤルを回して倍率を調整することもできます。また、前ダイヤルを回すと、同じ拡大倍率のまま、前後の画像に切り換えられます。
- 画像は、撮影時にピントを合わせた位置を中心に拡大されます。ピントの位置情報が得られない場合、画像の中心が拡大されます。

2 マルチセレクターの上/下/左/右で表示する場所を移動する。

3 マルチセレクターの中央を押して、拡大再生を終了する。

ヒント

- メニューから再生ズームを行うこともできます。
- MENU → **▶**(再生) → [**Q**拡大の初期倍率]または[**Q**拡大の初期位置]で、拡大初期倍率や拡大初期位置を変更できます。

ご注意

- 動画は拡大できません。

記録画像を自動的に回転させる(記録画像の回転表示)

画像を再生するときの向きを設定できます。

MENU →  (再生) → [記録画像の回転表示] → 希望の設定を選ぶ。

オート: 本機を回転させると、本機の縦横を判断し、再生している画像が自動で回転する。

マニュアル: 縦位置で撮影した画像を縦向きに表示する。また回転機能で表示する向きを設定した場合はその向きに表示する。

切: 記録画像を常に横向きに表示する。

動画を再生する

撮影した動画を再生します。

1  (再生) ボタンを押して、再生モードにする。

2 マルチセクターで再生したい動画を選び、中央を押して再生する。

■ 動画再生中にできること

マルチセレクターの下を押すと、スロー再生、音量調整などの操作を行います。

操作パネル	できること
▶	再生
	一時停止
▶▶	早送り
◀◀	早戻し
▶	スロー再生
◀	スロー逆再生
▶▶	次の動画
◀◀	前の動画
▶	コマ送り
◀	コマ戻し
📺	動画から静止画作成
🔊	音量設定
↺	操作パネルを閉じる

ヒント

- スロー再生、スロー逆再生、コマ送り、コマ戻しは、一時停止中に選ぶことができます。
- 本機以外で撮影された動画ファイルは再生できない場合があります。

動画から静止画作成

動画から希望のシーンを切り出して、静止画として保存します。はじめに動画で撮影し、動画再生中に一時停止して、静止画では撮影できない決定的な瞬間を切り出して静止画として保存します。

- 1 静止画を切り出したい動画を表示する。
- 2 MENU →  (再生) → [動画から静止画作成] を選ぶ。
- 3 動画を再生し、一時停止する。
- 4 スロー再生、スロー逆再生、コマ送り、コマ戻しを使って、希望のシーンで停止する。
- 5  (動画から静止画作成) を押して、希望のシーンを静止画として切り出す。
静止画として保存される。

一覧表示で再生する(一覧表示)

再生時、複数の画像を同時に表示できます。

- 1 画像を再生中に、 (一覧表示) ボタンを押す。
- 2 マルチセクターの上/下/左/右を押して、画像を選ぶ。

■ 表示する枚数を変更する場合

MENU →  (再生) → [一覧表示] → 希望の設定を選ぶ。

9枚/25枚

■1枚再生画面に戻すには

表示したい画像を選んでいる状態で、マルチセクターの中央を押す。

■希望の画像をすばやく表示するには

マルチセクターで左側のバーを選び、マルチセクターの上/下でページを送ることができます。バーを選んでいる状態で、中央を押すと、カレンダー画面、またはフォルダー選択画面が表示されます。アイコンを選んでビューモードを切り換えることもできます。

静止画と動画を切り換える(ビューモード)

再生する画像の表示方法(ビューモード)を設定します。

MENU →  (再生) → [ビューモード] → 希望の設定を選ぶ。

-  日付ビュー：日付ごとに表示する。
-  フォルダービュー (静止画)：静止画のみを表示する。
-  MP4 フォルダービュー (MP4)：MP4動画のみを表示する。
-  AVCHD AVCHDビュー：AVCHD動画のみを表示する。
-  XAVCS HD XAVCS HDビュー：XAVCS HD動画のみを表示する。
-  XAVCS 4K XAVCS 4Kビュー：XAVCS 4K動画のみを表示する。

再生するメモリーカードを選ぶ(再生メディア選択)

再生するメモリーカードのロットを選びます。

MENU →  (再生) → [再生メディア選択] → 希望のロットを選ぶ。

ロット1: スロット1のメディアを選択する。

ロット2: スロット2のメディアを選択する。

ご注意

- 選択しているロットにメモリーカードが入っていない場合、何も再生されません。メモリーカードが入っているロットを選択してください。
- [ビューモード]で[日付ビュー]を選んでいる場合でも、[再生メディア選択]で選択しているメディアからのみ再生します。

メモリーカード間で画像をコピーする(コピー)

[再生メディア選択]で選ばれているメモリーカードから、もう一方のロットに入っているメモリーカードに画像をコピーできます。

MENU →  (再生) → [コピー]を選ぶ。

再生中の日付またはフォルダー内のすべてのコンテンツが、もう一方のロットのメディアへコピーされます。

ヒント

- MENU →  (再生) → [ビューモード]で、表示する画像の種類を選ぶことができます。

ご注意

- 画像が多いとコピーに時間がかかる場合があります。十分に充電したバッテリーをお使いください。
- XAVC S動画は対応したメモリーカードにのみコピーできます。コピーできない場合、カメラの画面にメッセージが表示されます。

スライドショーで再生する(スライドショー)

画像を自動的に連続再生します。

1 MENU → (再生) → [スライドショー] → 希望の設定を選ぶ。

リピート: 繰り返し再生する([入])か、すべての画像を再生したら停止する([切])か選ぶ。

間隔設定: 画像が切り替わる間隔を、[1秒] / [3秒] / [5秒] / [10秒] / [30秒]から選ぶ。

2 [実行]を選ぶ。

途中で終了するには

MENUボタンを押して終了します。一時停止はできません。

ヒント

- スライドショー再生中に、マルチセクターの左/右で、画像を戻す/送ることができます。
- [スライドショー]が実行できるのは、[ビューモード]が[日付ビュー]と[フォルダービュー (静止画)]のときのみです。

プロテクト(保護)する

撮影した画像を誤って消さないように保護(プロテクト)します。プロテクトされた画像には🔒マークが表示されます。

MENU →  (再生) → [プロテクト] → 希望の設定を選ぶ。

画像選択：画像を何枚か選んでプロテクトする。

このフォルダーの全画像：選択しているフォルダー内すべての画像をまとめてプロテクトする。

この日付の全画像：選択している日付内すべての画像をまとめてプロテクトする。

このフォルダーを全て解除：選択しているフォルダー内すべての画像のプロテクトをまとめて解除する。

この日付を全て解除：選択している日付内すべての画像のプロテクトをまとめて解除する。

ご注意

- [ビューモード]の設定によって、選べる項目が異なります。

画像選択

- ① 画像を選び、マルチセクターの中央を押す。チェックボックスに✓マークが付く。解除したいときはもう一度中央を押して✓マークを消す。
- ② ほかの画像もプロテクトするときは、手順①を繰り返す。
- ③ **MENU** → [確認]を選ぶ。

画像を削除する

表示中の画像を削除する

表示されている画像を削除します。一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

1 削除したい画像を表示する。

2  (削除) ボタンを押す。

3 マルチセレクトターで [削除] を選ぶ。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

不要な画像を選んで削除する (削除)

不要な画像を選んで削除できます。一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

MENU →  (再生) → [削除] → 希望の設定を選ぶ。

画像選択：画像を何枚か選んで削除する。

このフォルダーの全画像：選択しているフォルダー内すべての画像をまとめて削除する。

この日付の全画像：選択している日付内すべての画像をまとめて削除する。

ヒント

- プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータを消去するには[フォーマット]を行ってください。
- 希望のフォルダーまたは日付を表示するには、再生時に下記の手順で希望のフォルダーまたは日付を選びます。
 (一覧表示) ボタン → マルチセクターで左側のバーを選ぶ → マルチセクターの上/下で希望のフォルダーまたは日付を選ぶ。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。
- [ビューモード]の設定によって、選べる項目が異なります。

画像選択

- ① 削除したい画像を選び、マルチセクターの中央を押す。チェックボックスに✓マークが付く。解除したいときはもう一度中央を押して✓マークを消す。
- ② ほかの画像も削除するときは、手順①を繰り返す。
- ③ MENU → [確認]を選ぶ。

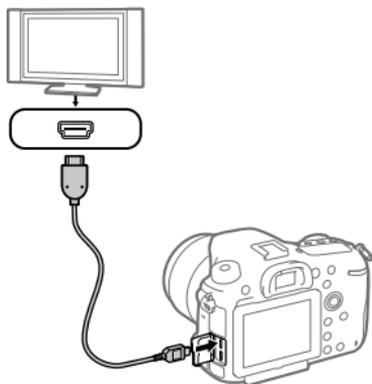
テレビで見る

HDMIケーブルを使ってテレビで見る

本機の画像をテレビで見するには、HDMIケーブル(別売)とHDMI端子のあるハイビジョンテレビが必要です。

1 本機とテレビの電源を切る。

2 本機のHDMIマイクロ端子とテレビのHDMI端子をHDMIケーブル(別売)で接続する。



再生

3 テレビの電源を入れ、入力切り換えをする。

4 本機の電源を入れる。

撮影した画像がテレビに表示されます。

5 マルチセレクターの左/右で画像を選ぶ。

- 再生画面では本機のモニターは点灯しません。
- 再生画面になっていないときは、▶(再生)ボタンを押してください。

■ ブラビアリンク

ブラビアリンク(リンクメニュー対応)のテレビをご利用の場合、HDMIケーブル(別売)で接続すると、テレビに付属のリモコンで再生操作ができます。

- ① 上記の手順で本機とテレビを接続し、MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] → [入]を選ぶ。
- ② テレビのリモコンのリンクメニューボタンを押し、好みのモードを選ぶ。
 - HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
 - 2008年以降に発売されたブラビアリンク対応テレビで使用できます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
 - 他社のテレビとHDMI接続する際、テレビのリモコン操作でカメラが不要な動きをする場合は、MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI機器制御]を[切]にしてください。

ヒント

- 本機はブラビア プレミアムフォトに対応しています。ブラビア プレミアムフォトに対応したソニー製テレビにHDMIケーブル(別売)で接続すると、写真を今までになかった感動の高画質で快適にお楽しみいただけます。
- ブラビア プレミアムフォト対応のUSB端子つきソニー製テレビでは、付属のマイクロUSBケーブルでも接続できます。
- ブラビア プレミアムフォトとは、写真らしい高精細で微妙な質感や色合いの表現を可能にする機能です。
- 詳しくは、対応テレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機と接続機器の出力端子同士での接続はしないでください。故障の原因となります。
- 一部の機器では、映像や音声がでないなど正常に動作しない場合があります。
- HDMIロゴの付いたもの、またはソニー製のケーブルを推奨します。
- 本機側はHDMIマイクロ端子、テレビ側はテレビの端子に合ったタイプのHDMIケーブルをお使いください。
- [TC出力]が[入]のときに、テレビや録画機器に正常に映像が出力されない場合があります。その場合は、[TC出力]を[切]にしてください(166ページ)。
- テレビに正しく画面が表示されない場合は、MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI解像度]を接続するテレビに合わせて、[2160p/1080p]、[1080p]または[1080i]にしてください。
- HDMI出力中に4K動画とハイビジョン画質(HD)の動画を切り換えたり、異なるフレームレートの動画に切り換えたりすると、一時的に画面が暗くなる場合がありますが、故障ではありません。

よく使う設定を登録する

登録

よく使うモードやカメラの設定を、本機に3つまで、メモリーカードには4つ(M1～M4)まで登録でき、モードダイヤルで簡単に呼び出せます。

1 本機を登録したい設定にする。

2 MENU → 1 (撮影設定1) → [1/2の登録] → 登録先の番号を選ぶ。

3 マルチセレクターの中央で決定する。

登録できる項目

- 撮影に関する様々な機能を登録できます。実際の登録可能な項目は、本機のメニューで確認してください。
- 絞り(F値)
- シャッタースピード

登録した内容を変更するには

希望する設定に変更し、同じ番号に再登録してください。

ご注意

- M1～M4は本機にメモリーカードが挿入されている場合のみ選択できます。
- メモリーカードに登録する場合、[記録メディア選択]で選択されているメモリーカードスロットのメモリーカードに登録されます。
- プログラムシフトは登録できません(85ページ)。
- 一部の機能については、本機のダイヤルの位置と実際に撮影に使われる設定が一致しなくなります。本機のモニター情報をもとに撮影してください。

ボタンにお好みの機能を割り当てる

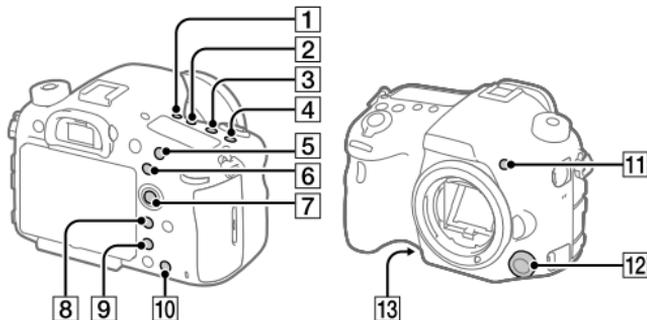
カスタムキー（撮影） / カスタムキー（再生）

希望のボタンにお好みの機能を割り当てることができます。
また、カスタムキーでのみ使える機能もあります。たとえば、
[カスタムキー（撮影）]で[中央ボタン]に[瞳AF]を割り当てておくと、
撮影時にマルチセレクターの中央を押すだけで[瞳AF]機能呼び出す
ことができ便利です。

**1 MENU →  2 (撮影設定2) → [カスタムキー（撮影）]または
[カスタムキー（再生）]を選ぶ。**

2 選択画面で機能を割り当てたいボタンを選び、中央ボタンを押す。

- [カスタムキー（撮影）]と[カスタムキー（再生）]で機能を割り当てられるボタンが異なります。
- 以下のボタンに希望の機能を割り当てられます。



- 1 ドライブモードボタン
- 2 ホワイトバランスボタン
- 3 露出補正ボタン
- 4 ISOボタン
- 5 AF/MFボタン
- 6 AELボタン
- 8
- 9
- 10

- 7 中央ボタン
 - 8 Fn/ボタン
 - 9 ボタン(スマートテレコンバーターボタン)
 - 10 カスタムボタン1
 - 11 カスタムボタン2
 - 12  フロントマルチコントローラー /  フロントマルチコントローラー
 - 13 プレビューボタン
-

3 割り当てたい機能を選ぶ。

- ボタンによって割り当てられる機能が異なります。
-

ファンクションメニュー設定

Fn (ファンクション) ボタンを押したときに設定できる機能を選びます。

MENU → 2 (撮影設定2) → [ファンクションメニュー設定]
→ 希望の場所に機能を設定する。

- 設定できる機能は、本機の設定項目選択画面でご確認ください。
-

撮影前/撮影後に画像を確認する

オートレビュー

撮影直後に、撮影した画像を確認することができます。オートレビューの表示時間を設定します。

MENU → **📷2 (撮影設定2)** → **[オートレビュー]** → **希望の設定を選ぶ。**

10秒/5秒/2秒：設定した秒数だけ表示する。オートレビュー中に拡大操作をすると、撮影した画像を拡大再生して確認することができる。

切：オートレビューしない。

ご注意

- 画像処理をする機能を使用している場合、画像処理をする前の画像を一時的に表示してから、画像処理が適用された画像を表示することがあります。
- オートレビューは、DISP (画面表示切換)で設定したモードで表示されます(30ページ)。

絞りレビュー

レビューボタンを押している間、設定した絞り値まで絞り込まれ、撮影前にぼけ具合を確認できます(17ページ)。

レビューボタンを押して、画像を確認する。

- [カスタムキー (撮影)]で希望のキーに[絞りレビュー]を割り当てることもできます。

撮影結果プレビュー

[撮影結果プレビュー]の機能を割り当てたキーを押している間、設定したDRO、シャッタースピード、絞り値、感度が反映され撮影前に撮影結果を確認できます。

1 MENU → 2 (撮影設定2) → [カスタムキー (撮影)]より、希望のキーに[撮影結果プレビュー]の機能を設定する。

2 [撮影結果プレビュー]の機能を割り当てたキーを押して、画像を確認する。

ヒント

- [撮影結果プレビュー]では、DROの結果とシャッタースピードの値と絞りの値と感度がプレビューに反映されますが、撮影設定上、プレビューに反映できない場合もあります。その場合でも、撮影すると、撮影設定通り反映されます。

モニター / ファインダーの設定

FINDER/MONITOR

電子ビューファインダーとモニターの表示切り換え方法を設定します。

MENU → 2 (撮影設定2) → **[FINDER/MONITOR]** → **希望の設定を選ぶ。**

オート：電子ビューファインダーをのぞくと、アイセンサーが働き、自動的に電子ビューファインダー画面に切り替わる。

マニュアル：モニター表示とファインダー表示の自動切り換えを無効にする。
FINDER/MONITORボタンを押して、画像をモニターに表示するか、電子ビューファインダーに表示するか切り換える。

ヒント

- [オート]時にFINDER/MONITORボタンを押すと、一時的に表示を切り換えることができます。

ブライトモニタリング

周囲が暗い状況下での撮影で、構図合わせができるようにします。夜空などの暗い場所でも、露光時間を延ばすことにより、ビューファインダー / モニターで構図の確認ができます。

1 MENU →  2 (撮影設定2) → [カスタムキー (撮影)] → 希望のキーに [ブライトモニタリング] の機能を設定する。

2 [ブライトモニタリング] の機能を割り当てたキーを押してから、撮影する。

- 撮影後も [ブライトモニタリング] による明るさは継続します。
- 画面の明るさを通常に戻すときは、[ブライトモニタリング] の機能を割り当てたキーをもう一度押します。

ご注意

- [ブライトモニタリング] 実行中は、[ライブビュー表示] は自動的に [設定効果反映Off] となり、ライブビュー表示には露出補正などの設定値は反映されません。暗い場所でのみのご使用をおすすめします。
- 以下のとき、[ブライトモニタリング] は自動的に解除されます。
 - 本機の電源を切ったとき
 - モードダイヤルを操作したとき
 - マニュアルフォーカス以外に設定したとき
 - [ピント拡大] を実行したとき
- [ブライトモニタリング] 実行中は、暗い場所でシャッタースピードが通常よりも低速になることがあります。また、測光される明るさの範囲が拡大するため、露出が変化することがあります。

メモリーカードの設定

フォーマット

メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機ではじめてお使いになる場合には、まず、本機でフォーマット(初期化)することをおすすめします。フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。

MENU →  (セットアップ) → [フォーマット] → 希望のメモリーカードスロットを選ぶ。

ご注意

- フォーマットすると、プロテクトしてある画像や登録情報(M1-M4) (152ページ)も含めて、すべてのデータが消去され、元に戻せません。
- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
- メモリーカードのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。
- メモリーカードによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。
- バッテリー残量が1%以下のときは、フォーマットできません。

ファイル番号

静止画と動画(MP4)のファイル番号の付けかたを設定します。

MENU →  (セットアップ) → [ファイル番号] → **希望の設定を選ぶ。**

連番: ファイル番号をリセットせず、9999まで続けてファイル番号を付ける。

リセット: フォルダーごとにファイル番号を0001から付ける。

(記録フォルダー内にファイルがある場合は、既存の最大番号+1のファイル番号を付ける。)

ヒント

- [ファイル番号]の設定はスロット1/スロット2の両方に適用されます。
- [ファイル番号]を[連番]に設定していると、記録メディア選択の設定を変更しても、スロット間をまたいで連続したファイル番号が割り振られます。

ファイル名設定

撮影する静止画のファイル名の先頭3文字を変更します。

1 MENU →  (セットアップ) → [ファイル名設定] **を選ぶ。**

2 ファイル名の入力欄を選ぶと、画面にキーボードが表示されるので、希望の3文字を入力する。

- [ファイル名設定]の設定はスロット1/スロット2の両方に適用されます。

ご注意

- 入力できるのは、大文字のアルファベット、数字、アンダーバーのみです。ただし、1文字目にアンダーバーは使用できません。
- [ファイル名設定]で設定したファイル名3文字は、設定後に撮影した画像にのみ適用されます。

記録モード

2つのメモリーカードに、同時記録や振り分け記録などの記録方法を設定することができます。(1つのメモリーカードに異なる動画フォーマットで同時に記録する場合は、[同時ビデオ記録]を使用してください。)

MENU →  (セッティング) → [記録モード] → 希望の設定を選ぶ。

標準：[記録メディア選択]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードに画像を記録します。

同時記録 (☑のみ)：静止画は両方のメモリーカードに、動画は [記録メディア選択]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードにのみ記録します。

同時記録 (☑/☑)：静止画は [記録メディア選択]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードにのみ、動画は両方のメモリーカードに記録します。

同時記録 (☑/☑)：静止画、動画ともに両方のメモリーカードに記録します。

振り分け (JPEG/RAW)：[記録メディア選択]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードにJPEG形式で、もう一方のメモリーカードにRAW形式で記録します。

振り分け (☑/☑)：[記録メディア選択]で選択されているメモリーカードスロットに入っているメモリーカードに静止画を、もう一方のメモリーカードに動画を記録します。

ご注意

- [記録モード]が[同時記録 (☑のみ)]または[同時記録 (☑/☑)]に設定されているとき、[同時ビデオ記録]は一時的に[切]になります。
- [記録モード]が[振り分け (JPEG/RAW)]に設定されているとき、[画質]は一時的に[RAW+JPEG]になります。

記録フォルダー選択

[フォルダー形式]が[標準形式]に設定されていてフォルダーが2つ以上存在する場合、撮影した画像を保存するフォルダー（記録フォルダー）を選べます。

MENU →  (セットアップ) → [記録フォルダー選択] → 希望のフォルダーを選ぶ。

ご注意

- [フォルダー形式]が[日付形式]に設定されているときは、記録フォルダーの選択はできません。
- [記録モード]が[標準]以外に設定されているときは、両方のメモリーカードの共通フォルダーしか選べないことがあります。共通フォルダーがない場合は、[フォルダー新規作成] (201ページ)で作成できます。

本体の設定

パワーセーブ開始時間

操作していないときにパワーセーブ(省電力)モードになるまでの時間を設定してバッテリーの消耗を防ぎます。シャッターボタン半押しなどの操作をすれば、撮影を再開できます。

MENU →  (セットアップ) → [パワーセーブ開始時間] → 希望の設定を選ぶ。

30分/5分/2分/1分/10秒

ご注意

- 長時間使わないときは、電源を「OFF」にしてください。

リモコン

ワイヤレスリモートコマンダー RMT-DSLR1 (別売)、RMT-DSLR2 (別売)のSHUTTERボタン、2SECボタン(2秒後にシャッターを切る)、START/STOPボタン(動画ボタン: RMT-DSLR2のみ)を使って撮影します。リモコンの取扱説明書もあわせてご覧ください。

MENU →  (セットアップ) → [リモコン] → 希望の設定を選ぶ。

入: リモコン操作を受け付ける。

切: リモコン操作を受け付けない。

ご注意

- レンズやフードがリモコン受光部をさえぎり、受光を妨げることがあります。受光部をさえぎらない位置から操作してください。
- [リモコン]が[入]になっているときは、パワーセーブ機能が働きません。リモコン使用後は[切]にしてください。

HDMI設定

HDMI解像度

本機とHDMI端子のあるハイビジョンテレビをHDMIケーブル(別売)で接続して見る場合に、HDMI端子からテレビに出力する解像度を選びます。

MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI解像度]
→ 希望の設定を選ぶ。

オート : 本機がハイビジョンテレビを自動認識し、出力する解像度を決定する。

2160p/1080p : 2160p/1080pで出力する。

1080p : HD画質(1080p)で出力する。

1080i : HD画質(1080i)で出力する。

ご注意

- [オート]で正しく画面が表示されない場合は、接続するテレビに合わせて、[1080i]、[1080p]または[2160p/1080p]を選んでください。

■ 24p/60p出力切換

[**設定** 記録設定]で[24p 24M (FX)]、[24p 17M (FH)]、[24p 50M]を選んでいるときにHDMIで1080/24p、1080/60pのどちらで出力するかを設定します。

① MENU → **設定** (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI解像度] → [1080p]または[2160p/1080p]を選ぶ。

② MENU → **設定** (セットアップ) → [HDMI設定] → [**24p/60p出力切換**] → 希望の設定を選ぶ。

60p : 60pで出力する。

24p : 24pで出力する。

ご注意

- 手順①、②は順不同で設定可能です。
- [**設定** 記録設定]が、[24p 24M (FX)]、[24p 17M (FH)]または[24p 50M]以外の場合は本設定は無効となり、[HDMI解像度]に従い出力します。

■ HDMI情報表示

HDMIケーブル(別売)で本機とテレビを接続したとき、画像情報をテレビに表示するかどうかを切り換えます。

MENU → **設定** (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI情報表示] → 希望の設定を選ぶ。

あり : テレビに画像情報が表示される。

テレビにはカメラ映像および画像情報が表示されるが、本体のモニターには何も表示されない。

なし : テレビに画像情報が表示されない。

テレビにはカメラ映像のみ表示され、本体のモニターにはカメラ映像および画像情報が表示される。

ご注意

- 4K対応テレビに接続時は、[なし]になります。

■TC出力

HDMIを利用して、他の業務用機器にタイムコードを出力するかどうかを設定します。

タイムコード情報をHDMI出力信号に乗せます。画面に出す映像としてではなく、デジタルデータとして伝送し、接続先の機器がそのデータを参照することでタイムデータを知ることができます。

MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [TC出力] → 希望の設定を選ぶ。

入：タイムコード情報を他の機器に出力する。

切：タイムコード情報を他の機器に出力しない。

■ご注意

- [TC出力]が[入]のときに、テレビや録画機器に正常に映像が出力されない場合があります。その場合は、[TC出力]を[切]にしてご使用ください。

■レックコントロール

本機と外部録画再生機器をつなぐと、本機の操作で外部録画再生機器へ録画の開始/停止を行えます。

MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [レックコントロール] → 希望の設定を選ぶ。

入： STBY 外部録画再生機器へ記録指示を出せる状態

 REC 外部録画再生機器へ記録指示を出している状態

切：本機の操作で外部録画再生機器の録画開始/停止を行わない。

■ご注意

- [レックコントロール]機能に対応している外部録画再生機器で使用できます。
- [TC出力]が[切]のときは、[レックコントロール]は[切]になります。
-  RECが表示されている場合でも、外部録画再生機器の設定・状態により、外部録画再生機器が正しく動作しない場合がありますので、事前に動作確認をしてご使用ください。

HDMI機器制御

HDMIケーブル(別売)を使ってブラビアリンク対応テレビをつないだ場合に、テレビのリモコンをテレビに向けて、本機を操作できます。

- ① MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] → 希望の設定を選ぶ。

入：テレビのリモコンで操作する。

切：テレビのリモコンで操作しない。

- ② ブラビアリンクに対応したテレビと本機を接続する。
テレビの入力が自動で切り替わり、本機の画像が表示される。

- ③ リモコンの「リンクメニュー」ボタンを押す。

- ④ リモコンのボタンで操作する。

ご注意

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- 2008年以降に発売された「ブラビアリンク(リンクメニュー対応)」に対応したテレビで使用できます。また、リンクメニュー操作はお使いのテレビによって異なります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 他社のテレビとHDMI接続する場合、テレビのリモコン操作で本機が不要な動きをする場合は、MENU →  (セットアップ) → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] を[切]にしてください。

PCリモート設定

■ 静止画の保存先

PCリモート撮影中にカメラ本体側にも静止画を保存するかどうか設定します。カメラから離れることなく、カメラ本体で画像を確認したい場合に便利です。

* PCリモートとは：「Remote Camera Control」(181ページ)を使って、パソコンから撮影指示を出したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする機能。

MENU →  (セットアップ) → [PCリモート設定] → [静止画の保存先] → 希望の設定を選ぶ。

PCのみ：パソコンのみに静止画を保存する。

PC+カメラ本体：パソコンとカメラの両方に静止画を保存する。

■ ご注意

- PCリモート撮影中は、[静止画の保存先]の設定値変更はできません。撮影開始前に設定を行ってください。
- 記録できないメモリーカードをカメラに挿入しているときは、[PC+カメラ本体]を選んでも静止画を撮影できません。
- [PC+カメラ本体]選択時、カメラにメモリーカードが挿入されていない場合は、[メモリーカードなしシリーズ]が[許可]になっていてもシャッターは切れません。
- PCリモート撮影中は、[記録モード]が[標準]に固定され、変更することはできません。
- カメラ側で静止画を再生している間は、PCリモートによる撮影はできません。

■ RAW+J時のPC保存画像

PCリモート撮影中に、パソコンに転送する画像ファイルを設定します。PCリモートで静止画を撮影したとき、パソコン側のアプリケーションは、撮影した画像の転送が終了するまで画像を表示しません。RAW+JPEG撮影を行うとき、RAWとJPEG両方をパソコンへ転送するのではなく、JPEGのみを転送することでパソコン側での表示スピードを上げることができます。

* PCリモートとは：「Remote Camera Control」(181ページ)を使って、パソコンから撮影指示を出したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする機能。

MENU →  (セットアップ) → **[PCリモート設定]** → **[RAW+J時のPC保存画像]** → 希望の設定を選ぶ。

RAW+JPEG：RAWとJPEGをパソコンに転送する。

JPEGのみ：JPEGのみパソコンに転送する。

RAWのみ：RAWのみパソコンに転送する。

ご注意

- [RAW+J時のPC保存画像]は[画質]の設定が[RAW+JPEG]のときのみ設定できません。
- PCリモート撮影中は、[記録モード]が[標準]に固定され、変更することはできません。

カメラを初期設定に戻す

設定リセット

お買い上げ時の設定に戻します。[設定リセット]を実行しても、画像は削除されません。

MENU →  (セットアップ) → [設定リセット] → **希望の設定を選ぶ。**

撮影設定リセット：主な撮影モードの設定のみを初期値に戻す。

初期化：カメラのすべての設定を初期化する。

ご注意

- 設定リセット中はバッテリーを抜かないでください。
- [AF微調整]で設定した値は、[撮影設定リセット]、[初期化]のいずれを行った場合もリセットされません。

ワイヤレス機能を使う

Wi-Fi/NFCワンタッチ/Bluetooth機能を使う

本機のWi-Fi/NFCワンタッチ/Bluetooth機能を使って、以下のようなことができます。

詳しい操作方法は、ヘルプガイド(3ページ)または別紙の「Wi-Fi/NFCワンタッチ機能ガイド」をご覧ください。

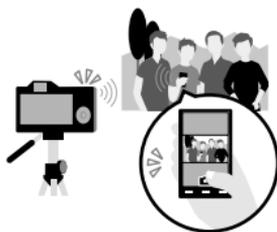
パソコンに画像を保存する



スマートフォンに画像を転送する



スマートフォンをカメラのリモコンとして使う



テレビで静止画を鑑賞する



スマートフォンの位置情報を画像に記録する

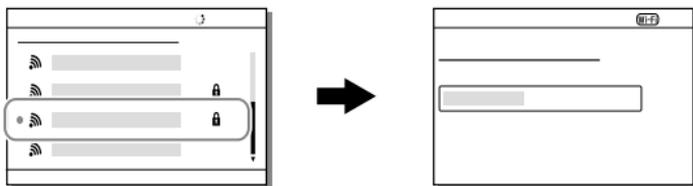


カメラを無線アクセスポイントに接続する

お使いの無線アクセスポイントに本機を接続します。お使いの無線アクセスポイントのSSID（アクセスポイントの名称）とパスワードをお手元に準備して操作してください。

1 MENU →  (ワイヤレス) → [Wi-Fi設定] → [アクセスポイント手動登録]を選ぶ。

2 マルチセレクターの上/下で、接続したい無線アクセスポイントを選び、中央を押して無線アクセスポイントのパスワードを入力 → [OK]を選ぶ。



ご注意

- 接続できない場合は、無線アクセスポイントの説明書を参照いただくか、管理されている方にお問い合わせください。
パソコンに画像を保存する場合は、お使いのパソコンに専用のソフトウェアをインストールしてください。

Windowsをお使いの方：PlayMemories Home
<http://www.sony.net/pm/>

Macをお使いの方：Wireless Auto Import（ワイヤレス自動取り込み）
<http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/>

画像に位置情報を記録する

PlayMemories Mobileアプリを使って、Bluetooth通信で接続(ペアリング)しているスマートフォンから位置情報を取得して、画像撮影時に位置情報を記録します。

事前準備

カメラの位置情報連動機能を使用するためには、PlayMemories Mobileアプリが必要です。

PlayMemories Mobileアプリのトップ画面に「位置情報連動」が表示されていない場合は下記の事前準備が必要となります。

1 お使いのスマートフォンにPlayMemories Mobileアプリをインストールする。

- PlayMemories Mobileアプリは、お使いのスマートフォンのアプリケーションストアからインストールしてください。すでにインストール済みの場合は、最新版にアップデートしてください。

2 カメラの[スマートフォン転送]を使って、あらかじめ撮影した画像をスマートフォンに転送する。

- 詳しい操作は、ヘルプガイド、または別紙の「Wi-Fi/NFCワンタッチ機能ガイド」の「スマートフォン/タブレットに画像を転送する(NFCワンタッチシェアリング対応)」をご覧ください。
- カメラで撮影した画像をスマートフォンに転送すると、PlayMemories Mobileアプリのトップ画面に「位置情報連動」が表示されるようになります。

実際の操作

- 1 スマートフォンのBluetooth機能が有効になっていることを確認する。
 - ここでは、Bluetooth機能のペアリング操作は不要です。
- 2 カメラで、MENU →  (ワイヤレス) → [Bluetooth設定] → [Bluetooth機能] → [入]を選ぶ。
- 3 カメラで、MENU →  (ワイヤレス) → [Bluetooth設定] → [ペアリング]を選ぶ。
- 4 スマートフォンでPlayMemories Mobileアプリを起動して、「位置情報連動」をタップする。
 - 「位置情報連動」が表示されていない場合は、事前準備を参照してください。
- 5 PlayMemories Mobileアプリの[位置情報連動]の設定画面で[位置情報連動]を有効にする。
- 6 PlayMemories Mobileアプリの[位置情報連動]の設定画面で指示に従って操作し、一覧からカメラを選ぶ。
- 7 カメラの画面にメッセージが表示されるので、[確認]を選択する。
 - カメラとPlayMemories Mobileアプリのペアリングが完了します。
- 8 カメラで、MENU →  (ワイヤレス) → [ 位置情報連動設定] → [位置情報連動]を[入]にする。
 - カメラに  (位置情報取得アイコン)が表示され、スマートフォンがGPSなどで取得した位置情報が撮影時に記録されます。

■ 位置情報取得時のアイコンについて

- 📍(位置情報取得)：位置情報を連動できています。
- 📍🚫(位置情報取得無効)：位置情報を連動できません。
- 📍📶(Bluetooth接続中)：スマートフォンとBluetooth接続されています。
- 📍🚫📶(Bluetooth未接続)：スマートフォンとBluetooth接続されていません。

ヒント

- ・スマートフォンの画面がOFFの場合でも、位置情報連動します。
- ・スマートフォンの再起動後などPlayMemories Mobileアプリが動作していない場合は、PlayMemories Mobileアプリを起動すると位置情報連動が再開します。
- ・ソフトウェアPlayMemories Homeを使うと、位置を記録した画像をパソコンに取り込んで地図と一緒に楽しむことができます。詳しくはPlayMemories Homeのヘルプをご覧ください。
- ・位置情報連動機能が正しく動作しないときは以下に従い、再度ペアリング操作を行ってください。
 - スマートフォンのBluetooth機能が有効になっていることを確認する。
 - カメラが他の機器とBluetooth接続中でないことを確認する。
 - カメラの[飛行機モード]が[切]になっていることを確認する(196ページ)。
 - PlayMemories Mobileアプリに登録されているカメラのペアリング情報を削除する。
 - カメラの[ネットワーク設定リセット]を実行する。

ご注意

- ・カメラを初期化するとペアリング情報も削除されます。再度ペアリングするには、PlayMemories Mobileアプリに登録されているカメラのペアリング情報を削除してから、もう一度ペアリングしてください。
- ・Bluetooth接続が切断されたときなど位置情報が取得できない場合、位置情報が記録されないことがあります。
- ・カメラはBluetooth機器を15台までペアリングできますが、同時に位置情報連動できるスマートフォンは1台のみです。ほかのスマートフォンと位置情報連動をする場合は、連動中のスマートフォンのPlayMemories Mobileアプリの[位置情報連動]をオフにしてください。
- ・Bluetooth通信が不安定な場合は、カメラとスマートフォンの間に人体や金属などの障害物がない状態で使用してください。

■ 対応するスマートフォン

Android端末：Android 5.0以降でBluetooth 4.0以降対応

iPhone/iPad：Bluetooth 4.0以降対応

本機とパソコンを接続する

USB接続方法を設定する

本機をパソコンなどとUSB接続するときの接続方法を設定します。

MENU →  (セットアップ) → **[USB接続]** → **希望の設定を選ぶ。**

オート：接続するパソコンやその他USB機器に応じて、マスタストレージとMTPを自動で切り換える。Windows 7またはWindows 8の場合にはMTPで接続され、特有の機能が使用できる。

マスタストレージ：本機とパソコン、その他USB機器と接続するときを使う。

MTP：本機とパソコン、その他USB機器をMTP接続する。Windows 7またはWindows 8の場合はMTP接続され、特有の機能が使用できる。

- スロット1内のメモリーカードが対象になります。

PCリモート：「Remote Camera Control」(181ページ)を使って、パソコンから撮影したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする。

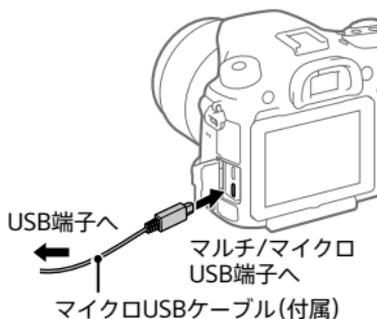
ご注意

- [USB接続]を[オート]に設定しているときは、接続に時間がかかる場合があります。
- Windows 7、Windows 8接続時にデバイスステージ*が表示されない場合、[USB接続]を[オート]に設定してください。
 - * 接続されたカメラなどを管理できるメニュー画面です (Windows 7またはWindows 8の機能)。

パソコンと接続する

- 1 十分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター（別売）を使い本機とコンセントを接続する。
- 2 本機とパソコンの電源を入れる。
- 3  (セットアップ)の[USB接続]が[マストレージ]になっていることを確認する。
- 4 本機とパソコンを接続する。

- 初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。



パソコンとの接続を切断する

以下の操作を行いたいときは、1～2の手順をあらかじめ行ってください。

- マイクロUSBケーブルを抜く。
- メモリーカードを取り出す。
- 本機の電源を切る。

- 1 タスクトレイの  (ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す)をクリックする。

2 [ILCA-99M2の取り出し]をクリックする。

ご注意

- Mac使用時は、あらかじめメモリーカード、またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ&ドロップしてください。パソコンとの接続が切断されます。
- Windows 7、Windows 8使用時は、切断アイコンが出ない場合があります。その場合は前記の手順を行わずに切断できません。
- アクセスランプが点灯しているときは、マイクロUSBケーブルを抜かないでください。データが壊れることがあります。

パソコン用ソフトウェアの紹介

写真や動画をより楽しむために、以下のパソコン用ソフトウェアを提供しています。パソコンのインターネットブラウザで下記のURLにアクセスし、画面の指示に従ってダウンロードしてご利用ください。すでにインストール済みの場合も、最新版にアップデートしてご利用ください。

Windows :

<http://www.sony.co.jp/imsoft/Win/>

Mac :

<http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/>

それぞれのソフトウェアの推奨パソコン環境は、以下のURLよりご確認ください。
<http://www.sony.net/pcenv/>

PlayMemories Home

撮影した静止画、動画を、パソコンに取り込んで閲覧や活用ができます。XAVC S動画やAVCHD動画をパソコンに取り込む場合は、PlayMemories Homeが必要です。以下のURLからダウンロードページに直接アクセスできます。

<http://www.sony.net/pm/>

- 本機とパソコンを接続すると、PlayMemories Homeに機能が追加される場合があります。すでにPlayMemories Homeがインストールされている場合でも、本機とパソコンを一度接続することをおすすめします。

Image Data Converter

RAW画像を現像し、トーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集したりすることができます。

Remote Camera Control

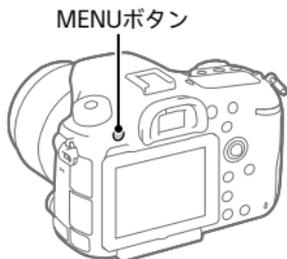
USBケーブルで本機と接続したパソコンから本機の設定をしたり撮影するなどのコントロールができます。

Remote Camera Controlを使うには、USBケーブルで本機をパソコンに接続する前に、MENU →  (セットアップ) → [USB接続] → [PCリモート]を選んでください。

MENUの使いかた

撮影、再生、操作方法など、カメラ全体に関する設定を変更したり、カメラの機能を実行します。

1 MENUボタンを押して、メニュー画面を表示する。



2 マルチセレクターの上/下/左/右で設定したい項目を選び、中央を押す。

- 画面上部のアイコンを選んでマルチセレクターの左/右を押すと他のメニューへ移動できます。



3 設定値を選択して、中央を押して決定する。

MENU一覧

各MENU項目についての詳細は、一番右の列に書かれているページまたはヘルプガイドをご覧ください。

📷1 (撮影設定1)

画質/画像サイズ		
📷 画質	静止画の画質を設定する。 (RAW / RAW+JPEG / エクストラファイン / ファイン / スタンダード)	80
📷 RAW記録方式	RAW画像の記録方式を選択する。 (圧縮 / 非圧縮)	ヘルプ ガイド
📷 画像サイズ	静止画のサイズを選択する。 (L : 42M / M : 18M / S : 11M (3 : 2の とき) L : 36M / M : 15M / S : 8.9M (16 : 9の とき) L : 18M / M : 11M / S : 4.5M (APS-C サイズ、3 : 2のとき) L : 15M / M : 8.9M / S : 3.8M (APS-C サイズ、16 : 9のとき))	79
📷 横縦比	静止画の横縦比を選択する。 (3 : 2 / 16 : 9)	80
APS-C/Super 35mm	静止画撮影時はAPS-Cサイズ相当、動画 撮影時はSuper 35mm相当のサイズで 記録するかどうかを設定する。 (入 / オート / 切)	81
パノラマ : 画像サイズ	パノラマ画像のサイズを選択する。 (標準 / ワイド)	ヘルプ ガイド
パノラマ : 撮影方向	パノラマの撮影方向を設定する。 (右 / 左 / 上 / 下)	ヘルプ ガイド

 長秒時NR	シャッタースピードを1秒以上にした場合のノイズ軽減処理を設定する。 (入 / 切)	116
 高感度NR	高感度撮影した場合のノイズ軽減処理を設定する。 (標準 / 弱 / 切)	117
 色空間	再現できる色の範囲を変更する。 (sRGB / AdobeRGB)	111
レンズ補正	レンズ補正の種類を選ぶ。 (周辺光量補正 / 倍率色収差補正 / 歪曲収差補正)	ヘルプ ガイド
撮影モード/ドライブ		
ドライブモード	連続撮影などの撮影方法を設定する。 (1枚撮影 / 連続撮影 / セルフタイマー / セルフタイマー (連続) / 連続ブラケット / 1枚ブラケット / ホワイトバランスブラケット / DROブラケット)	69
ブラケット設定	ブラケットモード時のセルフタイマー撮影や、露出ブラケット/ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定する。 (ブラケット時のセルフタイマー / ブラケット順序)	78
 1 /  2の呼び出し	[[ 1 /  2の登録]であらかじめ登録した設定を呼び出す。 (1 / 2 / 3 / M1 ~ M4)	90
 1 /  2の登録	好みのモード、カメラの設定を登録する。 (1 / 2 / 3 / M1 ~ M4)	152
AF		
フォーカスモード	ピント合わせの方法を選ぶ。 (シングルAF / AF制御自動切り換え / コンティニューアスAF / DMF / マニュアルフォーカス)	45

AF-S時の優先設定	[フォーカスモード]が[シングルAF]、[DMF]または[AF制御自動切り換え]で被写体が静止しているときに、シャッターが切れるタイミングを設定する。 (フォーカス優先 / リリーズ優先)	ヘルプ ガイド
AF-C時の優先設定	[フォーカスモード]が[コンティニユアスAF]または[AF制御自動切り換え]で被写体が動いているときに、シャッターが切れるタイミングを設定する。 (フォーカス優先 / リリーズ優先 / バランス重視)	ヘルプ ガイド
フォーカスエリア	ピント合わせの位置を選ぶ。 (ワイド / ゾーン / 中央 / フレキシブルスポット / 拡張フレキシブルスポット / ロックオンAF)	50
選択可能なフォーカスエリア	本機は最大399点のフォーカスエリアを使ったピント合わせが行えるが、使用するフォーカスエリア点数を手動で制限することができる。 (オート / クロス測距エリアのみ)	60
AFシステム	像面位相差AFセンサーと専用位相差AFセンサーを同時に使用する、ハイブリッド位相差検出AFシステムのフォーカス検出方式を設定する。 (オート / 専用位相差AFのみ)	64
フレキシブルスポット点数	[フォーカスエリア]の設定が[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]で任意のフォーカスエリアをすばやく選択したいときに、使用するフォーカスエリア点数を制限することができる。 (全て / 63点 / 15点)	61

 AF補助光	暗所でピントを合わせるための補助光を発光する。 (オート / 切)	59
中央ボタン押しロックオンAF	撮影画面で中央ボタンを押したとき、被写体を追尾してピントを合わせ続ける機能を設定する。 (切 / 入)	58
 AF駆動速度	静止画撮影時、オートフォーカスのピント合わせ速度を選ぶことができる。 (高速 / 低速)	ヘルプ ガイド
 AF被写体追従感度	静止画撮影時、オートフォーカスの追従感度を選ぶことができる。 (5 (敏感) / 4 / 3 (標準) / 2 / 1 (粘る))	ヘルプ ガイド
 シャッター半押しAF	シャッターボタンを半押ししたときに、オートフォーカスによるピント合わせを行うかどうかを設定する。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効。 (入 / 切)	ヘルプ ガイド
 アイスタートAF	電子ビューファインダーをのぞくとオートフォーカスするかどうかを設定する。 (入 / 切)	ヘルプ ガイド
 AFレンジコントロールアシスト	AFレンジコントロール中に被写体が設定距離範囲内にあるかどうかを画面に表示するかを設定する。 (入 / 切)	ヘルプ ガイド
フォーカスエリア自動消灯	フォーカスエリア表示を常に表示するか、ピントが合ったあと一定時間経過後に非表示にするかを設定する。 (入 / 切)	ヘルプ ガイド
ワイドフォーカスエリア表示	[フォーカスエリア]を[ワイド]にしているときにフォーカスエリアを表示するかしないかを設定する。 (入 / 切)	ヘルプ ガイド

AF微調整	オートフォーカスでのピント位置を微調整する。 (AF微調整設定 / 調整値クリア / AFエリア：中央 W端 / AFエリア：中央 T端 / AFエリア：左上端 W端 / AFエリア：左上端 T端 / AFエリア：左下端 W端 / AFエリア：左下端 T端 / AFエリア：右上端 W端 / AFエリア：右上端 T端 / AFエリア：右下端 W端 / AFエリア：右下端 T端)	62
露出		
露出補正	画像全体の明るさを補正する。 (-5.0EV ~ +5.0EV)	93
ISO感度	ISO感度を設定する。 (ISO AUTO / ISO 50 ~ ISO 102400)	101
ISO AUTO低速限界	ISO AUTO時に、ISO感度が変わり始める低速側のシャッタースピードを設定する。 (より高速 / 高速 / 標準 / 低速 / より低速 / 1/8000 ~ 30")	102
測光モード	明るさを測る方法を選ぶ。 (マルチ / 中央重点 / スポット / 画面全体平均 / ハイライト重点)	94
スポット測光位置	[フォーカスエリア]が [フレキシブルスポット]または [拡張フレキシブルスポット]のときに、 スポット測光位置をフォーカスエリアに 連動させるかどうかを設定する。 (中央 / フォーカス位置連動)	95
露出値ステップ幅	シャッタースピード、絞り値、露出補正值 の設定幅を設定する。 (0.5段 / 0.3段)	ヘルプ ガイド

 シャッター半押しAEL	シャッターボタンを半押ししたときに、露出決定を行うかどうかを設定する。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに便利。 (オート / 入 / 切)	ヘルプガイド
露出基準調整	カメラの適正露出値の基準を、測光モードごとに調整することができる。  マルチ /  中央重点 /  スポット /  画面全体平均 /  ハイライト重点	ヘルプガイド
フラッシュ		
フラッシュモード	フラッシュの発光方式を設定する。 (発光禁止 / 自動発光 / 強制発光 / スローシンクロ / 後幕シンクロ / ワイヤレス)	120
調光補正	フラッシュの発光量を調整する。 (-3.0EV ~ +3.0EV)	121
露出補正の影響	露出補正値をフラッシュの調光に反映するかどうかを設定する。 (定常光+フラッシュ / 定常光のみ)	ヘルプガイド
調光モード	フラッシュの発光量を決める方法を設定する。 (ADI調光 / P-TTL調光)	123
赤目軽減発光	フラッシュ撮影時、目が赤くなるのを軽減する。 (入 / 切)	ヘルプガイド
色/WB/画像処理		
ホワイトバランス	撮影場所の光の状況に合わせて画像の色合いを調整する。 (オート / 太陽光 / 日陰 / 曇天 / 電球 / 蛍光灯 : 温白色 / 蛍光灯 : 白色 / 蛍光灯 : 昼白色 / 蛍光灯 : 昼光色 / フラッシュ / 水中オート / 色温度・カラーフィルター / カスタム1 ~ 3 / カスタムセット)	106

AWB時の優先設定	[ホワイトバランス]が[オート]のとき、白熱電球などの光源下で優先する色味を設定する。 (標準 / 曇田気優先 / ホワイト優先)	ヘルプ ガイド
DRO/オートHDR	明るさ、コントラストを自動補正する。 (切 / Dレンジオブティマイザー / オートHDR)	98、 99
クリエイティブスタイル	お好みの画像の仕上がりを選ぶ。 コントラスト、彩度、シャープネスの調整もできる。 (スタンダード / ビビッド / ニュートラル / クリア / ディープ / ライト / ポートレート / 風景 / 夕景 / 夜景 / 紅葉 / 白黒 / セピア / スタイルボックス1～6)	108
ピクチャーエフェクト	好みの効果を使って、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できる。 (切 / トイカメラ / ポップカラー / ポスタリゼーション / レトロフォト / ソフトハイキー / パートカラー / ハイコントラストモノクロ / リッチトーンモノクロ)	ヘルプ ガイド
ピクチャープロファイル	撮影する画像の発色、階調などの設定を細かく変更できる。 (切 / PP1～PP9) *映像クリエイター向けの機能です。	ヘルプ ガイド
ピント補助		
ピント拡大	撮影前の画像を拡大してピントの確認ができる。	66
ピント拡大時間	拡大表示する時間を設定する。 (2秒 / 5秒 / 無制限)	ヘルプ ガイド

 ピント拡大初期倍率	[ピント拡大]を使って画像を拡大するときに、最初に表示する倍率を設定する。 (×1.0 / ×7.8 (フルサイズのと き)) (×1.0 / ×5.1 (APS-Cサイズのと き))	ヘルプ ガイド
ピーキングレベル	マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定された色で強調表示する設定をする。 (高 / 中 / 低 / 切)	68
ピーキング色	輪郭を強調表示するピーキング表示の色を設定する。 (レッド / イエロー / ホワイト)	ヘルプ ガイド
顔検出/撮影補助		
 フリッカーレス撮影	蛍光灯などの人工光源の点滅によるちらつき(フリッカー)を検知し、フリッカーによる影響が少ないタイミングで静止画を撮影する。 (切 / 入)	112
顔検出	カメラが人物の顔を判別し、人物にあわせて、ピントや露出、画像処理、フラッシュの調整をする。 (切 / 入(登録顔優先) / 入)	118
個人顔登録	優先してピントを合わせる人物の登録・編集を行う。 (新規登録 / 優先順序変更 / 削除 / 全て削除)	ヘルプ ガイド

📷 2 (撮影設定2)

動画		
動画/スロー&クイックモーション	動画やスロー&クイックモーション撮影時の露出モードを設定できる。 (📷P プログラムオート / 📷A 絞り優先 / 📷S シャッタースピード優先 / 📷M マニュアル露出 / S&Q P プログラムオート / S&Q A 絞り優先 / S&Q S シャッタースピード優先 / S&Q M マニュアル露出)	91
📷 記録方式	動画を記録するときの記録方式を設定する。 (XAVC S 4K / XAVC S HD / AVCHD / MP4)	129
📷 記録設定	動画のサイズを選択する。 (30p 100M / 30p 60M / 24p 100M / 24p 60M (XAVC S 4Kのとき) 60p 50M / 30p 50M / 24p 50M / 120p 60M / 120p 100M (XAVC S HDのとき) 60i 24M (FX) / 60i 17M (FH) / 60p 28M (PS) / 24p 24M (FX) / 24p 17M (FH) (AVCHDのとき) 1920×1080 60p 28M / 1920×1080 30p 16M / 1280×720 30p 6M (MP4のとき))	130
S&Q スロー&クイック設定	スローモーション&クイックモーション撮影の設定をする。 (S&Q 記録設定 / S&Q フレームレート)	132
同時ビデオ記録	XAVC S動画またはAVCHD動画と、MP4動画が同時に記録できる。 (入 / 切)	ヘルプガイド

AF被写体追従感度	動画撮影時、オートフォーカスの追従感度を設定する。 (敏感 / 標準 / 粘る)	ヘルプ ガイド
オートスローシャッター	動画撮影時、被写体が暗いときに自動でシャッタースピードを遅くするかどうかを設定する。 (入 / 切)	ヘルプ ガイド
音声記録	動画撮影時、音声記録を行うかどうかを設定する。 (入 / 切)	134
録音レベル	録音レベルを調整する。 (0 ~ 31)	134
音声レベル表示	音声レベルを画面に表示するかどうかを選ぶ。 (入 / 切)	ヘルプ ガイド
音声出力タイミング	動画撮影時の音声出力のタイミングを設定する。 (ライブ / リップシンク)	ヘルプ ガイド
風音低減	動画撮影時、風音を低減する。 (入 / 切)	ヘルプ ガイド
マーカー表示	動画撮影時に、モニターにマーカーを表示するかを設定する。 (入 / 切)	135
マーカー設定	動画撮影時に表示されるマーカーを設定する。 (センター / アスペクト / セーフティゾーン / ガイドフレーム)	135
ビデオライトモード	LEDライトHVL-LBPC (別売)の点灯方式を設定する。 (電源連動 / 録画連動 / 録画連動+STBY点灯 / オート)	ヘルプ ガイド
シャッター / 手ブレ補正		
電子先幕シャッター	電子先幕シャッター機能を使用するかどうかを設定する。 (入 / 切)	113

レンズなしリリース	レンズが装着されていない状態でシャッターが切れるかどうかを設定する。 (許可 / 禁止)	ヘルプ ガイド
メモリーカードなしリリース	メモリーカードが入っていない状態でシャッターが切れるかどうかを設定する。 (許可 / 禁止)	ヘルプ ガイド
手ブレ補正	撮影時の手ブレ補正を設定する。 (入 / 切)	114
手ブレ補正設定	手ブレ補正の設定をする。 (手ブレ補正調整 / 手ブレ補正焦点距離)	114
ズーム		
ズーム	光学ズーム以外のズームの倍率を設定する。	104
ズーム設定	全画素超解像ズーム、デジタルズームを使用するかどうかを設定する。 (光学ズームのみ / 入：全画素超解像ズーム / 入：デジタルズーム)	105
表示/オートレビュー		
DISPボタン	DISPボタンを押してモニターやファインダーに表示する情報の種別を設定する。 (背面モニター / ファインダー)	32
FINDER/MONITOR	電子ビューファインダーとモニターの表示切り換え方法を設定する。 (オート / マニュアル)	157
ゼブラ	明るさ調整の目安になるしま表示を設定する。 (切 / 70 ~ 100 / 100+ / カスタム1 / カスタム2)	97
グリッドライン	構図を合わせるための線を表示する。 (3分割 / 方眼 / 対角+方眼 / 切)	ヘルプ ガイド

露出設定ガイド	撮影画面で露出設定を変更したときに表示するガイドの設定をする。 (切 / 入)	ヘルプ ガイド
ライブビュー表示	モニターの表示に、露出補正などの設定値を反映するかどうかを設定する。 (設定効果反映On / 設定効果反映Off)	ヘルプ ガイド
オートレビュー	撮影したあと、撮った画像を表示するオートレビューの設定をする。 (10秒 / 5秒 / 2秒 / 切)	155
操作カスタム		
カスタムキー (撮影)	あらかじめキーに機能を設定しておく、撮影時にキーを押すだけで設定しておいた機能を実行できる。 (フロントマルチコントローラー / フロントマルチコントローラー / カスタムボタ1 / カスタムボタ2 / 中央ボタ/AELボタ / AF/MFボタ / ボタ(スマートテレコンバーターボタ) / ISOボタ / 露出補正ボタ / ホワイトバランスボタ / ドライブモードボタ / プレビューボタ / フォーカスホールドボタ*) * レンズのフォーカスホールドボタの機能を設定します。	153
カスタムキー (再生)	あらかじめキーに機能を設定しておく、再生時にキーを押すだけで設定しておいた機能を実行できる。 (カスタムボタ2 / Fn/ ボタ / ボタ (スマートテレコンバーターボタ) / ISOボタ / 露出補正ボタ / ホワイトバランスボタ / ドライブモードボタ / プレビューボタ)	153

ファンクションメニュー設定	Fn (ファンクション) ボタンで表示する機能をカスタマイズする。	154
ダイヤルの設定	撮影モードがMのとき、前ダイヤルと後ダイヤルに、シャッタースピードと絞り値のどちらを割り当てるか設定する。 ( シャッター  絞り /  絞り  シャッター)	ヘルプガイド
ダイヤル露出補正	前ダイヤルまたは後ダイヤルで露出補正ができるように設定する。 (切 /  前ダイヤル /  後ダイヤル)	ヘルプガイド
MOVIE (動画) ボタン	MOVIE ボタンの有効/無効を設定する。 (常に有効 / 動画モードのみ有効)	ヘルプガイド
ダイヤルロック	Fn ボタンを長押しして、前ダイヤル/後ダイヤルをロックするかどうかを設定する。 (入 / 切)	ヘルプガイド
電子音	ピントが合ったときや、セルフタイマー操作時の電子音の有無を設定する。 (入 / 切)	ヘルプガイド

(ワイヤレス)

スマートフォン転送	スマートフォンに画像を表示、転送する。 (カメラから選ぶ / スマートフォンから選ぶ)	ヘルプガイド
パソコン保存	本機の画像をネットワークにつながれたパソコンに転送し、バックアップをとる。	ヘルプガイド
テレビ鑑賞	ネットワークにつながれたテレビで画像を見る。	ヘルプガイド

スマートフォン操作設定	スマートフォンで本機を遠隔操作して、静止画/動画を撮影する。撮影した静止画/動画はスマートフォンに保存することもできる。 (スマートフォン操作 /  接続情報)	ヘルプ ガイド
飛行機モード	飛行機などに搭乗するとき、Wi-Fi/NFC/Bluetooth機能を使用する設定を一時的にすべて無効にする。 (入 / 切)	ヘルプ ガイド
Wi-Fi設定	Wi-Fiアクセスポイントの登録や、接続情報の確認と変更を行う。 (アクセスポイント簡単登録 / アクセスポイント手動登録 / MACアドレス表示 / SSID・PWリセット)	ヘルプ ガイド
Bluetooth設定	本機とスマートフォンをBluetooth接続するための設定をする。 (Bluetooth機能 / ペ어링 / 機器アドレス表示)	174
 位置情報連動設定	ペ어링したスマートフォンの位置情報を取得して、画像に位置情報を記録する。 (位置情報連動 / 自動時刻補正 / 自動エリア補正)	173
機器名称変更	Wi-Fi Directなどの機器名称を変更する。	ヘルプ ガイド
ネットワーク設定リセット	すべてのネットワーク設定をリセットする。	ヘルプ ガイド

(再生)

削除	画像を削除する。 (画像選択 / このフォルダーの全画像 / この日付の全画像)	147
----	---	-----

ビューモード	画像を日付ごとや静止画/動画のフォルダーごとに再生する。 (日付ビュー / フォルダービュー (静止画) / フォルダービュー (MP4) / AVCHDビュー / XAVC S HDビュー / XAVC S 4Kビュー)	143
一覧表示	画像を一覧表示する。 (9枚 / 25枚)	142
記録画像の回転表示	縦向きで記録した静止画の再生方法を設定する。 (オート / マニュアル / 切)	140
再生メディア選択	再生するメモリーカードのスロットを選ぶ。 (スロット1 / スロット2)	144
コピー	[再生メディア選択] で選ばれているメモリーカードから、もう一方のスロットに入っているメモリーカードに画像をコピーできる。	144
スライドショー	画像を連続再生する。 (リピート / 間隔設定)	145
回転	画像を回転する。	ヘルプ ガイド
⊕ 拡大	再生画像を拡大表示する。	139
⊕ 拡大の初期倍率	画像を再生し拡大表示する (再生ズーム) ときの、拡大の初期倍率を選ぶ。 (標準の倍率 / 前回の倍率)	ヘルプ ガイド
⊕ 拡大の初期位置	画像を再生し拡大表示する (再生ズーム) ときの、拡大の初期位置を選ぶ。 (ピント位置 / 画面中央)	ヘルプ ガイド

プロテクト	画像を誤って消さないように保護(プロテクト)する。 (画像選択 / このフォルダーの全画像 / この日付の全画像 / このフォルダーを全て解除 / この日付を全て解除)	146
プリント指定	メモリーカードの画像にプリント予約マークを付ける。 (画像選択 / 全画像解除 / 印刷設定)	ヘルプガイド
動画から静止画作成	動画から希望のシーンを切り出して、静止画として保存する。	142

(セットアップ)

モニター明るさ	モニターの明るさを設定する。 (オート / マニュアル / 屋外晴天)	ヘルプガイド
ファインダー明るさ	電子ビューファインダー使用時、電子ビューファインダーの明るさを設定する。 (オート / マニュアル)	ヘルプガイド
ファインダー色温度	ファインダーの色温度を設定する。	ヘルプガイド
ガンマ表示アシスト	S-Logを適用した動画を表示するときに、モニタリングをしやすいように通常のガンマと同等のコントラストを再現する。 (切 / オート / S-Log2 → 709(800%) / S-Log3 → 709 (800%))	ヘルプガイド
音量設定	動画再生時の音量を設定する。	ヘルプガイド
アップロード設定	市販のEye-Fiカードを使うときのアップロード通信設定をする。 (入 / 切)	ヘルプガイド

削除確認画面	削除の確認画面で、「削除」と「キャンセル」のどちらを選択された状態にするかを設定する。 (「削除」が先 / 「キャンセル」が先)	ヘルプ ガイド
表示画質	表示画質を設定する。 (高画質 / 標準)	ヘルプ ガイド
パワーセーブ開始時間	省電力モード(パワーセーブ)になるまでの時間を設定する。 (30分 / 5分 / 2分 / 1分 / 10秒)	163
クリーニングモード	イメージセンサーをクリーニングする。	219
デモモード	動画のデモンストレーションの入/切を設定する。 (入 / 切)	ヘルプ ガイド
TC/UB設定	タイムコード(TC)とユーザービット(UB)の設定をする。 (TC/UB表示設定 / TC Preset / UB Preset / TC Format / TC Run / TC Make / UB Time Rec) * 映像クリエイター向けの機能です。	ヘルプ ガイド
リモコン	赤外線リモコンを使用する/しないを設定する。 (入 / 切)	163
HDMI設定	HDMIに関する設定を行う。 (HDMI解像度 / [設定] 24p/60p出力切換 / HDMI情報表示 / [設定] TC出力 / [設定] レックコントロール/HDMI機器制御)	164
[設定] 4K映像の出力先	本機を4K対応の外部録画再生機器などと接続するときに、どのように記録、HDMI出力するかを設定する。 (メモリーカード+HDMI / HDMIのみ(30p) / HDMIのみ(24p))	136

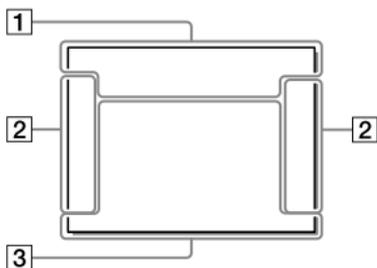
USB接続	接続するパソコンやUSB機器に合わせて設定する。 (オート / マスストレージ / MTP / PCリモート)	177
USB LUN設定	USB接続の機能を制限して互換性を高める。通常は[マルチ]のまま使い、どうしても接続できない場合のみ、[シングル]に設定する。 (マルチ / シングル)	ヘルプ ガイド
PCリモート設定	PCリモート撮影の設定をする。 (静止画の保存先 / RAW+J時のPC保存画像)	168
日時設定	時計、日付の設定をする。	39
エリア設定	本機を使用する場所に適した時刻に設定する。	ヘルプ ガイド
著作権情報	撮影する静止画の著作権情報を設定する。 (著作権情報書き込み / 撮影者名設定 / 著作権者名設定 / 著作権情報表示)	ヘルプ ガイド
フォーマット	メモリーカードをフォーマット(初期化)する。	159
ファイル番号	ファイル番号の付けかたを設定する。 (連番 / リセット)	160
ファイル名設定	撮影する静止画のファイル名の先頭3文字を変更する。	160
記録メディア選択	記録するメモリーカードのスロットを選ぶ。 (スロット1 / スロット2)	36、 ヘルプ ガイド
記録モード	2つのメモリーカードスロットに対して、どのように画像を記録するかを設定する。 (標準 / 同時記録 ( のみ) / 同時記録 ( のみ) / 同時記録 ( / ) / 振り分け (JPEG/RAW) / 振り分け ( / )	161

記録フォルダー選択	静止画と動画(MP4)を記録するフォルダーを設定する。	162
フォルダー新規作成	静止画と動画(MP4)を記録する新しいフォルダーを作成する。	ヘルプガイド
フォルダー形式	静止画を記録するフォルダーの形式を設定する。 (標準形式 / 日付形式)	ヘルプガイド
管理ファイル修復	画像の管理ファイル修復を行い、記録・再生できるようにする。	ヘルプガイド
メディア残量表示	現在撮影可能な動画の時間と静止画の枚数を表示する。	ヘルプガイド
バージョン表示	本機のソフトウェアのバージョンを表示する。	ヘルプガイド
認証マーク表示	本機が対応している認証情報を表示する(表示されるのは認証情報の一部のみになります)。	ヘルプガイド
設定リセット	設定をお買い上げ時の設定に戻す。すべての設定を初期値に戻す場合は、[初期化]を選ぶ。 (撮影設定リセット / 初期化)	170

モニターに表示されるアイコン一覧

表示内容や表示位置は目安であり、実際とは異なる場合があります。

モニター撮影用



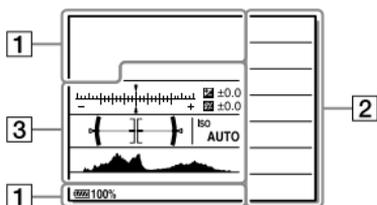
再生時

基本情報画面

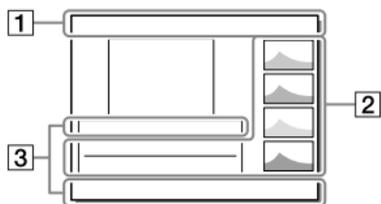


ファインダー撮影用

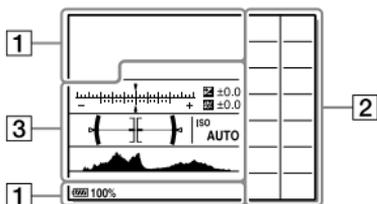
[おまかせオート]時



ヒストグラム画面



P/A/S/M/スイングパンorama時



1

表示	意味
	撮影モード (83)
	登録番号 (152)
	シーン認識マーク (84)
	メモリーカード (36、224) / アップロード (198)
100	撮影可能枚数 (225)
3:2 16:9	静止画の画像横縦比 (80)
42M 36M 18M 15M 11M 8.9M 4.5M 3.8M WIDE STD	静止画の画像サイズ (79)
RAW RAW+J RAW RAW+J X.FINE FINE STD	静止画の画質 (80)
120p 60p 60i 30p 24p	動画のフレームレート (130)

表示	意味
	動画の記録設定 (130)
	Bluetooth接続中/未接続 (174)
	スマートフォン接続中/未接続
	バッテリー容量 (34)
	バッテリー残量警告
	フラッシュ充電表示 (119)
	APS-C/Super 35mm (81)
VIEW	設定効果反映Off (194)
	NFC有効 (171)
	飛行機モード (196)
Flicker	フリッカー (ちらつき) 検知 (112)
	動画音声記録オフ (134)
	風音低減オン (192)
	手ブレ補正オフ/オン、手ブレ警告 (114)
	手ブレ補正焦点距離/手ブレ警告 (114)
	位置情報取得中/位置情報無効 (173)
	温度上昇警告 (218)

表示	意味
	管理ファイルフル警告(218) / 管理ファイルエラー警告(218)
	スマートズーム/ 全画素超解像ズーム/ デジタルズーム (103)
	ビューモード(143)
100-0003	フォルダー番号— ファイル番号(160)
	プロテクト(146)
XAVC S 4K XAVC S HD AVCHD MP4	動画の記録方式 (129)
DPOF	DPOF (プリント)指 定(198)
	同時ビデオ記録 (191)
-PC-	PCリモート(168)
	ブライツモニタリング (158)
	著作権情報書き込み オン(200)

表示	意味
Assist Assist L5-Log2 L5-Log3	ガンマ表示アシスト (198)
120fps 60fps 30fps 15fps 8fps 4fps 2fps 1fps	スロー / クイックモー ション撮影時のフ レームレート(132)
	データ書き込み中/書 き込み残り枚数 (138)

2

表示	意味
	ドライブモード (69)
	フラッシュモード (120) / 赤目軽減 (188)
±0.0	調光補正(121)
AF-S AF-A AF-C MF DMF	フォーカスモード (45)
	フォーカスエリア (50)

表示	意味
	測光モード ^o (94)
35mm	レンズ焦点距離
AWB	ホワイトバランス (オート、プリセット、 水中オート、カスタム、 色温度、カラーフィル ター) (106)
7500K A5 G5	
	DLレンジ最適マイゼー (98) / オートHDR (99)
	クリエイティブスタイル (108) / コントラスト、 彩度、シャープネス
+3 +3 +3	
	ピクチャーエフェクト (189)
©	著作権情報あり (200)
	顔検出 (118)
Anti-Flicker ON / Anti-Flicker OFF	フリッカーレス撮影 (112)
	再生メディア選択 (144)

3

表示	意味
●ロックオン AF	ロックオンAF用ガイド 表示 (58)
	ブラケットインジケー ター (76)
	露出補正 (93) / メー タードマニュアル (88)
STBY	動画の録画スタンバイ
REC 1:00:12	動画の撮影実時間 (時 : 分 : 秒)
	フォーカス (46)
1/250	シャッタースピード
F3.5	絞り値
ISO400 ISO AUTO	ISO感度 (101)
	露出設定ガイド (194)
	AEロック (96) / FEL ロック (121)
	シャッタースピードイ ンジケーター (32)
	絞りインジケーター (32)
	ヒストグラム (31)
	位置情報 (173)
90°44'55" N 233°44'55" W	緯度・経度情報 (173)
	水準器 (33)

表示	意味
	音声レベル(192)
	DRO (98) /オートHDR/オートHDR画像警告(99)
	ピクチャーエフェクトエラー
2016 - 1 - 1 10:37AM	撮影日時(39)
3/7	画像番号/ビューモード内画像枚数
	レックコントロール(199)
	スポット測光サークル(94)
	スマートテレコンバーター(19)
00:00:00:00	タイムコード(時:分:秒:フレーム)(199)
00 00 00 00	ユーザービット(199)

表示パネルの表示

シャッタースピードと絞り、露出補正、調光補正、ISO、ホワイトバランス、ドライブモードなどは上面の表示パネルを見ながら設定できます。



シャッタースピード/ 絞り	125 f5.6	露出補正 (93) / 調光補正 (121)	+1.0
ISO感度 (101)	ISO 1600	ホワイトバランス (106)	000
ドライブモード (69) /リモコン (163)	07 3	画質 (80)	FINE
バッテリー容量 (34)	99%	撮影可能枚数 (225) *	1000

* 9,999枚より多いときでも、表示パネルには「9999」と表示されます。

■表示パネルのバックライトをつけるには

上面の☀️(表示パネル照明) ボタンを押します。もう一度押すと消えます。

☀️(表示パネル照明) ボタン



困ったときにすること

困ったときは、下記の流れに従ってください。

① 209～215ページの項目をチェックし、本機を点検する。

② バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

③ ヘルプガイド(3ページ)を確認する。

④ 設定リセットをする(170ページ)。

⑤ **α**専用サポートサイトで確認する。

http://www.sony.jp/support/r/ichigan/repair_service/



⑥ 相談窓口で電話で問い合わせる。

バッテリー・電源

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。電源が入らない。

- 温度が極端に高い、または低いところで使用しているときの現象です。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください。
- バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。
- バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください(35ページ)。

電源が切れる。

- 本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために、自動的に電源が切れることがあります。この場合は、電源が切れる前にモニターにメッセージが表示されます。

電池の消耗が早い。

- [リモコン]が[入]になっているときは、パワーセーブ機能が動きません。リモコン使用後は[切]にしてください(163ページ)。

バッテリー充電中、充電ランプが点滅する。

- バッテリーはNP-FM500Hのみ使用できます。NP-FM500Hかどうか確認してください。
- バッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを取り付けてください(36ページ)。
- 1年以上使用していないバッテリーは劣化の可能性があります。
- 充電に適した範囲外にあるため、充電の一時待機状態になっています。バッテリーの充電は周囲温度が10℃~30℃の環境で行うことをおすすめします。

撮影する

シャッターが切れない。

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。
- メモリーカードの空き容量を確認してください。
- レンズが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください(38ページ)。
- 本機を天体望遠鏡などに取り付けた場合は、[レンズなしリリース]を[許可]にして撮影してください(193ページ)。
- [メモリーカードなしリリース]を[許可]にしてください(193ページ)。ただし、本機にメモリーカードを入れていない状態では、画像は記録されません。
- セルフタイマーになっている。

撮影に時間がかかる。

- ノイズ軽減処理機能が働いています。故障ではありません。
- RAWモードで撮影しています。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいため、撮影に多少時間がかかる場合があります。
- オートHDR処理中です。

同じ画像が数枚撮影される。

- ドライブモードが連続撮影、またはブラケット撮影になっています。[1枚撮影]にしてください(69ページ)。

ピント(フォーカス)が合わない。

- 被写体が近すぎます。レンズの最短撮影距離を確認してください。
- マニュアルフォーカスになっている。[フォーカスモード]を[マニュアルフォーカス]以外にしてください(45ページ)。
- 光量が不足している。

画像が白っぽくなる(フレア)。

光のにじみが現れる(ゴースト)。

- 強い光源にカメラを向けるとレンズに余分な光が入ることで画像が白っぽくなったり(フレア)、光のにじみが現れたり(ゴースト)することがありますが故障ではありません。

ズームレンズ使用時は、レンズフードを取り付けてください。また強い光源に向けないように構図を工夫して撮影してください。

画像の隅が暗くなる。

- フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取りはずしてお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画像にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画像周辺部が暗く写る場合(光量低下)があります。この場合は[周辺光量補正](184ページ)で補正することができます。
-

被写体の目が赤く写る。

- [赤目軽減発光]を[入]にしてください(188ページ)。
 - 被写体に近づいてフラッシュ調光距離内で撮影してください。
-

画像がブレる。

- 暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こしています。暗いところでの撮影はシャッタースピードが遅くなるので、三脚またはフラッシュの使用をおすすめします(119ページ)。
 - [手ブレ補正]が[入]になっているか、確認してください(114ページ)。
 - [手ブレ補正調整]を[マニュアル]でご使用している場合、正しい焦点距離が設定されているか確認してください(114ページ)。
-

音声为正しく記録されない。

- 録音レベルを調節して音量を最低に絞ると、音声は記録されません。
 - 録音レベルを調節して音量を最大にすると、音声が割れやすくなります。
-

電源オン状態で、本体が振動する。

- 本体内手ブレ補正機構のため、イメージセンサーが上下左右に動きます。故障ではありません。
-

電源オフ状態で、本体を振ると音や振動を感じる。

- 手ブレ補正のイメージセンサーシフト機構が動くためです。故障ではありません。

画像を見る

再生できない。

- パソコンでフォルダー / ファイルの名前を変更したためです。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- パソコン内の画像を本機で再生するにはPlayMemories Homeを使って画像をコピーしてください。
- USBモードになっています。USB接続を終了してください(178ページ)。

画像を削除する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除してください。

誤って消してしまった。

- 一度削除した画像は元に戻せません。誤消去を防止したい画像には、あらかじめプロテクトをかけてください(146ページ)。

パソコン

最新サポート情報は、**α**専用サポートサイトをご覧ください。

<http://www.sony.jp/support/ichigan/>

対応しているOSがわからない。

- ソフトウェアのパソコン環境は以下のURLよりご確認ください。
<http://www.sony.net/pcenv/>

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認してください。
- バッテリー残量が少ないときは、充電されたバッテリーを取り付けてください。
- 接続には、付属のマイクロUSBケーブルを使ってください。
- 一度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込んでください。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずしてください。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続してください。

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続してください(178ページ)。
- OSに対応した手順でコピーしてください。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットしたメモリーカードで撮影してください(159ページ)。

画像を再生できない。

- PlayMemories Homeをお使いの場合はPlayMemories Homeのヘルプをご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

USB接続をしたときにPlayMemories Homeが自動起動しない。

- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください。

プリントする

プリントできない。

- RAW画像はプリントできません。RAW画像をプリントするには、Image Data ConverterでJPEG画像に変換してください。

画像の色合いがおかしい。

- AdobeRGBで撮影した画像を、AdobeRGBに対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります(111ページ)。

両端が切れてプリントされる。

- プリンターによっては、画像の上下左右が切れることがあります。特に横縦比が[16 : 9]のときは、左右が大きく切れることがあります。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなしプリント機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

その他

電源を入れると、[エリア/日付/時刻を設定してください]というメッセージが表示される。

- バッテリーが消耗したまま、または本機のバッテリーを取り出したまま放置したため、日時の設定が失われました。バッテリーを充電して、日時を再設定してください(39ページ)。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があるため、相談窓口にお問い合わせください。

撮影残り画像数が減らなかつたり、一度に2枚減つたりする。

- JPEG画像の場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変わるためです。

リセット操作をしていないのに、設定内容がリセットされる。

- 電源スイッチが「ON」のままバッテリーを取り出すと、設定内容がリセットされることがあります。バッテリーを取り出すときは、電源スイッチを「OFF」にして、アクセスランプが点灯していないのを確かめてから取り出してください(19、36ページ)。

本機が正常に作動しない。

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。
温度が上がっているときには、いったんバッテリーを取りはずし、本機の温度が下がってからこれらの処置を行ってください。
- 別売のACアダプター使用時は、一度コードを抜いて、電源を入れ直してください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い上げ店または相談窓口にお問い合わせください。

画面に「--E-」が表示される。

- メモリーカードを一度取り出し、入れ直してください(37ページ)。それでも直らない場合は、メモリーカードをフォーマットしてください(159ページ)。

警告表示

エリア/日付/時刻を設定してください

- エリアと日付、時刻を設定してください。長時間使用していない場合は内蔵の充電式バックアップ電池を充電してください。
-

電池が少ないので実行できません

- イメージセンサーのクリーニングを実行しようとしたが、バッテリー残量が少ないので実行できません。バッテリーを充電するか、別売のACアダプターを使用してください。
-

このメモリーカードは使えません フォーマットしますか？

- パソコンでフォーマットを行ったため、ファイルシステムが変更されています。[実行]を選んでフォーマットを行ってください。本機で使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて削除されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。それでもメッセージが出る場合は、カードを交換してください。
-

メモリーカードエラー

- 本機では使えないカードが入っています。
 - フォーマットに失敗しています。再度フォーマットを実行してください(159ページ)。
-

メモリーカードが正しく読めません メモリーカードを入れ直してください

- 本機では使えないメモリーカードが入っています。
 - メモリーカードが壊れています。
 - メモリーカードの端子が汚れています。
-

メモリーカードがロックされています

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。

メモリーカードが入っていないのでシャッターが切れません

- [記録メディア選択]で選択されたスロットにメモリーカードが入っていません。
- 本機にメモリーカードを入れずにシャッターを切る場合は、[メモリーカードなしリリース]を[許可]にしてください(193ページ)。その際、画像は保存されません。

このメモリーカードは正常に記録・再生できない可能性があります

- 本機では使えないメモリーカードが入っています。

ノイズリダクション実行中

- ノイズリダクションが機能した場合、ノイズ軽減処理を行います。この間は次の撮影はできません。

表示できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがあります。
- パソコンで画像の削除などを行うと、管理ファイルに不整合が発生する場合があります。管理ファイルの修復を行ってください(201ページ)。

レンズを認識できません 正しく装着してください

- レンズが取り付けられていない、または正しく装着されていません。レンズが付いているのにメッセージが表示される場合は、一度レンズをはずし、再度取り付けてください(39ページ)。また頻繁にメッセージが表示される場合は、レンズとカメラの接点端子に汚れがないかご確認ください。
- 天体望遠鏡などにカメラを取り付ける場合は、[レンズなしリリース]を[許可]にしてください(193ページ)。

DPOF指定できません

- RAW画像をDPOF指定しようとしています。

しばらく使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください

- 連続撮影したため、本機の温度が上がっています。本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。

[I]

- 長時間撮影したため、本機の温度が上がっています。撮影を終了してください。

この動画記録方式では撮影できません

- [**MP4**記録方式]を[MP4]にしてください(129ページ)。



- 本機で日付を管理できる枚数を越えています。



- 本機の管理ファイルへの記録ができません。PlayMemories Homeで、すべての画像をパソコンに取り込み、メモリーカードを修復してください。

管理ファイルエラー

- 管理ファイルに何らかの異常が発生しています。[セットアップ]から[管理ファイル修復]を行ってください(201ページ)。

システムエラー

カメラエラー 電源を入れなおしてください

- バッテリーを一度取り出し、入れ直してください。何度も繰り返す場合は相談窓口にお問い合わせください。

管理ファイルに不整合が見つかりました 修復しますか？

- 管理ファイルが破損しているため、AVCHD動画の撮影、再生ができません。画面の指示に従い修復してください。

拡大できません

回転できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像は、拡大/回転できないことがあります。

これ以上フォルダー作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダーがメモリーカード内にあります。本機でこれ以上のフォルダーを作成できません。

イメージセンサーをクリーニングする

本機内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（光を電気信号に変える部分）に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。付着した場合は、以下の手順でイメージセンサーの清掃を行ってください。

1 バッテリー容量が充分にあることを確認する。

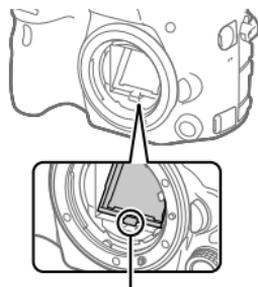
2 MENU →  (セットアップ) → [クリーニングモード] → [実行]を選ぶ。

イメージセンサーが短時間振動して、ゴミをふるい落とします。

3 画面の指示に従い、本機の電源を切る。

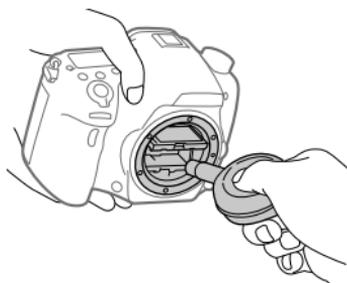
4 レンズをはずす。

5 ミラーロックレバーを指先で押し、ミラーを跳ね上げる。

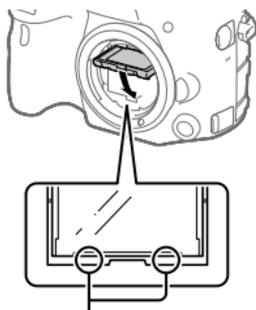


ミラーロックレバー

6 ブロアーでイメージセンサー表面と、その周辺のほこりを吹き飛ばす。



7 清掃終了後、カチッと音がするまで指でミラーを押し下げる。



どちらか一方を押して下げる。

8 レンズを取り付ける。

- レンズを取り付ける際には、ミラーが確実に下がっていることを確認する。

ご注意

- 清掃はすみやかに行ってください。
- ブロアーは、付属していません。市販のブロアーを使用してください。
- バッテリー残量が  (残量が3個) 以上でないと、クリーニングモードは起動しません。
- スプレー式のブロアーは、水滴が本機内部に飛び散るので使用しないでください。
- ブロアーの先端がイメージセンサーに当たらないように、マウントより中に入れてください。
- ほこりが下に落ちやすいよう、本機をやや下向きにしてください。
- クリーニング中にカメラに衝撃を与えないでください。
- 適度な風量でクリーニングしてください。風量が強すぎると内部を傷めることがあります。

- 清掃終了後、レンズを取り付ける際には、ミラーが確実に下がっていることを確認してください。レンズを傷つけたり、故障につながる場合があります。また、ミラーが下がり切っていないと、撮影の際、オートフォーカスでピント合わせができなくなります。
- ミラーを上げた状態のまま撮影することはできません。
- この手順でクリーニングを行ってもほこりが取れない場合は、相談窓口にお問い合わせください。

保証書とアフターサービス

■必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

■保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

■アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

“困ったときは”の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときは相談窓口にご相談ください(裏表紙)。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はカメラの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後7年間保有しています。ただし、故障の状況、その他の事情により、修理に代えて製品を交換する場合がありますので、ご了承ください。

主な仕様

バッテリーの使用時間と撮影可能枚数

		使用時間	枚数
静止画撮影	モニターモード時	—	約490枚
	ファインダーモード時	—	約390枚
実動画撮影	モニターモード時	約85分	—
	ファインダーモード時	約85分	—
連続動画撮影	モニターモード時	約135分	—
	ファインダーモード時	約135分	—

- 使用時間や撮影枚数は満充電された状態での目安です。使用方法によって時間や枚数は減少する場合があります。
- 使用時間や撮影可能枚数は以下の条件で撮影した場合です。
 - 温度が25℃
 - 28-75mm F2.8 SAMレンズ(別売)使用時
 - 当社製のSDXCメモリーカードUHSスピードクラス3 (U3) (別売)使用時
 - [ファインダー明るさ]: [マニュアル][±0]
 - [モニター明るさ]: [マニュアル][±0]
 - [表示画質]: [高画質]
- 静止画撮影時の数値は、CIPA規格により、以下の条件で撮影した場合です。(CIPA: カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association)
 - DISP: [全情報表示]
 - [フォーカスモード]: [AF制御自動切り換え]
 - 30秒ごとに1回撮影
 - 10回に一度、電源を入/切する
- 動画撮影時の数値はCIPA規格により、以下の条件で撮影した場合です。
 - 動画画質: XAVC S HD 60p 50M
 - 実動画撮影: 撮影、ズーム、撮影スタンバイ、電源入/切を繰り返す。
 - 連続動画撮影: 連続撮影の制限(29分)により撮影が終了したときは、再度MOVIE (動画) ボタンを押して撮影を続ける。ズームなどのその他の操作はしない。

本機で使用できるメモリーカード

以下の一覧を参考にして、使用するメモリーカードを選んでください。
静止画撮影、または動画撮影で使用できるメモリーカードを○で表しています。

メモリースティック マイクロ、microSDメモリーカードを本機でお使いの場合は、必ず専用のアダプターに入れてお使いください。

対応メモリーカード	静止画	動画		
		MP4	AVCHD	XAVC S
メモリースティック PRO デュオ	○	○ (Mark2のみ)	○ (Mark2のみ)	—
メモリースティック PRO-HG デュオ™	○	○	○	○*1
メモリースティック マ イクロ™ (M2)	○	○ (Mark2のみ)	○ (Mark2のみ)	—
SDメモリーカード	○	○*2	○*2	—
SDHCメモリーカード	○	○*2	○*2	○*3
SDXCメモリーカード	○	○*2	○*2	○*3
microSDメモリーカー ド	○	○*2	○*2	—
microSDHCメモリー カード	○	○*2	○*2	○*3
microSDXCメモリー カード	○	○*2	○*2	○*3

*1 100 Mbps以上で記録することはできません。

*2 SDスピードクラス4 (CLASS④)以上、またはUHSスピードクラス1 (U1)以上

*3 SDスピードクラス10 (CLASS⑩)、またはUHSスピードクラス1 (U1)以上
100 Mbps以上で記録する場合は、UHSスピードクラス3 (U3)が必要です。

ご注意

- メモリスティックは、スロット2では使用できません。
- SDHCメモリーカードにXAVC Sで長時間撮影した場合は、4GBのファイルに分割されます。PlayMemories Homeでパソコンに取り込むことで、1つのファイルとして扱うことができます。
- 以下の設定でスロット1とスロット2の両方のメモリーカードに動画を記録するときは、ファイルシステムが同じメモリーカードを両スロットに挿入してください。XAVC S動画の同時記録時は、ファイルシステムexFATとFAT32の組み合わせで記録することはできません。
 - [**単**]記録方式]が[XAVC S 4K]または[XAVC S HD]
 - [記録モード]が[同時記録(**単**のみ)]または[同時記録(**双**/**単**)]

メモリーカード	ファイルシステム
SDXCメモリーカード	exFAT
メモリスティック PRO デュオ (Mark2)、 メモリスティック PRO-HG デュオ、 SDHCメモリーカード	FAT32

静止画の記録可能枚数

メモリーカードを入れて電源スイッチを「ON」にすると、画面に、撮影可能枚数(現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるか)が表示されます。

ご注意

- 撮影可能枚数が「0」でオレンジ色に点滅したときは、メモリーカードの容量がいっぱいです。メモリーカードを交換するか、メモリーカード内の画像を削除してください。
- 「NO CARD」がオレンジ色で点滅したときは、メモリーカードが入っていません。メモリーカードを入れてください。

■1枚のメモリーカードで撮影できる枚数

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる撮影枚数の目安は次のとおりです。当社試験基準メモリーカード使用時の枚数です。撮影状況および使用するメモリーカードによって記録可能枚数は異なります。

[画像サイズ] : [L : 42M]

[横縦比] が [3 : 2] のとき*

(単位 : 枚)

画質	8GB	16GB	32GB	64GB
スタンダード	770	1550	3100	6200
ファイン	520	1000	2100	4200
エクストラファイン	270	540	1050	2150
RAW+JPEG (圧縮RAW)	130	260	520	1050
RAW (圧縮RAW)	170	350	700	1400
RAW+JPEG (非圧縮RAW)	75	150	300	600
RAW (非圧縮RAW)	88	175	355	710

* [横縦比] を [3 : 2] 以外に設定しているときは、上記の枚数より多く記録できません (RAW設定時は除く)。

ご注意

- 静止画の記録可能枚数が9999枚より多いときでも、「9999」と表示されます。
- 他機で撮影した画像を再生すると、実際の画像サイズと異なって表示される場合があります。
- 記載の枚数は、当社製メモリーカード使用時の枚数です。

動画の記録可能時間

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる、動画ファイルを合計したときの最大記録可能時間の目安です。記録時間は、撮影状況および使用するメモリーカードによって異なる場合があります。

[記録方式] が [XAVC S 4K]、[XAVC S HD]、[AVCHD] の数値は、[同時ビデオ記録] を [切] にして使用したときの数値です。

記録方式	記録設定	8GB	16GB	32GB	64GB
XAVC S 4K	30p 100M	9分	15分	35分	1時間15分
	30p 60M	15分	30分	1時間	2時間5分
	24p 100M	9分	15分	35分	1時間15分
	24p 60M	15分	30分	1時間	2時間5分
XAVC S HD	120p 100M	9分	15分	35分	1時間15分
	120p 60M	15分	30分	1時間	2時間5分
	60p 50M	15分	35分	1時間15分	2時間35分
	30p 50M	15分	35分	1時間15分	2時間35分
	24p 50M	15分	35分	1時間15分	2時間35分
AVCHD	60i 24M (FX)	40分	1時間25分	3時間	6時間
	60i 17M (FH)	55分	2時間	4時間5分	8時間15分
	60p 28M (PS)	35分	1時間15分	2時間30分	5時間5分
	24p 24M (FX)	40分	1時間25分	3時間	6時間
	24p 17M (FH)	55分	2時間	4時間5分	8時間15分
MP4	1920×1080 60p 28M	35分	1時間15分	2時間35分	5時間20分
	1920×1080 30p 16M	1時間	2時間	4時間10分	8時間25分
	1280×720 30p 6M	2時間35分	5時間20分	10時間55分	22時間

- 連続撮影可能時間は1回の撮影で約29分です(商品仕様による制限)。ただし、以下の場合は連続撮影可能時間が異なります。
 - 記録方式の設定をMP4 (28M)にした場合：約20分(ファイルサイズ4GBによる制限)
 - スローモーション/クイックモーション撮影時：記録ファイルが約29分(再生時の長さが約29分)になると撮影は自動で終了します。
([S&Q 記録設定]が[60p]、[S&Q フレームレート]が[30fps]の場合は、記録ファイルが約15分になると撮影は自動で終了します。)
- スローモーション/クイックモーション撮影時の時間は、再生時の時間です。撮影時に記録できる時間ではありません。

ご注意

- 撮影シーンに合わせて動画の画質を自動調節するVBR (Variable Bit-Rate)方式を採用しているため記録時間が変動します。動きの速い映像を記録する場合、メモリーの容量を多めに使用してより鮮明な画像を記録しますが、その分記録時間は短くなります。また、撮影環境や被写体の状態、画質/画像サイズの設定によっても記録時間は変動します。
- 記載の時間は、当社製メモリーカード使用時の時間です。

動画の連続撮影についてのご注意

- イメージセンサーを使った高精彩な動画や高速で連写を行うには多くの電力を必要とします。そのため連続して撮影し続けることでカメラ内部、特にイメージセンサーの温度が上昇します。温度の上昇は画質への影響やカメラ内部に対して負荷が生じるので自動的に電源が切れる仕様となっています。
- しばらく電源を切った状態から出荷時設定で撮影を開始した場合、下記の連続動画撮影が可能です(記録開始から停止するまでの時間です)。

環境温度	連続動画撮影時間(HD)	連続動画撮影時間(4K)
20°C	約29分	約29分
30°C	約29分	約29分
40°C	約29分	約29分

HD : XAVC S HD (60p 50M)

4K : XAVC S 4K (Super 35 mm設定、60 Mbps)

- 連続動画撮影時間は温度環境や動画の記録方式・記録設定、動画撮影前の使用状況により変動します。カメラの電源を入れ、構図確認や静止画撮影を繰り返し使用していた場合には、カメラ内部の温度が上昇しますので、連続動画撮影時間は短くなります。
- [I]**が表示された場合は動画撮影を終了してください。
- 温度の上昇により動画撮影が停止した場合、電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度が下がってから撮影を再開してください。
- 以下の点に気を付けると、より長く動画を撮影することができます。
 - できるだけ直射日光を避ける
 - 使用しないときはこまめに電源を切る
- [H]**記録方式が[AVCHD]の場合は、1つの動画ファイルは約2GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約2GBになると、自動的に新しいファイルが作成されます。

- [**記録方式**]が[MP4]の場合は、1つの動画ファイルは約4GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約4GBになると、自動的に記録が止まります。

主な仕様

本体

[形式]

カメラタイプ
レンズ交換式デジタルカメラ

使用レンズ

ソニー Aマウントレンズ*
*DTレンズ使用時は自動的にAPS-Cサイズ撮影になります。

[撮像部]

撮像素子

35 mmフルサイズ (35.9 mm×24.0 mm)、CMOSイメージセンサー

カメラ有効画素数

約42 400 000画素

総画素数

約43 600 000画素

[手ブレ補正]

形式

イメージセンサーシフト方式

[アンチダスト]

システム

帯電防止コートとイメージセンサーシフト駆動の併用

[オートフォーカス]

検出方式

TTL位相差検出方式

検出素子

検出素子 1 : CCDラインセンサー
検出素子 2 : 像面位相差センサー

測距点数

検出素子 1 : 79点 (クロスタイプ15点、中央1点はF2.8光束対応)
検出素子 2 : 399点 (任意選択323点、ハイブリッドクロス測距点79点*)
*ハイブリッド位相差検出AF動作時

検出輝度範囲

検出素子1: 中央EV-4 ~ EV+18 (ISO100相当、F2.8)

[ファインダー]

形式

電子式ビューファインダー

総ドット数

2 359 296ドット

視野率

100%

倍率

約0.78倍 (50 mmレンズ、無限遠、視度-1 m⁻¹時)

アイポイント (CIPA準拠)

最終光学面から約23 mm、接眼枠から約18.5 mm (視度-1 m⁻¹時)

視度調整

-4.0 m⁻¹ ~ +3.0 m⁻¹

[モニター]

液晶モニター

7.5 cm (3.0型) TFT駆動

ドット数

1 228 800 (640×4 (RGBW)×480)

ドット

[露出制御]

測光方式

1200分割ライブビュー分析測光

測光範囲

EV-2 ~ EV+17 (ISO100相当、F1.4レンズ使用)

ISO感度(推奨露光指数)

静止画撮影時:ISO100 ~ 25600 (拡張: 下限ISO50、上限ISO102400)、オート (ISO100 ~ 6400、上限/下限設定可能)
動画撮影時:ISO100 ~ 25600相当、オート (ISO100 ~ 6400相当、上限/下限設定可能)

露出補正

±5.0EV (1/3、1/2EVステップ切り換え可能)

[シャッター]

形式

電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター

シャッタースピード範囲

静止画撮影時: 1/8000 ~ 30秒、バルブ
動画撮影時: 1/8000 ~ 1/4秒(1/3段ステップ)、AUTO時は1/60秒まで(オートスローシャッター1/30秒まで)

フラッシュ同調速度

1/250秒(ソニー製フラッシュ装着時)

[連続撮影]

連続撮影速度

 Hi+: 毎秒最高約12枚/

 Hi: 毎秒最高約8枚

• 弊社測定条件による。撮影条件によっては連続撮影の速度が遅くなります。

連続撮影枚数

 Hi+: エクストラファイン60枚

 Hi: エクストラファイン65枚

[記録方式]

静止画記録方式

JPEG (DCF Ver.2.0、Exif Ver.2.31、MPF Baseline)準拠、RAW (ソニーARW 2.3フォーマット)

動画記録方式(XAVC S方式)

MPEG-4 AVC/H.264 XAVC S ver.1.0規格準拠

映像: MPEG-4 AVC/H.264

音声: LPCM 2ch (48kHz 16bit)

動画記録方式(AVCHD方式)

AVCHD規格 Ver.2.0準拠

映像: MPEG-4 AVC/H.264

音声: Dolby Digital 2ch

ドルビーデジタルステレオクリエイター搭載

• ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

動画記録方式(MP4方式)

映像: MPEG-4 AVC/H.264

音声: MPEG-4 AAC-LC 2ch

[記録メディア]

メモリースティック、SDカード
• 詳細は「本機で使用できるメモリーカード」(224ページ)をご参照ください。

[スロット]**SLOT1**

メモリースティック PRO デュオ、SD (UHS-I対応)カード用マルチスロット

SLOT2

SD (UHS-I対応)カード用スロット
2メモリーカード間のオペレーション

[入/出力端子]**マルチ/マイクロUSB端子***

USB通信 Hi-Speed USB (USB 2.0)
* この端子にはマイクロUSB規格に対応した機器をつなぐことができます

HDMI端子

HDMIタイプD マイクロ端子

● (マイク)端子

Ø 3.5 mmステレオミニジャック

○ (ヘッドホン)端子

Ø 3.5 mmステレオミニジャック

REMOTE端子**[電源]****バッテリー**

リチャージャブルバッテリーパック
NP-FM500H

消費電力(撮影時)

28-75mm F2.8 SAM使用時
ファインダー使用時: 約3.6 W
モニター使用時: 約2.9 W

[その他]

マイクロホン
ステレオ
スピーカー
モノラル

Exif Print
対応

DPOF
対応

PRINT Image Matching III
対応

外形寸法

約142.6 mm×104.2 mm×76.1 mm
(幅×高さ×奥行き、突起部を除く)

本体質量

約849 g (バッテリー、メモリースティック PRO デュオを含む)
約770 g (本体のみ)

動作温度

0°C～40°C

保存温度

-20°C～+60°C

[ワイヤレスLAN]**対応規格**

IEEE 802.11 b/g/n

使用周波数帯

2.4 GHz帯

セキュリティ

WEP/WPA-PSK/WPA2-PSK

接続方式

Wi-Fi Protected Setup™ (WPS) / マニュアル

アクセス方式

インフラストラクチャーモード

[NFC]

タグタイプ

NFCフォーラム Type 3 Tag準拠

[Bluetooth通信]

Bluetooth®標準規格Ver. 4.1

使用周波数帯

2.4 GHz帯

Model No. WW067022

バッテリーチャージャー BC-VM10A

定格入力

AC100 V ~ 240 V、50 Hz/60 Hz、
9 W

定格出力

DC 8.4 V、750 mA

リチャージャブルバッテ リーパック NP-FM500H

公称電圧

DC 7.2 V

本機や付属品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

画像の互換性について

- 本機は、(社)電子情報技術産業協会 (JEITA)にて制定された統一規格“Design rule for Camera File system” (DCF)に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

商標について

- メモリスティックおよび  はソニー株式会社の商標または登録商標です。
- XAVC Sおよび **XAVC S** はソニー株式会社の登録商標です。
- AVCHD ProgressiveおよびAVCHD Progressiveロゴは、パナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。
- Macは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- iOSは、シスコの登録商標または商標です。
- iPadは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- Blu-ray Disc™およびBlu-ray™はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。
- AOSSは、株式会社バッファローの商標です。
- DLNAおよびDLNA CERTIFIEDはDigital Living Network Allianceの商標です。
- Dolby, ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
- Eye-Fiは、Eye-Fi, Incの商標です。

- HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。
- Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。
- Facebook、「f」ロゴはFacebook, Inc.の商標または登録商標です。
- FeliCaプラットフォームマークは、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- Android、Google PlayはGoogle Inc.の登録商標または商標です。
- YouTubeおよびYouTubeロゴは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- Wi-Fi、Wi-Fiロゴ、Wi-Fi Protected SetupはWi-Fi Allianceの登録商標または商標です。
- NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。
- Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- 「おサイフケータイ」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していない場合があります。



■ GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）または、GNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェアが含まれております。お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。ソースコードは、Webで提供してまいります。ダウンロードするには、以下のURLにアクセスしてください。
<http://oss.sony.net/Products/Linux/>
 なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

ライセンス内容(英文)に関しては、本機の内蔵メモリー内に記録されています。本機とパソコンをMassStorage接続し、[PMHOME] - [LICENSE]内にあるファイルをご一読ください。

安全のために

→ 2ページもあわせてお読みください。



下記の注意事項を守らないと、**火災、大けがや死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理は相談窓口にご依頼ください。



分解禁止

内部に水や異物(金属類や燃えやすい物など)を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、相談窓口にご相談ください。



禁止

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、モニターを見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。



禁止

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。



禁止

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。



禁止

機器本体や付属品、メモリーカードは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池などの付属品やメモリーカードなどを飲み込むおそれがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。



禁止

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。



指示

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない



禁止

フラッシュ、AF補助光などの撮影補助光を至近距離で人に向けない

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。



禁止

カメラのファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ない

視力障害や失明の原因となります。



禁止



下記の注意事項を守らないと、**火災、大けがや死亡**にいたる危害が発生することがあります。

長時間、同じ持ち方で使用しない

使用中に本機が熱いと感じなくても皮膚の同じ場所が長時間触れたままの状態であると、赤くなったり水ぶくれができたりなど低温やけどの原因となる場合があります。

以下の場合には特にご注意ください、三脚などをご利用ください。

- 気温の高い環境でご使用になる場合。
- 血行の悪い方、皮膚感覚の弱い方などがご使用になる場合。



禁止

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。



ぬれ手禁止

フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を指・手袋などで覆ったまま発光しない。また、発光後もしばらくは発光部に手を触れないでください。やけど、発煙、故障の原因となります。



禁止

ワイヤレス機能ご使用上のご注意

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

航空機内ではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能の使用を中止する

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



指示



下記の注意事項を守らないと、けがや財産に損害を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。



禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブル、A/V接続ケーブルなどは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。



指示

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



禁止

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。



禁止

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

フラッシュ発光部を正常な位置に上げない状態で使用しない

指定外のアクセサリーを装着した場合や、撮影時のスタイル等で、フラッシュ発光部が上がりきらない状態で発光させると、火災の原因となることがあります。



禁止

レンズやモニターに衝撃を与えない

レンズやモニターはガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。



禁止

電池や付属品、メモリーカード、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

電池やメモリーカードなどが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。



指示

直射日光の当たる場所に放置しない

太陽光が近くのものに結像すると、火災の原因になります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。



禁止

つづき



下記の注意事項を守らないと、けがや財産に損害を与えることがあります。

ヘッドホンを使用する場合、大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

呼びかけられたら返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



本機について／使用上のご注意

⚠ 危険 電池についての
安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがや
やけど、火災などを避けるため、下記の注意事項
をよくお読みください。

⚠ 危険

- 乾電池型充電式電池・バッテリーパックは指定されたバッテリチャージャー以外で充電しない。
- 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。
- 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。
- 電池をコインやヘアピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体でぬらさない。ぬれた電池を充電したり、使用したりしない。



禁止

⚠ 警告

- 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。
- バッテリーパックが変形・破損した場合は使用しない。
- アルカリ電池/ニッケルマンガン電池は充電しない。
- 外装シールをはがしたり、傷つけたりしない。外装シールの一部または、すべてをはがしてある電池や破れのある電池は絶対に使用しない。



禁止

⚠ 注意

- 電池は、+、-を確かめ、正しく入れる。
- 電池を使い切ったときや、長期間使用しない場合は機器から取り出しておく。



指示

お願い



Li-ion

リチウムイオン電池

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、
一般社団法人JBRCホームページ
<http://www.jbrc.com/> を参照してください。

ア行

- アイコン一覧.....202
- アイスタートAF.....186
- 赤目軽減発光.....188
- アクセスポイント手動登録.....172
- アスペクト.....135
- アップロード設定.....198
- 後幕シンクロ.....120
- 位置情報.....173
- 位置情報取得.....173
- 位置情報連動設定.....173
- 一覧表示.....142
- イメージセンサー.....219
- 色温度・カラーフィルター.....106
- 色空間.....111
- 印刷.....198
- インデックス.....142
- エクストラファイン.....80
- エリア設定.....200
- オートHDR.....99
- オートスローシャッター.....192
- オートフォーカス.....48
- オートモード.....41
- オートレビュー.....155
- おまかせオート.....41, 84
- 主な仕様.....229
- 音声記録.....134
- 音声出カタイミング.....192
- 音声レベル表示.....192
- 音量設定.....141, 198
- ガイドフレーム.....136
- 顔検出.....118
- 拡大.....139
- 拡大の初期位置.....197
- 拡大の初期倍率.....197
- 拡張フレキシブルスポット.....50
- 画質.....80
- カスタムキー（再生）.....153
- カスタムキー（撮影）.....153
- カスタムセット.....107
- カスタムホワイトバランス.....107
- 画像サイズ.....79
- カメラ内ガイド.....3
- 画面全体平均.....94
- 画面表示.....30, 202
- 感度.....101
- ガンマ表示アシスト.....198
- 管理ファイル修復.....201
- 機器アドレス表示.....196
- 機器名称変更.....196
- 強制発光.....120
- 記録画像の回転表示.....140
- 記録可能時間.....226
- 記録可能枚数.....225
- 記録設定.....130
- 記録フォルダー選択.....162
- 記録方式.....129
- 記録メディア選択.....36, 200
- 記録モード.....161
- クイックナビ.....28
- クリア.....108
- クリーニングモード.....219
- クリエイティブスタイル.....108

カ行

- 回転.....197

グリッドライン.....	193	シャッター半押しAF.....	186
クロス測距エリア.....	48	充電.....	34
蛍光灯：昼光色.....	106	初期値.....	170
蛍光灯：昼白色.....	106	白黒.....	109
蛍光灯：白色.....	106	シングルAF.....	45
警告表示.....	216	シンクロターミナル.....	125
言語.....	12	水中オート.....	106
高感度NR.....	117	スイングパノラマ.....	83
紅葉.....	109	ズーム.....	103
個人顔登録.....	190	ズーム設定.....	193
コピー.....	144	ズーム倍率.....	105
コンティニユアスAF.....	46	スタイルボックス.....	109
コントラスト.....	110	スポット.....	94
サ行		スポット測光位置.....	95
再生.....	138, 196	スマートズーム.....	103
再生ズーム.....	139	スマートテレコンバーター.....	103
再生速度.....	133	スマートフォン操作設定.....	196
再生メディア選択.....	144	スマートフォン転送.....	195
彩度.....	110	スライドショー.....	145
削除.....	147	スロー&クイック設定.....	132
削除確認画面.....	199	スローシンクロ.....	120
撮影可能時間.....	226	静止画撮影.....	43
撮影可能枚数.....	225	静止画の保存先.....	168
撮影結果プレビュー.....	156	セーフティゾーン.....	135
撮影設定1.....	183	設定リセット.....	170
撮影設定2.....	191	セットアップ.....	198
シーン認識.....	84	セピア.....	109
自動発光.....	120	ゼブラ.....	97
視度調整.....	18	セルフタイマー.....	72
絞りプレビュー.....	155	セルフタイマー（連続）.....	73
絞り優先.....	86	全画素超解像ズーム.....	103, 104
シャープネス.....	110	センター.....	135
シャッタースピード優先.....	87	選択可能なフォーカスエリア.....	60
シャッター半押しAEL.....	188	専用位相差AFエリア.....	48
		操作音.....	195

像面位相差AFエリア.....	48	動画音声記録.....	134
ゾーン.....	50	動画から静止画作成.....	142
測光モード.....	94	動画記録設定.....	130
ソフトウェア.....	180	動画記録方式.....	129
タ行		動画/スロー&クイックモーション... ..	91
Dレンジオブティマイザー.....	98	動画の再生.....	140
対応メモリーカード.....	224	同時ビデオ記録.....	191
ダイヤルの設定.....	195	登録.....	152
ダイヤル露出補正.....	195	登録呼び出し.....	90
ダイヤルロック.....	195	時計合わせ.....	39
太陽光.....	106	ドライブモード.....	69
ダイレクトマニュアルフォーカス	46, 66	曇天.....	106
縦記録画像の再生.....	140	ナ行	
縦横比.....	80	日時設定.....	39
中央.....	50, 95	ニュートラル.....	108
中央重点.....	94	認証マーク表示.....	201
中央ボタン押しロックオンAF.....	58	ネットワーク設定リセット.....	196
超解像ズーム.....	104	ノイズリダクション.....	116
調光補正.....	121	ハ行	
調光モード.....	123	バージョン表示.....	201
長秒時NR.....	116	ハイブリッド位相差検出AFシステム	48, 51, 64
著作権情報.....	200	ハイブリッドクロス測距点.....	48
ディープ.....	108	ハイライト重点.....	94
デジタルズーム.....	103, 104	パソコン.....	177, 180
手ブレ補正.....	114	パソコン保存 (Wi-Fi).....	195
手ブレ補正設定.....	114	発光禁止.....	120
デモモード.....	199	パノラマ.....	83
テレビ鑑賞 (Wi-Fi).....	195	パノラマ：画像サイズ.....	183
テレビで見る.....	149	パノラマ：撮影方向.....	183
電球.....	106	バルブ撮影.....	89
電子音.....	195	パワーセーブ開始時間.....	163
電子先幕シャッター.....	113	ピーキング色.....	190
動画.....	91, 126	ピーキングレベル.....	68

日陰.....	106	フォルダー新規作成.....	201
ピクチャーエフェクト.....	189	ブライトモニタリング.....	158
ピクチャープロファイル.....	189	ブラケット設定.....	78
飛行機モード.....	196	フラッシュ.....	119
ヒストグラム.....	31	フラッシュブラケット.....	74
日付プリント.....	40	フラッシュモード.....	120
ビデオライトモード.....	192	ブラビアリンク.....	150
瞳AF.....	54	フリッカーレス撮影.....	112
ビビット.....	108	プリント指定.....	198
ビューモード.....	143	フレキシブルスポット.....	50
表示画質.....	199	フレキシブルスポット点数.....	61
ピント.....	45	プログラムオート.....	85
ピント拡大.....	66	プログラムシフト.....	85
ピント拡大時間.....	189	プロテクト.....	146
ピント拡大初期倍率.....	190	フロントマルチコントローラー.....	25
ファイル番号.....	160	ペアリング.....	174
ファイル名設定.....	160	ヘルプガイド.....	3
ファイン.....	80	ポートレート.....	108
ファインダー.....	30	ボリュウム.....	141, 198
ファインダー明るさ.....	198	ホワイトバランス.....	106
ファインダー色温度.....	198	ホワイトバランスブラケット.....	76
ファンクションボタン.....	19, 27		
ファンクションメニュー設定.....	154	マ行	
風音低減.....	192	マーカー設定.....	135
風景.....	108	マーカー表示.....	135
フォーカス.....	45	マストレージ.....	177
フォーカス位置連動.....	95	マニュアルフォーカス.....	46, 65
フォーカスエリア.....	50	マニュアル露出.....	88
フォーカスエリア自動消灯.....	186	マルチ.....	94
フォーカススタンダード.....	52	マルチセクター.....	25
フォーカス表示.....	46	メディア残量表示.....	201
フォーカスモード.....	45	メニュー.....	182
フォーカスロック.....	44	メニュー一覧.....	183
フォーマット.....	159	メモリーカード.....	36, 159, 224
フォルダー形式.....	201	メモリーカード+HDMI.....	136

メモリーカードなしシリーズ	193
モードダイヤル	83
モニター	30
モニター明るさ	198
モニター表示	202

ヤ行

夜景	108
夕景	108
横縦比	80

ラ行

ライト	108
ライブビュー表示	194
リモコン	163
レックコントロール	166
連写	70
レンズ	38
レンズなしシリーズ	193
レンズ補正	184
連続撮影	70
連続ブラケット	74
ロー画像	80, 81
録音レベル	134
露出基準調整	188
露出設定ガイド	194
露出値ステップ幅	187
露出補正	93
露出補正の影響	188
ロックオンAF	50

ワ行

ワイド	50
ワイドフォーカスエリア表示	186
ワイヤレス	195
ワイヤレスフラッシュ	124

ワンタッチ (NFC)	171
-------------	-----

数字/アルファベット順

1枚撮影	69
1枚ブラケット	75
4K映像の出力先	136
4K動画	128
24p/60p出力切替	165
A	86
AD調光	123
AdobeRGB	111
AEL	96
AELボタン	124
AEロック	96
AF	48
AF-A	45
AF-C	46
AF-C時の優先設定	185
AF/MFコントロール	53
AF-S	45
AF-S時の優先設定	185
AFオン	54
AF駆動速度	186
AFシステム	64
AF制御自動切り換え	45
AF被写体追従感度	186, 192
AF微調整	62
AF補助光	59
AFレンジコントロール	56
AFレンジコントロールアシスト	186
APS-C/Super 35mm	81
AVCHD	128, 129
AWB	106
AWB時の優先設定	189
Bluetooth機能	171, 174

Bluetooth設定	174	PlayMemories Home	180
BULB	89	P-TTL調光	123
DISP	30	RAW	80, 81
DISPボタン	32	RAW+JPEG	80
DMF	46, 66	RAW+J時のPC保存画像	169
DRO	98	RAW記録方式	183
DRO/オートHDR	98, 99	Remote Camera Control	181
DROブラケット	77	S	87
Eye-Fi	198	S&Q	132
FELロック	121	sRGB	111
FINDER/MONITOR	157	TC/UB設定	199
Fn	27	TC出力	166
HDMI解像度	164	USB	177
HDMI機器制御	167	USB LUN設定	178
HDMI情報表示	165	USB接続	177
HDMI設定	164	WB	106
HDMIのみ (24p)	136	Wi-Fi	11, 171
HDMIのみ (30p)	136	Wi-Fi設定	196
HDR	99	XAVC S	128
Image Data Converter	180	XAVC S 4K	129
ISO AUTO	101	XAVC S HD	129
ISO AUTO低速限界	102		
ISO感度	101		
M	88		
MENU	182		
MENUボタン	18, 182		
MF	46, 65		
MOVIE (動画)ボタン	19, 126, 195		
MP4	129		
MTP	177		
NFC	11, 171		
NR	116		
P	85		
PCリモート	177		
PCリモート設定	168		

